



大学院案内

RITSUMEIKAN GRADUATE SCHOOL GUIDE

2026

Futurize.

きみの意志が、未来。

立命館大学

立 命 館 憲 章

立命館は、西園寺公望を学祖とし、1900年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、『孟子』の「尽心章句」に由来し、立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。

立命館は、建学の精神を「自由と清新」とし、第2次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて、教学理念を「平和と民主主義」とした。

立命館は、時代と社会に真摯に向き合い、自主性を貫き、幾多の困難を乗り越えながら、広く内外の協力と支援を得て私立総合学園への道を歩んできた。

立命館は、アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する。

立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める。

立命館は、学園運営にあたって、私立の学園であることの特性を活かし、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、教職員と学生の参加、校友と父母の協力のもとに、社会連携を強め、学園の発展に努める。

立命館は、人類の未来を切り拓くために、学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類的諸課題の解明に邁進する。その教育にあたっては、建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める。

立命館は、この憲章の本旨を踏まえ、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する。

2006年7月21日 学校法人 立命館

Contents

立命館大学大学院 研究科の概要	02	食マネジメント研究科	30
Topic1 大学院生活	05	理工学研究科	31
Topic2 修了生からのメッセージ	09	生命科学研究科	32
Topic3 Faculty voice	10	薬学研究科	33
Topic4 キャリアパス形成支援	11	経営学研究科	34
Topic5 大学院生の進路・就職	13	政策科学研究科	35
Topic6 立命館の研究力	15	人間科学研究科	36
Topic7 立命館の国際性	17	映像研究科	37
社会人のみなさんへ	19	情報理工学研究科	38
研究科紹介		テクノロジー・マネジメント研究科	39
法学研究科	21	経営管理研究科[ビジネススクール]	40
社会学研究科	22	法務研究科[法科大学院]	41
国際関係研究科	23	教職研究科[教職大学院]	42
文学研究科	24	学費について	43
デザイン・アート学研究科(2026年4月設置構想中)	25	お問い合わせ先	46
言語教育情報研究科	26	大学院入試 出願の流れ	47
先端総合学術研究科[5年一貫制博士課程]	27	各キャンパスへのアクセス	49
経済学研究科	28	立命館大学大学院に関する情報の入手方法	50
スポーツ健康科学研究科	29		

立命館大学大学院 研究科の概要

(2025年3月現在)

衣笠
CAMPUS

法学研究科 Graduate School of Law	博士課程前期課程	法学専攻	修士(法学)	60名※
	博士課程後期課程	法学専攻	博士(法学)	10名
社会学研究科 Graduate School of Sociology	博士課程前期課程	応用社会学専攻	修士(社会学)	60名
	博士課程後期課程	応用社会学専攻	博士(社会学)	15名
国際関係研究科 Graduate School of International Relations	博士課程前期課程	国際関係学専攻	修士(国際関係学)	60名
	博士課程後期課程	国際関係学専攻	博士(国際関係学)	10名
文学研究科 Graduate School of Letters	博士課程前期課程	人文学専攻	修士(文学)	70名
		行動文化情報学専攻	修士(文学)	35名
	博士課程後期課程	人文学専攻	博士(文学)	20名
		行動文化情報学専攻	博士(文学)	15名
デザイン・アート学研究科 Graduate School of Science in Arts and Design (2026年4月設置構想中。設置計画は予定であり、内容は変更となる場合があります)	修士課程	デザイン・アート学専攻	修士(デザイン・アート学)	20名
言語教育情報研究科 Graduate School of Language Education and Information Science	修士課程	言語教育情報専攻	修士(言語教育情報学)	60名
先端総合学術研究科 Graduate School of Core Ethics and Frontier Sciences	一貫制博士課程	先端総合学術専攻	博士(学術)	30名

びわこ・くさつ
CAMPUS

経済学研究科 Graduate School of Economics	博士課程前期課程	経済学専攻	修士(経済学)	50名
	博士課程後期課程	経済学専攻	博士(経済学)	5名
スポーツ健康科学研究科 Graduate School of Sport and Health Science	博士課程前期課程	スポーツ健康科学専攻	修士(スポーツ健康科学)	25名
	博士課程後期課程	スポーツ健康科学専攻	博士(スポーツ健康科学)	8名
食マネジメント研究科 Graduate School of Gastronomy Management	博士課程前期課程	食マネジメント専攻	修士(食マネジメント)	20名
	博士課程後期課程	食マネジメント専攻	博士(食マネジメント)	3名
理工学研究科 Graduate School of Science and Engineering	博士課程前期課程	基礎理工学専攻	修士(理学)修士(工学)	50名※
		電子システム専攻	修士(工学)	140名※
		機械システム専攻	修士(工学)	140名※
		環境都市専攻※	修士(工学)	120名※
	博士課程後期課程	基礎理工学専攻	博士(理学)博士(工学)	6名
		電子システム専攻	博士(工学)	8名
		機械システム専攻	博士(工学)	11名
		環境都市専攻※	博士(工学)	15名
生命科学研究科 Graduate School of Life Sciences	博士課程前期課程	生命科学専攻	修士(理学)修士(工学)	150名
	博士課程後期課程	生命科学専攻	博士(理学)博士(工学)	15名
薬学研究科 Graduate School of Pharmacy	博士課程前期課程	薬科学専攻	修士(薬科学)	20名
	博士課程後期課程	薬科学専攻	博士(薬科学)	3名
	博士課程	薬学専攻	博士(薬学)	3名

大阪いばらき
CAMPUS

経営学研究科 Graduate School of Business Administration	博士課程前期課程	企業経営専攻	修士(経営学)	60名
	博士課程後期課程	企業経営専攻	博士(経営学)	15名
政策科学研究科 Graduate School of Policy Science	博士課程前期課程	政策科学専攻	修士(政策科学)	40名
	博士課程後期課程	政策科学専攻	博士(政策科学)	15名
人間科学研究科 Graduate School of Human Science	博士課程前期課程	人間科学専攻	修士(人間科学)修士(心理学)	65名※
	博士課程後期課程	人間科学専攻	博士(人間科学)博士(心理学)	20名
映像研究科 Graduate School of Image Arts	修士課程	映像専攻	修士(映像)	10名
情報理工学研究科 Graduate School of Information Science and Engineering	博士課程前期課程	情報理工学専攻	修士(工学)	200名
	博士課程後期課程	情報理工学専攻	博士(工学)	15名
テクノロジー・マネジメント研究科 Graduate School of Technology Management	博士課程前期課程	テクノロジー・マネジメント専攻	修士(技術経営)	70名
	博士課程後期課程	テクノロジー・マネジメント専攻	博士(技術経営)	5名
経営管理研究科[ビジネススクール] Graduate School of Management	専門職学位課程	経営管理専攻	経営修士(専門職)	80名
		観光マネジメント専攻	観光経営修士(専門職)	70名

朱雀
CAMPUS

法務研究科[法科大学院] School of Law	専門職学位課程	法曹養成専攻	法務博士(専門職)	70名
教職研究科[教職大学院] Graduate School of Professional Teacher Education	専門職学位課程	実践教育専攻	教職修士(専門職)	35名

・☀️夜間にも講義を行っています。詳細は各研究科のウェブサイトをご覧ください。各研究科事務室までお問い合わせください。

・E 授業を英語で行う科目のみで学位取得に必要な単位を修得できる研究科および課程

・9 4月入学に加え、9月入学も実施している研究科(対象となる課程や専攻の詳細は各研究科の入試要項を確認願います)

※2026年4月、法学研究科博士課程前期課程50名、理工学研究科博士課程前期課程基礎理工学専攻70名/電子システム専攻155名/機械システム専攻155名/環境都市専攻145名、人間科学研究科博士課程前期課程75名へ、それぞれ入学定員変更予定・構想中。

※2026年4月、理工学研究科博士課程前期課程・後期課程「環境都市専攻」は、「都市システム専攻」へ名称変更予定・構想中。

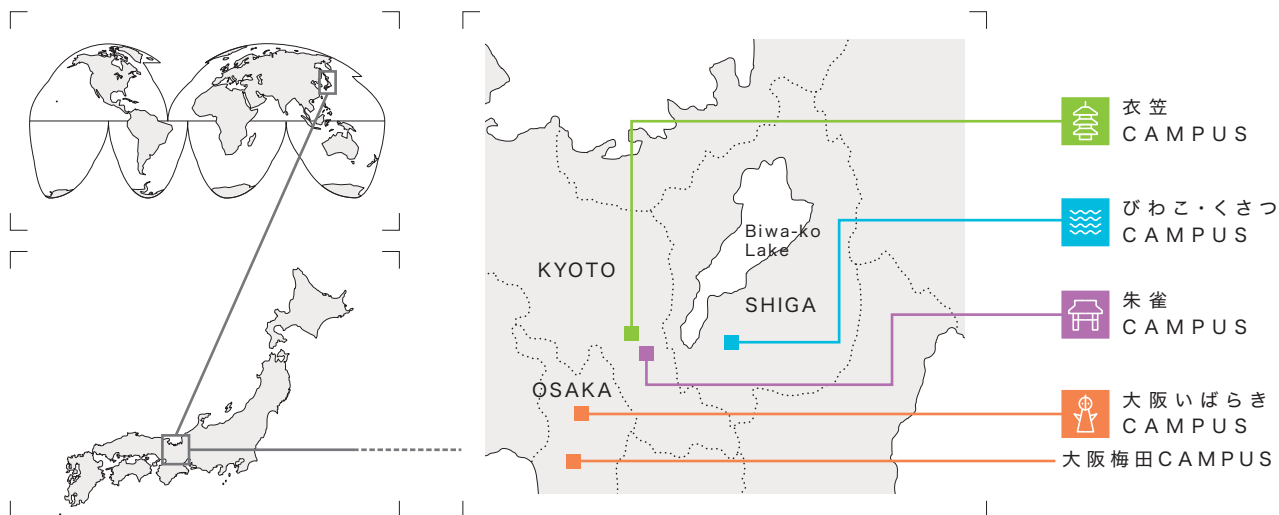
地域に根ざし、世界と協働する 教育・研究を支える4つのキャンパス

日本の文化、政治、経済の中心地として長らく栄えてきた関西。

日本の歴史を受け継ぐ世界遺産や国宝を数多く有するだけでなく、古都京都、自然豊かな滋賀、ビジネスの街大阪、と象徴されるように、さまざまな個性と魅力をあわせもち、世界を代表する国際都市として日々発展を続けています。

それぞれ特色あるエリアに配置した4つのキャンパスで相互連携し、

人類・自然・地域社会の発展に貢献する最先端の取り組みに挑戦しています。



■大学院生の学修・研究環境

立命館大学では、大学院生の多様な研究スタイルに対応できる環境の整備を進めています。

個人で学修・研究を集中して行える 「研究スペース」

静寂性に配慮したクローズな空間として大学院共同研究室を整備。パーティションで仕切られたキャレルデスクで論文執筆や発表資料作成などを落ち着いて進めることができます。



大学院共同研究室 (OIC)

グループでの作業やミーティングで活用できる 「打ち合わせスペース」

共同研究などでグループ作業を行う際や簡単なミーティングをすることが出来るスペースを整備。パソコンやプリンターもあります。



究論館打ち合わせスペース (衣笠)

研究成果を発信して研究科を越えた交流を促進する 「コミュニケーションスペース」

オープンな形式でのセミナーやプレゼンテーション、ポスターセッションを開催するなど、研究科を越えてコミュニケーションが図れるスペース。キッチンやカウンターも完備し、一息つけるラウンジとしての空間もあります。



究論館パフォーミングスペース (衣笠)

日本国内有数の蔵書冊数を誇る 「図書館・資料室」

蔵書冊数は私立大学トップクラス(約345万冊)、各資料室には専門性の高い研究資料を多く所蔵。大学院生は100冊を100日間借りることができます。



平井嘉一郎記念図書館 (衣笠)

■ キャンパス紹介



倉 京都／衣笠CAMPUS

古都・京都の歴史と文化が息づく、
多様な人文社系研究科が集まるキャンパス

古くから日本の中心として、長く厚みのある歴史をもち、多くの文化遺産に囲まれた地、京都。その中でも、古都の名刹に囲まれた閑静なエリアに位置し、日本の伝統や文化に触れながら先端の研究を世界へ発信する、伝統と創生のキャンパス。

- 法学研究科 ●社会学研究科 ●国際関係研究科 ●文学研究科
- デザイン・アート学研究科(2026年4月設置構想中)
- 言語教育情報研究科 ●先端総合学術研究科



波 滋賀／びわこ・くさつCAMPUS

豊かな自然を活かし、国際水準の教育・
研究環境を備えたキャンパス

私立大学最大級の理系教育・研究施設を備えるびわこ・くさつキャンパス(BKC)は、琵琶湖を含む大自然や、企業の研究施設が近くに位置する立地を活かした研究活動を実施しています。世界標準の教育研究、知見、技術を創出し、世界・地域へ発信するイノベティブ・キャンパス。

- 経済学研究科 ●スポーツ健康科学研究科 ●食マネジメント研究科
- 理工学研究科 ●生命科学研究科 ●薬学研究科



人 大阪／大阪いばらきCAMPUS

商都・大阪で教育・研究のフィールドを
アジアへと広げるキャンパス

大阪いばらきキャンパス(OIC)は、「アジアのゲートウェイ」として国際的な学びの拠点として位置づけています。また、「商都・大阪」という地域性を活かして、地域・社会と連携した教育・研究を進化させている最新のキャンパス。

- 経営学研究科 ●政策科学研究科 ●人間科学研究科 ●映像研究科
- 情報理工学研究科 ●テクノロジー・マネジメント研究科
- 経営管理研究科 [ビジネススクール]

■ サテライトキャンパス 大阪梅田CAMPUS
大阪・梅田駅前に位置する、アクセス至便のキャンパス

社会的ネットワークの強化や就職支援に加え、
学び・研究の拠点として大学院の授業を展開。
多目的に利用できる最新設備を備えています。

- 経営管理研究科 [ビジネススクール]
- テクノロジー・マネジメント研究科
- 言語教育情報研究科



門 京都／朱雀CAMPUS

京都の歴史・文化と、都市の利便性・
充実の研究設備をあわせもつキャンパス

専門職大学院を抱え、多様な研究スタイルに応える充実した研究設備や自習環境を備えています。古都・京都の中心部に位置し、京都の歴史・文化に触れながら、都市型キャンパスの利便性をあわせもつキャンパス。

- 法務研究科 [法科大学院]
- 教職研究科 [教職大学院]

大学院における研究活動の流れ

		博士課程前期(修士)課程	博士課程後期課程	専門職学位課程 (経営管理研究科)
1年目	春学期	- 授業選択 - 修士論文のテーマを見つける		- コア科目を中心に履修 - 夏集中科目を受講
	秋学期	- 就職活動の準備、情報収集 - 修士論文のテーマを絞る - 勉強会への参加 - 就職活動準備	CHECK! 博士課程後期課程に進学する場合は 2年目に入学試験を受験します。	選択科目を中心に履修
2年目	春学期	- 学会参加、発表 - 就職活動 - 修士論文の研究計画書の立案		- 研究レポートのテーマを設定し、執筆開始 - 選択科目を中心に履修 - 中間報告会
	秋学期	- 中間報告会準備・発表 - 修士論文の提出 - 口頭試問、公聴会 - 修士号取得		- 研究レポートを提出 - 研究成果報告会
3年目	春学期	社会学研究科 博士課程前期課程 2回生 瀬川 美和さん → P.07	- 博士論文テーマの絞り込み - 研究会参加 - ゼミでの研究報告	
	秋学期	情報理工学研究科 博士課程前期課程 2回生 菅原 颯真さん → P.08	- リサーチ資料の整理・分析 - 論文投稿	
4年目	春学期		- 資料収集・資料整理・分析 - 学会参加、発表 2本目の論文投稿テーマ設定	
	秋学期		- 資料分析 - 投稿論文執筆 - 博士論文執筆	
5年目	春学期		- 博士論文構想発表会 - 博士論文執筆 - 学会参加、発表	
	秋学期		- 博士論文提出 - 口頭試問、公聴会 - 博士号取得	

大学院生がどのように研究や就職活動を行っているかご存知ですか。各課程の例をご紹介します。

※以下は過ごし方の例であり、研究科や個人により異なります。

専門職学位課程 (教職研究科)	専門職学位課程 (法務研究科) [法学未修者の例]	4年制博士課程	一貫制博士課程
● 実習校・コースの決定 ● 教員採用試験の受験準備 ● 教職専門研修(実習)の実施(3週間) ● フィールドワークの実施 ※科目により実施時期は異なる	● 講義科目で徹底して各法の基礎を学ぶ ● 実務家教員による「法曹倫理」を受講 ● エクステンションセンター講座を受講(司法試験合格まで)	● 研究テーマの設定、課題絞り込み ● 研究計画書提出 ● 研究の具体化	● 研究課題の絞り込み ● 研究指導計画書提出 ● 論文作成基礎力養成 ● 調査、資料収集、文献研究等
● 教職専門研修報告会 ● コース科目の履修 ● 2年目の長期実習に向けた振り返りと計画作成		● 研究中間発表会	● 研究課題の具体化 ● 論文作成基礎力養成 ● 調査、資料収集、文献研究等
● 教職専門研修(実習)の実施(7週間) ● 教員採用試験の受験 ● 教職専門研修報告会	● 演習科目で応用力を身につける ● 基礎法学・隣接科目で視野を広げる ● 夏期短期海外プログラムなどで国際性を磨く	● 研究計画の進捗確認・見直し ● 研究計画書提出 ● 学会参加、発表	● 研究指導計画書提出 ● 紀要・学会誌等の論文執筆 ● 調査、資料収集、文献研究等 ● 博士予備論文執筆
● 実習の振り返りと理論化を行い、「理論と実践の往還」による学びの成果を「教育実践探究論文」にまとめる		● 研究中間報告会 ● 投稿論文執筆	● 博士予備論文提出、口頭試問 ● 修士課程相当30単位を修得 ● 調査、資料収集、文献研究等 ※修士号取得退学可
	● 臨床科目で法実務の現場(法律相談)を体験 ● 選択科目を受講しながら将来の専門分野を検討 ● 司法試験に出願* * 在学中受験も可能です(所定科目を単位修得した場合)	● 研究計画の見直し、精緻化 ● 研究計画書提出	● 研究指導計画書提出 ● 学会参加、発表 ● 紀要・学会誌等の論文執筆 ● 調査、資料収集、文献研究等
		● 研究中間報告会 ● 学会参加、発表	● 学会参加、発表 ● 調査、資料収集、文献研究等
	CHECK! 法学未修者コース：3年 法学既修者コース：2年の2つのコースがあります。	● 研究計画書提出 ● 博士論文執筆	● 研究指導計画書提出 ● 調査、資料収集、文献研究等 ● 学会参加、発表 ● 紀要・学会誌等の論文執筆
		● 博士論文提出 ● 口頭試問、公聴会(一般公開) ● 博士号取得	● 調査、資料収集、文献研究等 ● 学会参加、発表 ● 博士論文執筆
			● 研究指導計画書提出 ● 博士論文構想発表会 ● 調査、資料収集、文献研究等 ● 紀要・学会誌等の論文執筆
			● 調査、資料収集、文献研究等 ● 博士論文提出 ● 口頭試問、公聴会(一般公開) ● 博士号取得

現役院生からのアドバイス

社会学研究科 応用社会学専攻 博士課程前期課程2回生

瀬川 美和さん

研究テーマ 女性運動団体を対象とした、女性同士の旅行経験の分析・考察

女性の移動は歴史的に制限を受けてきており、それは旅行という場面においても指摘されています。そこで本研究では1967年に大久保さわ子によって設立された独身婦人連盟に着目し、連盟の機関誌における1970-1980年代の旅行記を考察。分析の結果、独身女性同士の旅行空間が、互いをエンパワメントする空間、つまり独身であることに由来する差別や不公平な扱い＝シングリズムからの「回復」空間となっている可能性について論じました。



大学院での過ごし方

大学院生の2年間

	春セメスター	秋セメスター
1回生	●入学、授業開始 ●資料収集、先行研究の整理	●授業 ●学会参加
2回生	●研究計画書の提出 ●資料収集、先行研究の整理	●資料収集、先行研究の整理 ●ゼミ合宿

ある1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土/日
第1時限						●読書が好きなので、土日も研究図書に関係なくいろんな本を読んでいます。 ●資料収集や整理など、研究の続きを行うこともあります。
第2時限			ゼミA			
第3時限	ゼミB	講義		TA		
第4時限	研究	学内バイト	研究	学内バイト	研究	
第5時限	TA					
第6時限	研究	研究		研究		
第7時限	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	

ある1日のスケジュール

9:00	起床
11:30	読書・おやつ
13:00	授業
15:00	図書館
19:00	大学で夕食
20:00	図書館
22:00	コーヒータイム
22:30	資料整理
24:00	自由時間
3:00	就寝

■法学部から社会学研究科へのコースチェンジ

学部時代は法学部に所属し、2回生頃までロースクール(法科大学院)に進むつもりでした。ところが学んでいくうちに法学より政治学や社会学に興味を湧いて、一度卒業することに。当時はうまく将来像を描くことができず、大学院進学も就職も考えられませんでした。そこで1年の猶予期間中、以前より興味があった富永京子先生のゼミに出入りしながら、自分が大学院で研究できるかどうかを試したのです。富永ゼミには研究者や院生、社会運動参加者など様々な人が集まり、ここなら自分の興味・関心に沿った研究に没頭できると進学を決めました。

■資料収集力や分析力が格段にアップ

現在のテーマを研究するきっかけは、学部時代に所属していた社会科学研究会サークルです。ここで初めてジェンダーやフェミニズムの視点が生まれ、富永ゼミでの学びを通じて、独身女性同士の旅行活動に注目するようになりました。海外の先行研究はありますが、国内ではまだ開拓されていない分野だけに資料収集や整理には苦労しました。そのぶん膨大な資料をまとめる力や分析力はかなり上がったと感じています。

■多様な価値観と出会える刺激的な場所

大学院での研究はとにかく楽しいです。自分の立てた問いに集中して向き合える贅沢な時間を味わえること、そこで得たものを共有・議論できる仲間がいることも大きな財産です。特に社会学研究科は留学生が多く、自分とは違う角度から物事を見る人たちと出会うことができました。多様な視点や価値観を前提とする思考力も養われたと思います。

■院生専用の施設で研究に集中できる

資料整理や論文執筆は、衣笠キャンパスにある大学院生専用の研究棟「究論館」をよく利用しています。ここは院生が自由に利用できるコモンスペースや研究のための個人デスクがあり、夜遅くまで利用できるので集中して取り組むのにもってこい。私が他大学大学院への進学ではなく、立命館大学大学院を選んだ理由の一つでもあります。

■将来について…どんな進路を考えていますか？

博士課程後期課程に進み、研究者としてのキャリアを築いていきたいと考えています。博士課程後期課程でも現在の研究テーマを継続しつつ、その他の女性運動と比較しながら「旅行」が女性のエンパワメントにどうつながったのかという独自性を突き詰めていきます。また先行研究は英語圏での議論が豊富なので、国際学会への参加・発表にも積極的にチャレンジしていきたいです。

大学院進学を検討する人へ

「研究」と聞くと難しそうな印象があるかもしれませんが、入学時はみんな研究の仕方も何もわからない状態からスタートするので安心してください。先輩や先生がしっかりサポートしてくれますし、気になるテーマがあるなら進学してほしいと思います。

また、立命館大学大学院は研究施設や図書館の蔵書数などが充実しているのも魅力です。学費については奨学金など様々な助成制度もあるので、チェックした上で国立大学の大学院などと比較するとよいでしょう。

菅原 颯真さん

研究テーマ タイプミス傾向の分析に基づくタイプスクワッティングドメイン生成モデルの提案

タイプスクワッティングとは、正しいドメインに類似したドメインを使い、タイプミスを悪用してユーザーを偽のサイトやメール宛先に誘導するサイバー攻撃のこと。この対策には類似ドメインを事前に保護する方法が有効ですが、大きな費用がかかってしまいます。そこで本研究では、タイプミスの傾向から人が間違えやすいドメインを探すことで、類似ドメインの保護を支援するツールを提案します。



大学院での過ごし方

大学院生の2年間

	春セメスター	秋セメスター
1回生	●入学、授業開始 ●就活(インターンシップ)	●授業 ●修士論文の分析 ●論文投稿、学会発表 ●就活(本選考)
2回生	●授業 ●学内研究発表	●修士論文の実装 ●就活(本選考) ●修士論文の実験/提出 ●論文投稿、学会発表

ある1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土/日
第1時限	雑務	雑務	雑務	雑務	雑務	●カフェでアルバイト
第2時限	研究	レポート	授業		研究	●友人と食事に行くなど、オン・オフのメリハリを大切にしています。
第3時限	TA	授業	学年ゼミ	就活研究	TA	●リフレッシュのため温泉巡りなどの小旅行に出かけることも。
第4時限						
第5時限		研究	全体ゼミ	スポーツ	研究	
第6時限	アルバイト					
第7時限			ゼミで談笑	ゼミで談笑		

ある1日のスケジュール

9:00	起床
11:00	メール返信などの雑務
12:30	昼食
13:00	授業
14:30	ゼミ資料作成
16:00	ゼミ・研究
20:00	研究室で談笑
21:00	帰宅・夕食
23:00	自由時間
1:00	就寝

■より深い学びと将来の社会貢献を目指して

大学院に進学した一番の理由は、より深い知識を身につけたいと思ったからです。大学では3回生までに基礎固め、4回生から本格的に研究を始めますが、1年間で得られるものには限りがあると実感しました。大学院も含めて3年間みっちり研究し、様々な分野で活かせる応用力をつけてからのほうが社会貢献できると考えたのです。3回生の頃に企業のインターンシップに参加した時、当時の知識やスキルでは将来活躍できるイメージを持てませんでした。

■実践的な研究から社会課題を解決したい

私の所属するサイバーセキュリティ研究室では、サイバー空間における不正や犯罪を抑止し、より安心・安全に使えるインターネット環境を提供するために役立つ技術を研究しています。実社会の問題解決につながるテーマを設定しているため、研究を通じて社会課題の改善策を提案していけるのが魅力です。研究では今まで知られていないことを解き明かす、宝探しのようなワクワクも感じます。

■大学院では言葉の感度を高めることも重要

意外なことに、理系専攻の私が大学院で得た大きなスキルは正確に言葉を紡ぐ力です。例えば、「メール送信中」という言葉を使う場合、メールの作成から送るまでなのか、送信ボタンを押してからメールが届くまでを指しているのか。互いの認識にズレがないよう、論文では正確な言葉の定義づけをするよう心がけました。普段の会話でも自

分の意図が相手に正しく伝わるよう意識しており、面接や論文発表では大いに役立ちました。

■全国の研究者と交流して知見を広げる

大学院では学会発表の機会が多くあるのもメリットの一つ。私が特に印象に残っているのは、CSS(コンピュータセキュリティシンポジウム)という学会です。全国から集まったサイバーセキュリティに興味のある学生や有識者たちの多彩な研究内容に触れ、世界がぐんと広がりました。研究者との交流から刺激を受けたり、自分の研究テーマを見直したりと、相乗効果も生まれやすくなります。

■将来について… どんな進路を考えていますか？

技術系の国家公務員として就職することが決まっており、情報通信分野の政策に関わる予定です。大学院で培ったサイバーセキュリティの専門知識を発揮し、サイバー攻撃や災害耐性の強い情報社会をつくることに貢献したいと考えています。また、デジタルデバイド(ITの恩恵を受ける人とそうでない人の格差)の解消にも取り組んでいきたいです。

大学院進学を検討する人へ

「大学院でうまくやっていけるだろうか」「費用や時間をかけるだけの効果があるだろうか」など、人によって様々な迷いがあるかもしれません。しかし大学院へ進学すれば、すべて杞憂だったとわかるはず。人生のなかで2年間も自分の興味のあること・好きなこととほとんど打ち込める時間なんて、そうそうありません。自分自身の知見と視野を広げ、一歩先のステージへ上がるためにも大学院という貴重な経験を活かしてもらいたいと思います。



経営学研究科

2024年3月
博士課程前期課程修了

中原 智哉さん

アビームコンサルティング(株)
勤務

組織・人事領域についての学びを深めるため大学院へ進学

学部生の頃、経営学の大きな領域である「人・物・金」のなかで私は特に「人」の分野に興味がありました。新入生支援などの学生団体やアルバイトを経験するうち、同じ組織でもやる気のある人となない人、長く続く人とすぐ離れていく人がいて、その違いは何だろうと疑問に思っていたのです。そこで組織・人事領域について理論的に学びたいという思いが芽生え、大学院に進学することに決めました。4回生の間は就職活動も並行して行っていましたが、学部で興味を持った組織・人事領域について専門性を高めたいと感じたのも進学を選んだ理由の一つです。

大学院では、アカデミックと実務の両面から知識を吸収することを意識していました。アカデミックな内容としては「越境学習」をテーマに、ボランティアや副業といった本業とは異なる組織に所属している経験がどのように本業に影響するかについて研究。また実務面では、オンラインビジネススクールのインターン生として1年間、運営業務に従事しました。実際に多くの社会人の方(受講者の方)と接することで、越境者のリアルを知り、それをまた研究に活かしていくという恵まれた環境で学ぶことができました。

人生のどんな場面でも応用できるチカラが身についた

現在はアジアを基点とするグローバルコンサルティングファームで、主にサプライチェーンの業務改革プロジェクトに関わっています。ここで役立っているのは、大学院時代に培った複雑かつ難解なことを整理して理解する力、物事を論理立ててわかりやすく伝える力、新しい経験を知識として吸収するスピードの速さ、諦めずにがんばる粘り強さなど。研究内容がダイレクトに活かしているというより、研究を通して培った論理的な思考、情報収集・資料作成スキル、コミュニケーション力などの汎用スキルが大きな武器になっていると感じます。さらに数ヶ月後には、本業とは別の無償活動として、サステナビリティをテーマに友人と週末カフェを実施する予定です。プレイヤーとしてカフェを運営する経験は必ずコンサルティングにも活きるはずですし、大学院で研究した「越境学習」を自分自身が実践できるのはワクワクします。皆さんも興味のある研究テーマがあり、大学院に進学してみたいと思うなら、ぜひチャレンジしてください。当時は振り返ると、将来の見通しを考えることも必要ですが、それよりも前向きな気持ちと勢い、選んだ選択肢を自分自身で正解にすることが大事だったと思います。



生命科学科

2024年3月
博士課程前期課程修了

金井 梨夏さん

森永製菓(株) 勤務

大学院進学は、食品の研究開発職に就くための第一歩

私は大学入学前から「食品企業で研究開発の仕事がしたい」という夢を持っており、学部を卒業したら就職するつもりでした。しかし3回生の時に受けた大学のガイダンスで研究職に就く人のほとんどが大学院出身者であることを知り、大学院へ進学することを決めました。夢を実現するための選択だったため両親も応援してくれましたし、私自身も不安は全くなかったですね。ただ立命館大学の大学院に進学するか、他大学の大学院に進学するかについては悩みました。結論としてはそのまま立命館大学の大学院に進んだほうが3年間ひとつの研究に打ち込むことができ、信頼する友人たちとも一緒に学べるところに魅力を感じて立命館大学大学院への進学を選びました。

大学院に入ってから、朝から夕方まで研究に没頭する毎日。学部生の頃は授業のカリキュラムやタイムマネジメントなど用意されたものが多かったのですが、大学院生は研究テーマや手法を自分で考え、スケジュールも自ら組み立てて行います。また研究室内の論文報告会、学会、研究交流会など人前で発表する機会も増え、主体的に考えて行動する力とともにコミュニケーション力やプレゼンテーション能力も鍛えられました。学部の4年は知識をインプットする期間、大学院の2年はアウトプットする期間だったと思いますね。

自己の可能性の扉を開き、就職活動にも大きく有利に

大学院修了後は念願叶って森永製菓の研究開発部門で働いています。私の担当は商品開発の一手前となる、味や食感のメカニズムの解析。毎日朝から夕方まで研究を行うという生活スタイルも、自分で検討内容を考えて提案することも大学院時代と同じため、大学院で学んだことがそのまま活かされていると感じます。将来的には海外拠点で働いてみたいという新しい夢もできました。森永製菓には海外の工場や研究所などの拠点があり海外事業も拡大しているため、いつかチャレンジできるよう英語学習にも励みたいと思っています。

大学院進学は研究を深めることができるだけでなく、就職活動にも有利になります。ちなみに私の会社では、研究開発部員は全員が大学院出身者。私も大学院に進学したことで可能性が広がり、憧れの仕事に就けて毎日が充実しています。特に立命館大学キャリアパス推進室があり、就職活動を強力にバックアップしてもらえるのが魅力です。私は2日に一度通い、エントリーシート作成や面接対策でお世話になりました。もし大学院進学を迷っている人がいたら、自己成長や将来の道を広げるためにもぜひ進学をおすすめしたいです。

Faculty voice



法学研究科
森久 智江 教授

社会の中の「犯罪という現象」を読み解き、「犯罪」に学ぶ

「犯罪」は社会においてこそ生じる現象です。私たちが人と人との間で生きていく中で、自分の内外において何らかの軋轢や葛藤が生じたとき、それが「犯罪」というかたちになって表れることがあります。しかし皆さんがよく知る刑事裁判の場で、そうした「犯罪」の背景や要因が全て明らかになることはほぼありません。それは同時に、刑罰が「犯罪」の全てを解決する訳ではないということでもあるのです。

犯罪学は、「犯罪」のそうした見えにくい社会的文脈を知り、社会がそこから何を学ぶべきであるのかを明らかにしながら、より「犯罪」に至りにくい社会を私たち自身がどのように築いていくのかを模索する学問です。犯罪学は、社会学、心理、福祉、教育等、様々な学問領域と共に研究を行っていますが、その際、人が社会の中で「生きる」権利に軸足を置いて思考する法学の考え方は不可欠なものです。

理論知と実践知、違う視点を有する人とかわる研究と対話の重要性

私が研究を志す契機となった「Restorative Justice (RJ(修復的司法))」は、まさに「犯罪から学ぶ社会」を追求する犯罪学の考え方の一つです。RJはこの考え方の実践として、直接的な問題解決ではなく、問題を共有するための対話を重視します。大学院生時代の私は、国内外の多様な分野の研究者や、様々な現場で刑事司法や犯罪をした人等への支援に関与する実践家、実際の事件の当事者など、対話する機会を多々得ました。文献を深く読み解くことももちろん大学院での重要な営みですが、自分ならではの考え方の核を明確にしていくうえで、異なる経験や専門性を有する人々との対話は、自分に無い視点を得たり、より困難な課題に取り組んだりするための貴重なプロセスとなりました。

大学院は学部と異なり、自分だけのテーマを定め、その追究の成果を論文というかたちに落とし込むことに集中するからこそ、そのテーマに関わる理論知と実践知を有する人々から丁寧に話を聴き、的確に自身の考え方を伝える力を養うことができる場です。それはキャリアに関わらず、私たちがその後を生きる力・社会を築く力に繋がるものなのです。



理工学研究科
近本 智行 教授

大学院の魅力は、「学ぶことと実践すること」に自由にトライできる

私の専門は、建築です。建築の学問は非常に古く、今も読まれている「ウィトルウィウス建築書」という建築の入門書は何と紀元前後に書かれています。ここでは、制作と理論の双方に重点を置き、いずれの欠落も認めてはいません。皆さんも使っているiPhoneを世に送り出したスティーブ・ジョブズは「技術だけではだめ。リベラルアーツ、なかんずく人文知と融合させた技術こそが、私たちの心を高鳴らせるような新製品を生み出す」と言ってます。私も、例えば小学校で校舎の改修するにあたり、施設を利用する小学校の教職員、児童ら、更に地域の方、計画・建設に携わる方と一緒に環境に優しい改修計画について考え、施設改修をしながら、施設そのものを教材として、みんなで活用しながら、採り入れた技術の効果を確かめるということをやってみました。

頭でっかちでは駄目ですが、単に実践すればいいというわけでもありません。基礎的な学問、広範囲な知識を、興味を持って吸収しながら、社会性、文化背景、そして実際に運用し、応用するまでを同時に実践することが重要です。学生時代、時には時間を忘れて議論し、興味を持ったものや知らないことがあれば実際に調べ、試してみた、あの経験は今でも大切です。

大学院での学びは、その後の人生の礎となる

理系の大学院では、多くの学生(院生、卒研究生)が研究室に集い、日々活動しています。苦楽をともにして切磋琢磨する同じ研究室の仲間や、学会活動・共同研究などで通じる学外・海外の研究者、同世代の若者たち。研究は一人でできるものではありません。異分野横断、文理横断といった学際的な視野を広げ、大学院時代だけでなく、将来のキャリアにわたって心の糧となるような豊かなネットワーク形成の機会を積極的に取り入れています。

大学院(修士課程/博士課程前期課程)での2年は、人生100年と言われる今の時代において、ほんの短い時間です。しかしこの間に得られる経験は、社会に出てからの50年以上の人生を支える根っこになるものです。しっかりと根を生やした大樹として育つための時間をぜひ大学院で過ごしてください。

立命館のキャリアパス支援について

■奨学金・助成制度の概要

下記は本学独自の奨学金・助成制度であり、返還義務のない奨学金・助成制度です。内容は過年度の概要であり、2025年度以降の制度に一部修正、統合などが発生する可能性があります。最新の情報については、大学院キャリアパス推進室ウェブサイト、各制度の募集要項等を参照してください。本ウェブサイトでは、各種セミナー・プログラムについても紹介しています。

※専門職学位課程は、一部対象とならない奨学金・助成制度がありますので、詳細は募集要項をご確認ください。



大学院キャリアパス
推進室ウェブサイト
(経済支援)

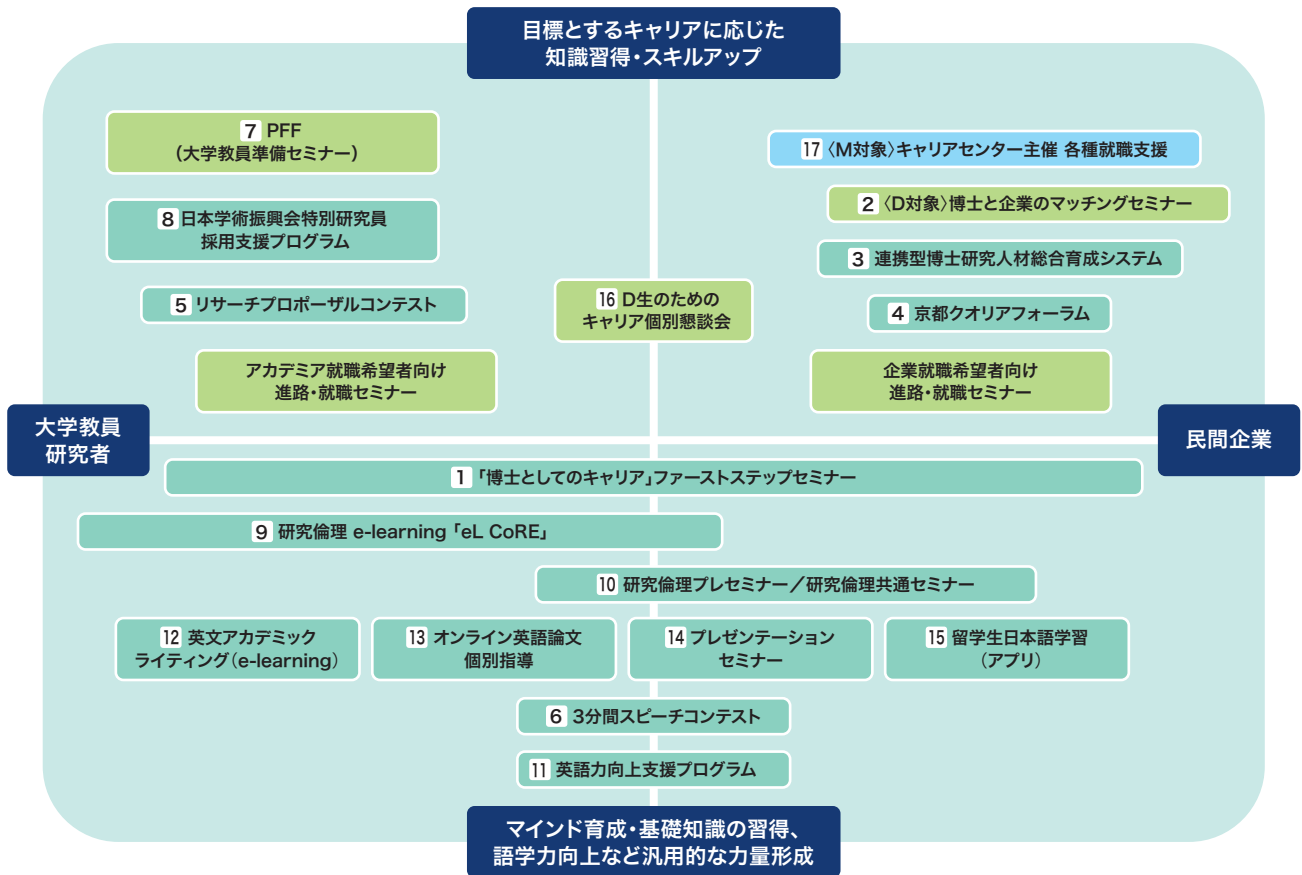
	M1	M2	D1	D2	D3 (4年制はD4含む)
成績優秀者の入学・学修・研究を奨励	1年次対象 成績優秀者奨学金 10～60万円 (研究科ごとに異なる)	2年次対象 成績優秀者奨学金 10～60万円 (研究科ごとに異なる)	研究奨励奨学金 S給付：年間の授業料相当額 A給付：年間の授業料相当額 B給付：年間の授業料の1/2相当額 RARA学生フェロー(RARA×SPRING) 研究活動支援金：年間222万円(月額18.5万円) 研究費：年間 34万円 RARA学生フェロー(RARA×BOOST) 研究活動支援金：年間222万円(月額18.5万円) 研究費：年間 168万円		
研究活動したい			博士課程院生研究支援奨学金 10万円・30万円・50万円(申請区分に応じて給付)		
学会に参加したい 学会で研究成果を 発表したい	学生会奨学金 学会参加奨励(オンライン参加)：一律 5千円 学会参加奨励(現地参加)：一律 1万円 学会発表奨励(オンライン発表／誌上開催)：一律 1.5万円 学会発表奨励(国内現地発表)：一律 3万円 学会発表奨励(国外現地発表)：一律 10万円				
研究科を越えて 研究会活動したい	研究会活動支援制度 経費支援(1研究会あたり年額 10 万円上限)・施設支援				
外国語論文を 投稿したい 語学を学びたい TOEIC®・TOEFL® 等を受験したい	外国語論文投稿支援制度 論文校正費：上限5万円 論文投稿費：上限5万円				
	ハイ・インパクトジャーナル投稿支援制度 論文校正費：上限10万円 論文投稿費：上限50万円				
	ベーススキル向上支援補助金 所定の講座の受講料の全額				
	TOEIC®公開テスト受験料補助 TOEIC®L&R公式試験の受験料を全額補助				
海外留学したい	英語団体受験補助制度 学内で行うTOEFL ITP®テストとTOEIC®L&R IPテストの団体受験料を補助する制度				
	留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金 派遣期間中に派遣先に納付する学費または本学に納付する入学金を除く学費の1/2相当額				
博士論文を 出版したい	(博士学位論文を出版する際に、 その経費の一部(最大100万円)を補助)			博士論文出版助成制度 (人文社系の研究科のみ)	

※TOEIC®, TOEFL®はEducational Testing Service(ETS)の登録商標です。

※TOEIC®L&Rテスト(IP含む)の「L&R」は、Listening & Readingの短縮形です。

■キャリアパス支援プログラム

研究活動を通じて身につけた知識や能力を多様な分野で活かせるよう、キャリアパス形成に必要な基礎知識やスキルの習得、研究科を越えたネットワーク構築のための多様な企画を実施しています。以下に、その一部を紹介します。(過年度の例です。2025年度以降は変更する場合があります)



1 「博士としてのキャリア」ファーストステップセミナー

修了後のキャリア(アカデミア・企業就職・起業など)を見据えて、日々の研究活動やそれ以外の場で自身をどう成長させるか、また、どのようにしてキャリアを選択していくべきか、最新の博士の就職動向を踏まえたセミナーを実施しています。セミナーは、「就活の方法」という一般的なことだけでなく、専門分野を究めてきたからこそその強みのアピール方法など博士課程学生に寄り添った内容となっています。(オンデマンド講座です)

2 博士と企業のマッチングセミナー

主に、企業への就職をめざす博士後期課程学生を対象に、学生と企業が交流する中で、就職への道筋をつけることを目的としたセミナーです。企業がどのように博士を採用しているのか、就職後の働き方など、企業の方から直接お話を聞くことができます。

3 連携型博士研究人材総合育成システム (通称:博士人材育成コンソーシアム)

北海道大学を代表機関として、東北大学、名古屋大学とともに平成26(2014)年度にスタートした事業で、本学も2019年度より参加しています(現在13大学が加盟)。このシステムは、企業を知るためのセミナーや企業等との密接なマッチングシステム、データベースなどを通じて、民間企業や研究機関等、アカデミア以外で博士人材が活躍できる場を見出すことを目的としています。大学ごとに特徴あるプログラムが用意されており、文系・理系を問わず、本学の大学院生が参加できるイベントも数多くあります。

5 リサーチプロポーザルコンテスト

自身の研究のアイデアを、いかに魅力的に研究計画書上で表現できるかを競うコンテストです。日本学術振興会特別研究員に申請する前のトレーニングとしても位置付けています。

7 PFF(大学教員準備セミナー)

大学教員として講義を行うにあたって必要となる基本的なスキルを習得するプログラムです。
(2025年度からは大学院正規課程科目化)

8 日本学術振興会特別研究員 採用支援プログラム

①申請・書き方ガイダンス

わが国最高峰の博士後期課程学生への研究支援・奨励制度である「日本学術振興会特別研究員」(通称:学振)への申請を目指す方へのガイダンスを行います。制度概要や学内応募日程といった形式的なことだけでなく、講師や直近の採択者を招き、申請書の作成のコツなど実践的なことについても説明します。(アーカイブ配信もあり)

②過年度採択者申請書のオンライン閲覧サービス

今後学振への申請を目指す方の参考資料として、過年度採択者の申請書を暗号化の上、学内者限定で公開しています。
また、学内の各種奨学金制度は学振の書式を参考にしているものが多く、「他者へ魅力的に映る研究計画書の書き方」の参考にもなります。

10 研究倫理プレセミナー／研究倫理共通セミナー

研究を進めるにあたって知っておかなければならない研究倫理に関する基礎知識の習得を目指します。

11 英語力向上支援プログラム

英語のオンライン学習ツールの無償提供や個別学習支援、TOEIC® L&R公式試験受験料補助制度、オンライン英語論文個別指導があります。

大学院生の進路・就職

大学院修了後のキャリアは、大学教員をはじめとする研究者だけでなく、民間企業を中心に様々な業界へと広がっています。

CHECK IT

◇大学院修了生の進路実現に向けて

本学では、大学院生の皆さんの希望する進路・就職の実現に向けた総合的な支援を行っています。研究活動と修了後の進路を並行して考えるためのガイダンスでは、就職活動の流れや、企業が大学院生に期待することをはじめ、キャリアセンターの支援内容などをお伝えします。

また、インターンシップや就職活動に向けた自己理解系・企業理解系の各種選考対策も行っています。他にも、留学生や、公務員を目指す方に向けた支援企画も実施しています。

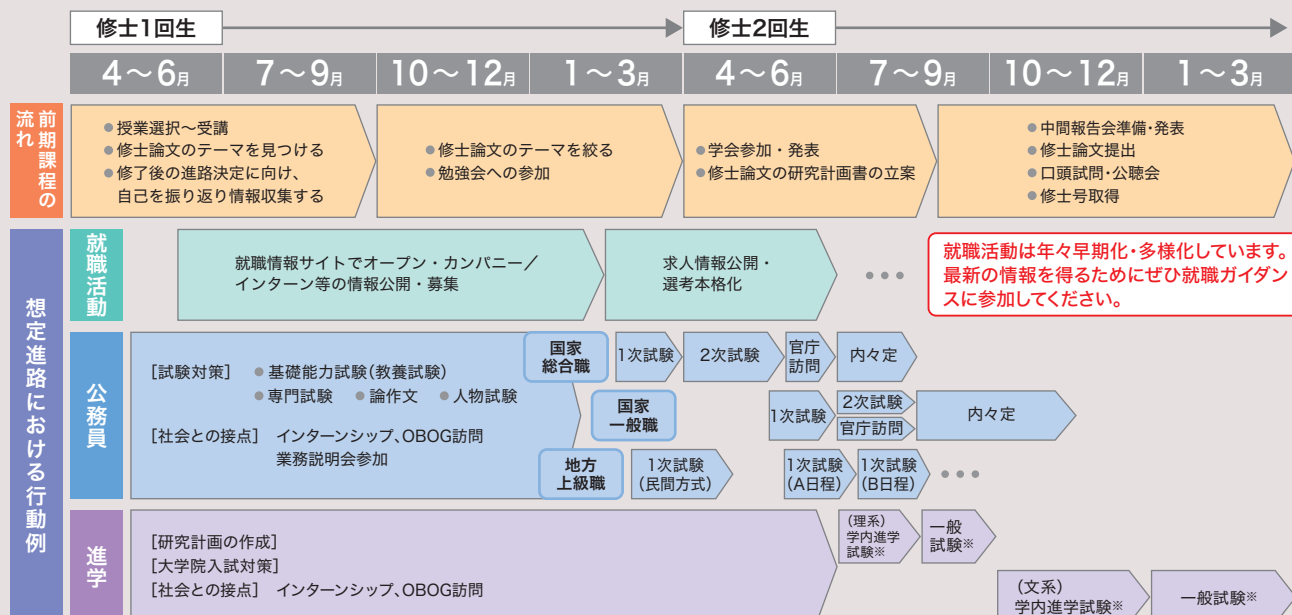
■大学院生就職決定率 **94.8%** (2023年度 修士・博士課程前期課程修了者実績)

文系	87.1%	理系	97.8%
----	-------	----	-------

◇進路に応じた支援を受けることができます ※下記は2024年度の内容です。

個別相談 (キャリアセンター)	PFF (大学教員準備セミナー)	公務員、資格取得	博士と企業の マッチングセミナー
修士・博士課程前期課程大学院生のうち、主に民間就職や公務員志望の方に向けて、就職活動や公務員試験に関する様々な相談に応じています。	大学で授業を行うにあたって必要となる基礎的なスキルを習得するプログラムです。教育開発推進機構の実践的FDプログラムと連携して実施します。	エクステンションセンターでは、公務員試験や資格取得に向けた各種講座の開講、学習支援のほか、イベント等も実施しています。 *キャリアセンター内にあります。	博士後期課程学生と企業が交流する中で、就職への道筋をつけることを目的としたセミナー。自身の研究力や持てる力をアピールするチャンスです。

◇修士・博士課程前期課程における進路別スケジュール(例)



※入試時期は、研究科によって異なります

修了生の主な就職先

法学研究科

国内外の大学教員、民間企業や金融機関の法務部や財務部、公務員、司法書士・税理士・公認会計士・弁理士など、法学・政治学に関する高度な専門知識を必須とする職業分野において活躍しています。

進路・就職先/研究職：私立大学・国公立大学、海外大学など。民間：メーカー、金融機関の法務部門や税理士法人など。公務員：国家公務員、国税専門官、法務省専門職員、地方公務員など。

社会学研究科

社会的に要請される実践的課題にこたえる研究者や高度専門職業人として幅広い分野で活躍しています。

進路・就職先/社会福祉協議会・地方公務員・教員など。民間：マスコミ・サービス・流通・商事など。研究職：私立大学・国公立大学など。

国際関係研究科

国際機関、開発協力分野、民間企業の海外部門など国際社会を舞台に活躍する人材を輩出しています。

進路・就職先/国家公務員、国際機関職員、国際協力機構、日本貿易振興機構、開発コンサルタント、サービス・製造・マスコミの総合職（主に国際部門）、国内外の大学など。

文学研究科

中学・高等学校教員、高度専門職職員、公務員、民間企業社員など、各専修の独自性を活かしたさまざまな職に就き活躍しています。

進路・就職先/教員・国家公務員・地方公務員など。民間：サービス・流通・商事・マスコミなど。研究職：私立大学・国公立大学など。

言語教育情報研究科

言語に関わる専門的知識を活かして、教育関連を中心に幅広い分野で活躍しています。

進路・就職先/国内外の大学教員、中等教育機関の英語教員、日本語教員など。国際交流基金、国際協力機構などの団体。サービス・製造・流通等の民間企業など。

先端総合学術研究科

研究者養成の研究科。博士号を取得、研究者として、あるいは現役研究者がさらにキャリアアップし、様々なフィールドで活躍しています。

進路・就職先/研究職：大学教員（テニユア教員、任期制教員）、大学・研究機関の研究員、各種学校教員、公務員・団体職員など。

経済学研究科

大学教員等の研究者の道を目指す大学院生のほか、企業や公務員、税理士事務所などに就職する大学院生も増えています。

進路・就職先/公務員、税理士法人、金融、サービス、大学教員など。

スポーツ健康科学研究科

「スポーツ」と「健康」に関する高度な専門性を活かして、幅広いフィールドで活躍しています。

進路・就職先/国立の研究機関、スポーツ用品、食品メーカー、教員など。
進路・就職実績は29ページに記載しています。

食マネジメント研究科

食に関する高度な専門知識と幅広い見識を活かし、食関連ビジネスの変革、国・地域の食を通じた活性化の担い手として、幅広い分野で活躍しています。

進路・就職先/食関連のサービス・流通・製造、国家公務員など。

理工学研究科

高度な専門知識・技術を活かして、多くの修了生が「研究・設計・開発職」に従事しています。

進路・就職先/民間：製造・サービス・流通・商事など。
進路・就職実績は31ページに記載しています。

生命科学研究科

化学、エネルギー、環境、食料、情報、医療、健康分野といった幅広い分野で活躍しています。

進路・就職先/民間：製造・IT・情報処理・サービスなど。

進路・就職実績は32ページに記載しています。

薬学研究科

高度な知識や技術を活かして医療現場や創薬・製薬分野、教育機関、産業界、衛生行政等に貢献できる人材を養成しています。

進路・就職先/製薬・化学・食品メーカー、病院、大学教員など。

経営学研究科

大学教員・シンクタンクなどの研究者や、公認会計士、コンサルティング企業等の総合職など、幅広い分野で活躍しています。

進路・就職先/民間：監査法人・税理士法人・サービス・流通・商事・製造など。研究職：私立大学、国公立大学、海外大学、民間研究所など。

政策科学研究科

行政や研究機関をはじめ、幅広い領域の専門性を活かし、多様な分野で活躍しています。

進路・就職先/国家公務員・地方公務員・教員。民間：サービス・金融。
研究職：私立大学・国公立大学、海外大学など。

人間科学研究科

各領域のスペシャリストを養成しています。

進路・就職先/臨床心理学領域：臨床心理士、産業・スクールカウンセラーなど。心理学領域：司法、警察官、教育など。
実践人間科学領域：看護師、保健師、高齢者介護、障がい者援助など。

映像研究科

映像に関わる高い専門性を修得し、広い視野から自らの課題を捉え、多様化する映像関連分野に柔軟に取り組んでいくことの出来る力を身につけます。

進路・就職先/民間：マスコミ、サービスなど。
進路・就職先詳細は37ページに記載しています。

情報理工学研究科

社会を支えるIT技術・サービスを開発する役割が期待されており、幅広い業種で技術専門職や研究開発職として高度な人材が求められています。

進路・就職先/IT関連企業をはじめ、情報通信、Webサービス、総合電機、電子機器、自動車関連、医療機器、流通、金融、ゲーム、公務など。

テクノロジー・マネジメント研究科

サービス・製造ほか職種を問わず、新規事業の立ち上げ、新技術の創造、技術を利用した収益向上など企業の持続的発展に欠かせない分野で活躍しています。

進路・就職先/新製品・サービス企画、工程管理、技術営業、一般営業コンサルティングなど。

経営管理研究科

キャリアアップを目指す社会人、実践的知識を身に付けることでキャリアの開拓を目指す新卒者など、修了後は多様な分野でビジネスを創造するリーダーとして活躍しています。

進路・就職先/製造、コンサルティング、サービス、金融など。
進路・就職先詳細は40ページに記載しています。

法務研究科

司法試験合格を経て法曹（弁護士・裁判官・検察官）を目指します。それ以外に民間企業（法務部門）や公務員でも活躍の場があります。

進路・就職先/弁護士・裁判官・検察官・民間企業（法務部門）・裁判所事務官・国家公務員・地方公務員。

教職研究科

学校現場の多様な課題に高度な実践力で対応できる資質能力を獲得し、公立、私立の学校で教員として活躍しています。

進路・就職先/小学校・中学校・高等学校教員。

若手研究者育成の取り組み

立命館大学では、研究力向上のための研究高度化計画において、大学院生についても「若手研究者」として位置づけ、それぞれのキャリアステージに応じた多様な支援と基盤的な研究支援の充実に力を入れています。

現在、21の研究科に約4,000名の大学院生が在籍しており、深い専門性と社会実装能力を備えた高度専門人材として活躍できるよう日々の研究に取り組んでいます。

以下に特徴的な取り組みを紹介します。

■ RARA(Ritsumeikan Advanced Research Academy/立命館先進研究アカデミー) 学生フェローシッププログラム(RARA×SPRING、RARA×BOOST)

優秀で意欲のある博士後期課程の大学院生に対して、研究費および研究活動支援金(生活費相当額)を支給し、学際的で先進的な研究に専念できる環境を提供しています。現在、100名程の大学院生が「RARA学生フェロー」として選抜され、将来のアカデミアを担う若手研究者あるいは企業で活躍する高度専門人材としての力量形成に取り組んでいます。



RARA学生フェロー



■ 大学院キャリアパス推進室の支援事業

「立命館大学 大学院キャリアパス推進室」では、大学院生に特化したキャリアパス形成支援を行っています。各種奨学金制度といった基盤的支援に加え、「トランスファラブルスキル」の養成を目的としたセミナーを実施するなど今日的課題にも対応した支援を行い、幅広くかつ丁寧な支援を展開しています。



セミナーで修得できるスキルの一例



YouTubeでも配信しています

■ 研究のアウトリーチ活動

本学の大学院生は、学内外のさまざまな機会を通じて、幅広く社会に対して自身の研究内容をわかりやすく魅力的に発信する研究のアウトリーチ活動のスキルを磨いています。



ライスボールセミナー／
附属校・提携校生対象の研究セミナー



大学院生によるポスターセッションの様子



研究発表会の様子

■ Ri-SEARCH(立命館大学若手研究者 学術・キャリア情報検索システム)

大学院生は自身の研究業績を専用のデータベースに登録しています。
研究業績については以下のURLから検索可能なので、ぜひご参照ください。

検索サイトURL<<https://gyoseki.ritsumei.ac.jp/ritgshp/KgApp/>>



研究機構・研究所・研究センター

立命館大学では、研究機構による最先端の取り組みが展開されています。
その成果は社会貢献のために活用されるとともに、大学院の研究・教育に還元され、高度な研究につながっています。
人文・社会・自然科学各領域の研究を推進するために多彩な研究機構を設置し、
基礎から応用まで幅広い活動を展開しています。
また、国や地方公共団体、産業界との研究交流にも積極的に取り組み、成果を社会に還元しています。

※以下は、2025年3月1日現在の研究機構・研究所・研究センター

■ 立命館グローバル・イノベーション研究機構[R-GIRO]

R-GIROは、学長直轄の研究組織で、「政策的重点課題に特化した研究拠点の形成」および「次世代を担う若手研究者の育成の強化」を目的に2008年に設立されました。自然共生型社会の実現に向け、自然科学分野と人文・社会科学分野との融合を図り、学際的な研究活動を促進することで、価値ある研究成果を創出し、その成果の積極的発信により、次世代社会への貢献を果たすことを目的としています。

■ 立命館アジア・日本研究機構

立命館アジア・日本研究機構は学長直轄の研究組織で、『アジア・日本研究』をリードする研究者の育成および未来のアジア・日本についての共通ビジョンの形成をミッションとし、「アジアの時代」に資する立命館らしいコンセプトと戦略性を兼ね備えた研究を推進しています。国内外の研究機関と連携し、多様な研究ネットワークの中核としての機能を発揮しながらグローバルな視点でのアジア・日本研究を推進していくことを目的としています。直下のアジア・日本研究所では、「共生」「共創」「協働」をキーワードとした総合的な実践研究に取り組み、次世代研究者の育成に力を入れながら研究活動と成果発信を進めています。

■アジア・日本研究所

■ 衣笠総合研究機構

衣笠総合研究機構は1998年に設置され、各研究所・研究センターをマネジメントする研究機構として研究活動を支援しています。「自主」「民主」「公開」「平和利用」といった4つの原則のもと、人類の福祉と社会の進歩に貢献し、社会の要請に応えることを目的としています。

■人文科学研究所 ■国際地域研究所 ■国際言語文化研究所
■人間科学研究所 ■アート・リサーチセンター ■歴史都市防災研究所
■白川静記念東洋文字文化研究所 ■生存学研究所
■研究センター 加藤周一現代思想研究センター／地域健康社会学研究センター／
コリア研究センター／クリエイティブ・メディア研究センター／中東・イスラム研究センター／
東アジア平和協力研究センター／間文化現象学研究センター／ゲーム研究センター／
法政基盤研究センター／環太平洋文明研究センター

■ BKC 社系研究機構

BKC社系研究機構は1998年、人文社会科学分野における企業・自治体等との共同研究を推進すること、自然科学系分野との交流による学際的な研究を促進することを目指し設置されました。社会性、国際性、公開性、学際性を重視した活動を行うことで、学術文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的としています。

■社会システム研究所
■研究センター ファイナンス研究センター／食総合研究センター

■ 総合科学技術研究機構

総合科学技術研究機構は、科学技術の発展と地域社会に貢献するために1994年に「総合理工学研究機構」として設置されました（2012年度より、現名称に改称）。産学官の共同研究の推進を通して、科学技術の発展と地域社会に貢献することを目的としています。

■理工学研究所 ■SRセンター ■VLSIセンター
■スポーツ健康科学総合研究所
■研究センター システム視覚科学研究センター／生物資源研究センター／
環境テクノロジーマネジメント研究センター／防災フロンティア研究センター／
バイオメディカルエンジニアリング研究センター／
琵琶湖・環境イノベーション研究センター／創薬科学研究センター／
宇宙地球探査研究センター／古気候学研究センター／先端材料研究センター／
ロボティクス研究センター／半導体応用研究センター

■ OIC 総合研究機構

大阪いばらきキャンパス(OIC)の教学コンセプト「アジアのゲートウェイ」「都市共創」「地域・社会連携」をふまえ、グローバルに通用する人材の育成、新たなイノベーションの創出、地域コミュニティの中核的存在としてその機能を果たす研究機構を目指し、活動することを目的としています。

■地域情報研究所 ■デザイン科学研究所
■研究センター 稲盛経営哲学研究センター／サステイナビリティ学研究センター／
認知科学研究センター／先端ICTメディカル・ヘルスケア研究センター／
医療介護経営研究センター／ものづくり質的研究センター／
知能化社会デザイン研究センター／IoTセキュリティ研究センター／
日本バイオ炭研究センター

topics

研究活動報 RADIANT

<https://www.ritsumei.ac.jp/research/radiant/>



立命館大学における研究活動を広く紹介しています。



X

立命館大学研究部 | @Rits_ResearchPR



立命館大学研究部公式Xアカウント。立命館の「研究」をもっと身近に感じてもらえるよう、多様な研究者の研究活動やイベントを紹介しています。



国際交流・留学生サポート

■外国人留学生(大学院)国・地域別一覧

国・地域	人数	国・地域	人数	国・地域	人数
アジア		南北アメリカ		中東	
1:中国	916	1:アメリカ	15	1:アフガニスタン	3
2:インドネシア	37	2:メキシコ	2	2:トルコ	5
3:台湾	36	3:キューバ	1	3:イスラエル	2
4:韓国	25	4:グアテマラ	1	4:イラン	1
5:ベトナム	24	5:コロンビア	1	5:オマーン	1
6:インド	16	6:ペルー	1	6:クウェート	1
7:タイ	14	7:ホンジュラス	1	7:バーレーン	1
8:バングラデシュ	10	小計(南北アメリカ)	22	小計(中東)	14
9:カンボジア	9	ヨーロッパ		アフリカ	
10:香港	7	1:キルギス	12	1:ガーナ	4
11:ラオス	7	2:タジキスタン	8	2:エジプト	3
12:パキスタン	6	3:ウズベキスタン	7	3:エチオピア	3
13:マレーシア	5	4:イタリア	3	4:ナイジェリア	2
14:モルディブ	5	5:ロシア	3	5:アルジェリア	1
15:ネパール	4	6:ドイツ	2	6:ウガンダ	1
16:フィリピン	4	7:ノルウェー	2	7:ブルキナファソ	1
17:スリランカ	3	8:ハンガリー	2	8:南アフリカ	1
18:ブータン	3	9:アルバニア	1	9:モザンビーク	1
19:ミャンマー	3	10:イギリス	1	小計(アフリカ)	17
20:モンゴル	2	11:スウェーデン	1	小計(大洋州)	1
21:シンガポール	1	12:スロベニア	1	合計	1,239
小計(アジア)	1,137	13:フランス	1		
		14:ブルガリア	1		
		15:ベラルーシ	1		
		16:ポーランド	1		
		17:ルーマニア	1		
		小計(ヨーロッパ)	48		

大学院在籍者のうち、
外国人留学生の割合

29.9%
1,239名

外国人留学生
受入数の多い大学

**全国
第3位※**

※2023(令和5)年度外国人留学生在籍状況調査結果
[独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)]

■世界各国の大学院生と学ぶ

62の 国・地域から集まる留学生

立命館大学の特徴は「多様性」という言葉に集約されます。立命館大学には世界の多様な国・地域から大学院生が集まり、日々勉学や研究に励んでいます。異なる文化や価値観の人と共に学び、グローバル人材に必要な素養をさらに磨くことのできる環境があります。

■DMDP(共同修士学位プログラム)

共同修士学位プログラム(DMDP: Dual Master's Degree Program)とは、立命館大学大学院に所属しながら提携する海外の大学院に1年間留学することにより、最短2年間で国を越えた2つの大学院の修士号を同時に取得できる制度です。グローバル化する国際社会で活躍する人材を育てる仕組みを持った画期的なプログラムです。

派遣プログラム実施研究科

国際関係研究科

社会学研究科

文学研究科

※対象研究科は変わることがあります。



■Beyond Borders Plaza (BBP)

2018年4月、衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス、大阪いばらきキャンパスにBeyond Borders Plaza (BBP)を開設しました。BBPは、国境の壁、文化の壁、言葉の壁、価値観の壁など、様々なBorderを超えてつながりを生み出し、共に学ぶ、国際交流や言語学習をコンセプトにした空間です。様々な言語学習用図書や、国際教養図書、雑誌などを通じて、楽しみながらグローバルな素養を高めたり、様々な国際交流イベントにも参加することができます。



BBPでは何ができるの？

リーディングスペース

言語学習(外国語・日本語)用の図書、海外留学に関する資料や書籍、語学検定試験の対策本、国際教養図書のほか、旅行本・カルチャー本を置いています。一人でゆっくりと見たり、グループで学習することができます。

学習サポートデスク

海外留学に関する相談や、外国語学習に関する相談に、専門教員が個別サポートします。自分一人ではなかなか解決できない悩みや、困ったことがあれば気軽に相談できます。

BBPウェブサイト



留学プログラム

BBPで得た発見や学びをもとに大学を飛び出してチャレンジしてみましょう！
BBPでは、海外留学に関する説明会やイベントを開催しています。

収集
する

体感
する

発信
する

実践
する

外国語コミュニケーションルーム

外国語の先生との日常会話や、ディスカッション・ゲームなどを通じて楽しく外国語に触れ、学ぶ場所です。空き時間を見つけて自由に参加できます。

SUP! Language Exchange Program

「学びたい言語」と「教えることができる言語」を登録し、お互いのニーズがマッチすれば、1対1で相互学習ができます。学生間でリラックスした中で学び合えるプログラムです。

ワークショップ・イベント

BBPでは、テーマ別のワークショップや国際交流イベントなどを通年で開催しています。自分たちでイベントを企画し実施することもできます。

日本留学AWARDS
—日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勤めたい進学先—

私立大学理工系部門で大賞を受賞！

留学生サポート

■授業料減免制度

- 本学独自の減免制度です。
- 立命館大学私費外国人留学生授業料減免制度の内容は2027年度から変更される予定ですが、状況により見直される可能性もあります。最新の情報や詳細は本学ウェブサイト、募集要項等を参照してください。

対象:外国人留学生

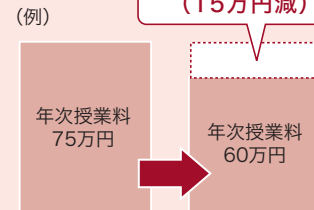
種別	減免率	減免期間	対象者
外国人留学生授業料減免 (院生I種)	授業料の 100%	標準修業 年限 ^{※1}	在留資格が「留学」かつ私費 外国人留学生であること。対 象者は入学試験にて決定
外国人留学生授業料減免 (院生II種)	授業料の 20%	1年間 ^{※2}	在留資格が「留学」かつ正規 課程の私費外国人留学生で ある場合は 全員対象 。各自で 入学後に申請が必要

※1 一貫制博士課程の1年次入学については4学期間、3年次入学については6学期間を上限とします。

※2 毎年の申請により、標準修業年限を上限として減免を受けることができます(全員対象)。



授業料**20%減免**
(15万円減)



■留学生支援コーディネーター

国際教育センターに常駐し、留学生からの学生生活の様々な相談に対応します。

留学生支援コーディネーターは、まず留学生の相談内容を把握し、必要に応じて学内外の適切な機関と連携していきます。

- 【相談事例】
- ・授業がわからない、単位がとれない【**正課に関わること**】
 - ・慣れない日本での生活に困りごとがある
 - ・友達ができない、人間関係がうまくいかない、体調が優れない、時間管理がうまくいかないなど【**人間関係、生活や健康に関わること**】
 - ・課外活動に参加したい、課外活動やアルバイトとの両立について【**課外に関わること**】
 - ・事件や事故、トラブルについて【**緊急性のあること**】
 - ・不安や悩みを誰に相談したらよいかわからないなど

■進路・就職

日本では大学院在学中に修了後の進路を決めることが一般的です。在留資格「留学」は大学院の修了日に失効するため、留学生の皆さんが修了後に日本企業で働くためには、在学中に就職活動をする必要があります。日本での就職活動については、採用方法やスケジュールなどの点で海外にはない特徴がありますが、立命館大学キャリアセンターでは日本での就職を希望する留学生のために充実したサポートを提供していますので、安心して進路選択や就職活動に取り組むことができます。これまで多くの留学生が、キャリアセンターのサポートを早い時期から活用することで、日本企業へ就職しています。

●立命館大学キャリアセンターの留学生向けサポート

日本での就職を希望する留学生を対象に、就職ガイダンスや学内での企業説明会・選考会、留学生の先輩による就職相談会、エントリーシートの書き方講座など、年間を通じて様々な企画を実施しています。各種サポートはオンラインを中心に行っています。

個別相談(予約制)

各キャンパスの専門カウンセラーが、進路・就職に関する様々な相談(自己分析、採用選考、インターンシップなどを含む)に対応します。

※日本語だけでなく英語でも対応しています。

●日本企業の就職先例

文 系	アクセンチュア(株)、アマゾンジャパン合同会社、(株)キーエンス、キンドリルジャパン(株)、ソフトバンク(株)、日本アイ・ビー・エム(株)、(株)ニトリ、(株)日立製作所、富士通(株)、楽天グループ(株) 他
理 系	(株)クボタ、コニカミノルタ(株)、シャープ(株)、(株)セガ、日産自動車(株)、日本アイ・ビー・エム(株)、日本電信電話(株)、ヤンマーホールディングス(株)、ライオン(株) 他

■よくある質問

Q.日本語または英語の力はどのぐらい必要ですか

A.希望する研究科、入学試験方式によって異なりますが、希望する指導言語で大学院の授業を理解できる程度の力は必要です。詳しい条件は、各研究科の入学試験要項で確認できます。また、日本での就職を希望する場合は、JLPT・N1(ビジネスレベルの日本語)を求められることが多いです。

Q.日本での受験が必ず必要ですか？

A.研究科や入学試験方式によっては、書類選考のみで可否を決定するなど、試験のための来日が必要ない場合があります。詳しい選考方法は各研究科の入学試験要項で確認できます。

社会人のみなさんへ

立命館大学大学院では、学位取得、仕事に直結する専門知識の習得、生涯学習など、様々な目的をもった多くの社会人学生がともに学び、研究されています。

ご紹介している制度の詳細については研究科により異なりますので、詳細は各研究科へお問合せください。

■ 社会人入学試験

以下の研究科では、社会人を対象に募集をおこなう**社会人入学試験**を実施しています。

実施研究科

法学	社会学	文学
言語教育情報	先端総合学術	経済学
スポーツ健康科学	食マネジメント	理工学
生命科学	薬学	政策科学
人間科学	情報理工学	テクノロジー・マネジメント
経営管理	教職	

※課程や年度により、実施しないことがあります。詳細は各研究科の入学試験要項を確認してください。

※上記以外の研究科でも、一般入学試験等で社会人の受験が可能です。

※デザイン・アート学研究科では2年制に加えて、主に社会人を対象とした1年制も設置予定。(2026年4月「デザイン・アート学研究科」設置構想中)

■ 長期履修制度

在学中に職業を有することにより、学修・研究時間を十分に取ることが出来ず標準修業年限で修了することが困難な場合、標準修業年限を超え、在学年限(4年)の範囲内の期間において計画的に教育課程を履修することを目的とした制度です。

博士課程前期課程・修士課程・専門職学位課程に入学する方を対象に、入学試験の出願時※に申請を受け付けています。

※教職研究科を除く

実施研究科

文学	デザイン・アート学※ (2年制のみ)	言語教育情報
経済学	スポーツ健康科学	食マネジメント
政策科学	人間科学	経営管理
教職		

※デザイン・アート学研究科では2年制のみ長期履修制度を導入予定。(2026年4月「デザイン・アート学研究科」設置構想中)

科目等履修生制度

大学院に入学せずに授業を履修し、所定の要件を満たすと単位を修得できる制度です。修得した単位は、本学大学院の正規課程へ入学した場合に、入学後の単位として認定することがあります(認定する単位数には上限あり)。

子育てと大学院生活の両立をサポートする保育園

立命館みらい保育園WEBサイト
<https://www.ritsumeai.ac.jp/rnrnursery/>



2018年9月に衣笠キャンパスおよびびわこ・くさつキャンパスに開園しました。

保護者のうちどちらかが立命館大学の大学院生であれば利用を申請することが可能で、研究・就学と育児の両立を頑張る保護者の方をサポートしています。

大学暦にあわせての土日祝開講日の開園や、通常保育は午後7時まで(延長保育は午後8時まで)など利用時間も幅広く、授業や研究に多忙な大学院生でも利用しやすい環境を整えています。

★常時保育のほか、学業・研究に専念したい時間帯にお預かりする一時保育も実施しています。

立命館みらい保育園さぬがさ
(委託先: 社会福祉法人京都保育センター)



立命館みらい保育園びわこ
(委託先: 株式会社ボビンスエデュカ)



サテライトキャンパス (大阪梅田キャンパス)

大阪梅田キャンパスWEBサイト
<https://www.ritsumeai.ac.jp/osakaumedacampus/>



アクセス至便な立地で、多数の社会人が受講しています。

開講研究科

経営管理研究科[ビジネススクール]

テクノロジー・マネジメント研究科

言語教育情報研究科

講義のオンライン配信、ハイフレックス授業に整備された教室や、ディスカッションなど双方向授業に適した馬蹄教室など、多目的に利用できる環境を整えています。学生の交流や自主学習にも活用できる、フリースペースやキャレルデスクを配置した自習室も備えています。



社会人院生インタビュー(経営管理研究科/ビジネススクール)



福富 知美さん

2020年 O社へ入社、戦略室M&A担当
 2020年 立命館大学RBS入学
 2022年 立命館大学RBS修了
 2023年 ミツテック株式会社へ転職
 新規事業の立ち上げやリブランディングのプロジェクトリーダーとして活躍

福富さんの時間割(イメージ)

*経営管理研究科は2時限連続授業を実施

平日夜間	6・7時限
土曜日・日曜日	3・4時限/5・6時限

■授業時間

(授業時間帯は、在学当時(2020-2021年度)のもの。現在とは異なります。)

平日(月～金)	6・7時限	18:30～21:30
土曜日・日曜日	1・2時限	9:10～12:10
	3・4時限	13:20～16:20
	5・6時限	16:50～19:50

■福富さんの履修例(1年目～2年目前半期まで)

	月	火	水	木	金	土	日
午前							
午後	授業			授業		授業	授業

- 平日2つ/土日2つ、週に4つを基本に受講。
- 2年目の下半期は、ゼミで課題研究に集中。

RBS(立命館大学ビジネススクール)進学のきっかけは?

大学を卒業後、いくつかの会社で営業や商品企画の仕事を経験しました。その後、転職した会社で経営企画という新しい仕事にチャレンジすることになり、上司の勧めもあって“経営”を体系的に学ぼうと考えたのが進学のカギでした。私の担当業務が企業の買収を行うM&Aだったため、「経営層の方々と同じ目線で対等に話すにはもっと勉強が必要だ」と感じていました。

そのなかでもRBSを選んだ決め手は2つあります。1つめは、梅田にキャンパスがあり、仕事帰りでも通いやすいところ。もう1つは、長年教授をされているようなアカデミックな先生と、実務に長けたプロフェッショナルな先生の両者が揃っていること。実際、学問と実務の2つの視点から深く学ぶことができて有意義な時間でした。

どのように仕事と大学院を両立しましたか?

限りある時間のなかで、どうやって課題や発表資料をまとめるか、どれだけ教科書を早く読むかなど、とにかく勉強時間の確保が大変でした。そこで私が意識したのは、生活のあらゆるシーンで効率を意識することです。例えば美容院やネイル、友人との食事の数ヶ月前から予定し、きっちり計画を立てて行いました。おかげでスケジュールリングはうまくなったと思います。また平日は会社のフレックスタイム制度を活用して早く帰り、勉強時間を捻出する日もありました。家では夫に家事を多くやってもらうなど、職場の方や家族の理解と協力があつたのも大きかったですね。

RBSを修了した感想を教えてください。

進学する前と修了した後では、意識も行動も本当に大きく変わって視野が広がったと感じます。RBSの授業は受けた翌日に会社ですぐ役立つような内容が多くあり、最先端の知識をリアルタイムで吸収して実践に活かすことができます。そのため経営企画やM&Aが未経験だった私も、修了後は周りから頼りにされるほど成長できました。

また20代から60代まで幅広い年代、会社員だけでなく自営業や経営者の方など、多様なバックグラウンドを持つ同級生と出会えたことが一番の財産だと思います。一人で勉強しては得られなかった知見、キャリアの選択肢が広がり、人生が豊かになりました。今でも当時学び合った仲間とは時々会って刺激を受けています。

大学院進学を迷う社会人の方に、メッセージをお願いします。

私は30代後半で進学したので、「年齢的に遅いのでは」「そもそも勉強についていけるのだろうか」という不安がありました。でも実際に入ってみると、学ぶ意欲さえあれば受け入れてもらえます。勉強が苦手でも、これまでの仕事の経験が必ず強みになる場面があります。いろいろと迷うことはあると思いますが、「迷っているなら絶対に飛び込んでみたほうがいいですよ!」とお伝えしたいですね。

CHECK
IT!

教育訓練給付制度(厚生労働省)

働く方々の主体的な能力開発やキャリア形成を支援し、雇用の安定と就職の促進を図ることを目的として、厚生労働大臣が指定する教育訓練を修了した際に、受講費用の一部が支給されるものです。

立命館大学では以下の講座で指定を受けています(2024年度参考)。

名称	金額	対象
一般教育訓練	初年度必要経費の20%相当額(上限10万円) ※初年度必要経費 入学金+授業料(減免奨学金を差し引いた額)	※以下の各研究科の修士課程・博士課程前期課程・専門職学位課程を対象とし、博士課程後期課程は経営学研究科のみ対象とします。 法学(一部コースのみ)、社会学、言語教育情報、経済学(一部コースのみ)、スポーツ健康科学、経営学、政策科学、映像、テクノロジー・マネジメント、経営管理(観光マネジメント専攻観光事業マネジメントプログラム)
専門実践教育訓練	① 受講中: 受講者が支払った教育訓練経費の50%相当額(上限40万円/年) ② 受講の修了後: 受講者が支払った教育訓練経費の20%相当額を追加支給 ③ 修了後特定の条件を満たす場合: 受講者が支払った教育訓練経費の10%相当額を追加支給(上限8万円/年)	経営管理研究科(経営管理専攻マネジメントプログラム) ※①～③を合わせて 2年間で 最大128万円

支給対象者や要件などの詳細は、以下WEBサイトで紹介しています。

https://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/financial/





法学研究科は法学・政治学の高度で発展的な研究を行う教育機関です。法学・政治学を究める、深める場といえます。法学研究科博士課程前期課程は、以下の3つのコースからなっています。

全てのコースが、社会人や留学生にも開放されており、多様な院生が自身の目的に照らして、最適なコースを選びより専門的な学修・研究を進める場が法学研究科です。法学研究科には次の①～⑥に記す特長があります。全てのコースが①～④を有しており、研究コース以外ではさらに⑤・⑥も備えています。

① 少人数教育：講義科目、研究指導科目ともに、少人数で密度の濃い授業

④ 精緻な分析能力と大局的な視点の醸成

② 総合的プレゼンテーション(読む・書く・聞く・話す)能力の向上：少人数授業が故に、プレゼンテーションの機会も多くなります

⑤ 法学部の長所たる「漬しがきく」点を保持：法学部の学問領域を継承するため、民間企業・公務員など幅広い分野への進路が見込めます

③ 問題発見能力・紛争解決能力の涵養

⑥ 実用としての法律学・使える法律学のさらなる研究が可能

希望の進路にあわせたコース・プログラム展開で、きめ細かく丁寧な研究指導を行います(※)。また、法学研究科博士課程後期課程には、研究コースがあり、法学・政治学の研究者となるために必要とされる知識と能力(法学・政治学に関する高度な専門知識、自ら立てた研究計画に基づいて独創性のある研究を行い、その成果を学術論文にまとめる能力)の獲得できる研究指導を行い、高い研究力量を備えた人材を養成しています。

※本研究科は、税理士試験の科目免除に対応したカリキュラムです。

法学研究科博士課程前期課程の3つのコース

研究コース 法学・政治学分野の研究者を養成する

研究者養成を目的としたコースです。博士課程前期課程2年、後期課程3年の「ゆるやかな5年一貫制」をとっています。論文作成に向けた個別指導が行われるほか、専門分野ごとの研究会での討論を通じた少人数のグループ指導も行われます。なお、後期課程は本研究科以外からも受け入れ、別途司法試験に合格した方を受け入れる入試も実施しています。

リーガル・スペシャリスト・コース 企業法務、税務のスペシャリストや法務能力を持つ公務員を養成する

■ビジネス法プログラム

民間企業や金融機関で法律専門職として活躍する人を養成するプログラムです。金融・証券関係の法制や証券化などの金融実務を学修します。

■公共法務プログラム

国家公務員総合職や地方公務員としての法学の素養の養成を想定したプログラムです。行政学、公共政策、地方自治と法など公務員に必要な法体系を学修します。

■税務プログラム

税理士や公認会計士など税法務のプロフェッショナルを養成するプログラムです。税理士法人・事務所での法務実習を通じて実務感覚も涵養します。

法政リサーチ・コース 法学・政治学に関わる学修・研鑽を深める

学部段階での学びで究明しきれなかったテーマや社会人としての経験で抱いた問題意識や学問的関心などを、より専門的に深めるためのコースです。このコースには、「政治学プログラム」と「法学プログラム」の2つのプログラムがあります。各人の興味・関心にあわせて、他コース開設科目を含め、研究科に配置された科目を自由に履修できます。両プログラムとも民間企業や法律専門職、公務員など幅広い進路で活躍することが期待されます。

■政治学プログラム

政治学という学問領域は広く、行政などの公共で活躍するには、一定法的思考も要求されることから、政治学科目以外の法律科目を履修することが推奨されます。

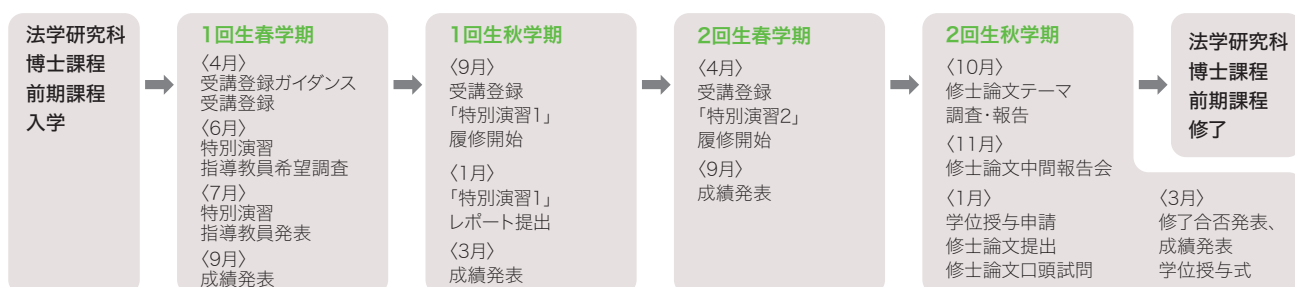
■法学プログラム

プログラムの履修モデルに沿って法学の基礎、企業活動、国際関係、医療生命倫理などの広い法学的な課題を問題意識として、希望する科目を履修します。

博士課程前期課程 履修モデル

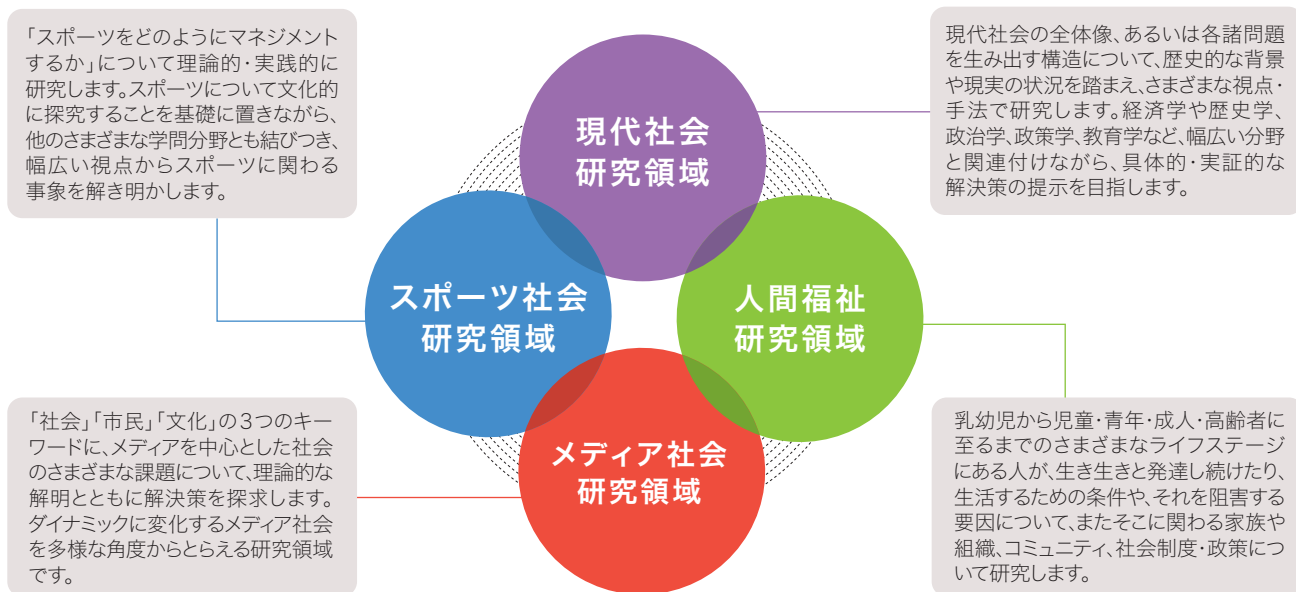
研究コース	-	憲法研究(講義/演習)/民法研究(講義/演習)/刑法研究(講義/演習)/政治学研究(講義/演習)/法哲学研究(講義/演習)/比較法研究(講義/演習)/外国語講読 など
リーガル・スペシャリスト・コース	ビジネス法プログラム	保険法/金融・証券法/商取引法/会社法Ⅰ・Ⅱ/国際経済法/国際取引法/企業法務 など
	公共法務プログラム	憲法/民法Ⅰ・Ⅱ/行政法Ⅰ/行政学/地方自治と法/労働法/政治学/公共政策 など
	税務プログラム	税法総論/所得税法/法人税法/消費税法/租税手続・争訟法/国際税法 など
法政リサーチ・コース	政治学プログラム	憲法/行政法Ⅰ/社会保障法/行政学/政治学/現代政治分析/国際政治論/政治思想史/政治史
	企業活動	民法Ⅰ/消費者法/商取引法/会社法Ⅰ・Ⅱ/著作権法/特許法/意匠法/独占禁止法
	国際関係	国際法/国際人権法/国際私法/国際環境法/国際政治論/アジア法/英米法/西洋法史
	医療生命倫理関係	憲法/刑法Ⅰ/家族法/法哲学/法社会学
法学プログラム	法学の基礎研究	法哲学/法社会学/西洋法史/日本法史/アジア法

博士課程前期課程 研究指導フローチャート(リーガル・スペシャリスト・コース、法政リサーチ・コース共通)





社会学研究科は、「現代社会」「人間福祉」「スポーツ社会」「メディア社会」の**4つの研究領域**を設けています。各研究領域をベースに、時には領域を横断しながら、専門性と実践力を磨くことができます。



社会学研究科の特徴

- ・**専門性**: 研究領域ごとの「必修科目」「研究領域基幹科目」を設定し、専門性の基盤を築くカリキュラムを編成しています。
- ・**学際性**: 100名近い教員が集い、多様な知に触れることで学際的な研究を実践できます。
- ・**国際性**: 世界的な研究者によるサテライト授業や、留学生もまじえた共同研究を通じて国際性を高めます。
- ・**研究・教育環境**: さまざまな機会を通して院生同士のコミュニティ作りを促進しています。また、研究や学びの質を高めるために院生との研究科懇談会を定期的に実施しています。

「国際化」・「プロジェクト系科目」・「資格取得」

一部科目を基本的に英語で開講しており、また、韓国・中央大学など海外の大学院との合同研究、報告会の開催やDMDP(修士課程共同学位プログラム)などを通じて院生の国際交流にも力を入れています。

また、領域横断的・実践的な教育を提供するため、複数の教員による集団指導を行う横断型の「研究プロジェクト」をはじめ、「キャリア形成プロジェクト」「国際プロジェクト」などのプロジェクト系科目を設けています。

資格取得の面では、社会調査の専門的知識と技能の修得を目的とした「社会調査士・専門社会調査士課程」を設置し、キャリアアップを支援しています。また教育職員免許の一種免許状を取得している場合は、より高度な知見を教壇で活かすために専修免許状の取得が可能です。

博士課程前期課程カリキュラム紹介 [2025年度] (シラバスは後期課程も含めて社会学研究科ウェブサイトからご覧いただけます)

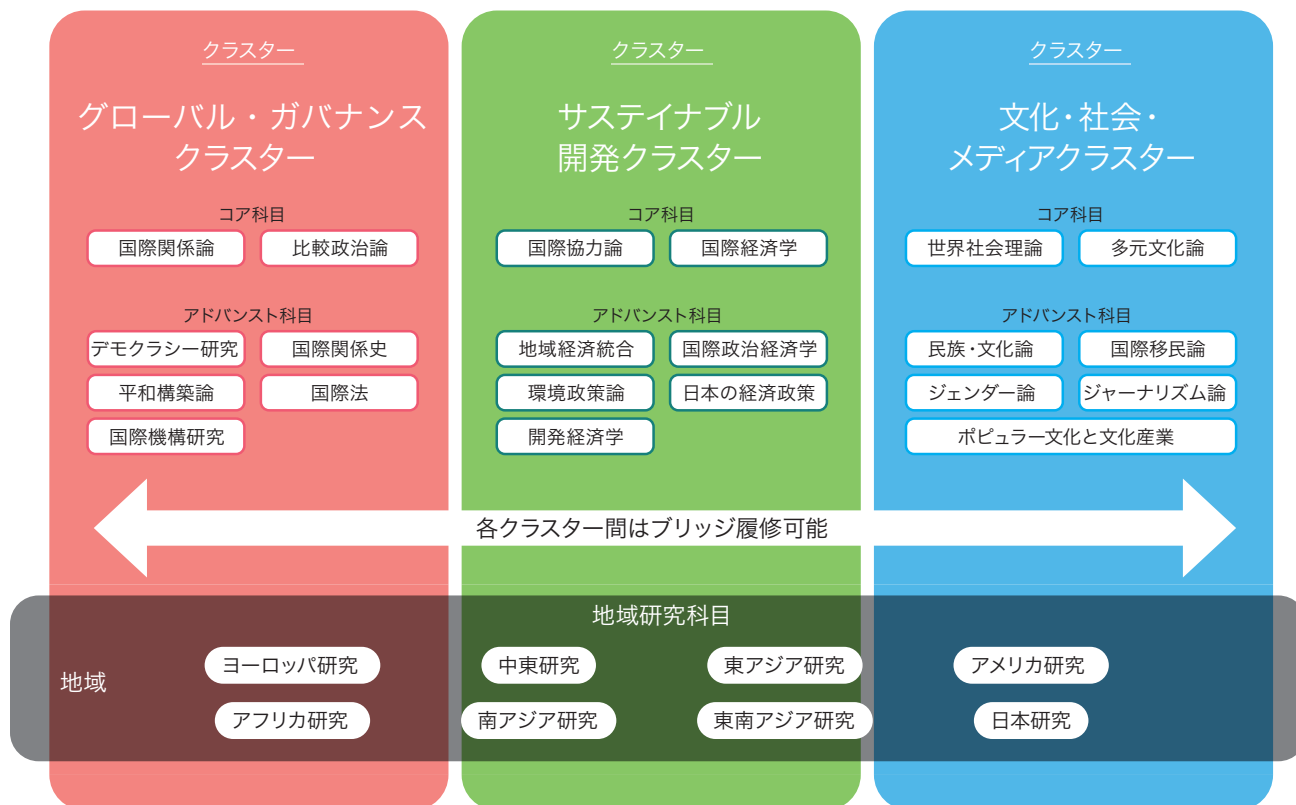
	M1		M2	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター
研究指導科目	特別演習Ⅰ	特別演習Ⅱ	特別演習Ⅲ	特別演習Ⅳ
国際関連科目	外国語発信型科目(アカデミックライティング・アカデミックプレゼンテーション・英語リサーチスキル入門) 外国語論文講読科目(資料文献研究Ⅰ(英語)・Ⅱ(仏語)・Ⅲ(独語)) 国際社会研究科目(国際社会研究・比較社会研究・日本社会研究)			
応用科目	研究領域専門科目(産業社会研究・福祉社会研究・スポーツ社会研究・メディア社会研究など) 実習系科目(応用社会学実習A(インターンシップ型)) プロジェクト系科目(研究プロジェクト・国際プロジェクト・キャリア形成プロジェクト) 履修交流系科目(単位互換履修科目など)			
基幹科目	社会学研究法Ⅰ(スタンダード)		社会学研究法Ⅰ(スタンダード)	
	社会学研究法Ⅱ(アドバンスト)		社会学研究法Ⅱ(アドバンスト)	
	研究領域基幹科目Ⅰ(領域ごと)	研究領域基幹科目Ⅱ(領域ごと)		
	社会学理論	社会学史研究		
	社会調査研究Ⅰ 多変量解析法Ⅰ 社会統計研究	社会調査研究Ⅱ 多変量解析法Ⅱ		



国際関係研究科は、国際関係学を基礎とし、政治、経済/開発、文化・社会・メディアといった幅広い学問分野を学べます。また、北米、中南米、中東、アフリカ、日本、東アジア、東南アジア、南アジア、ヨーロッパまでを網羅した科目の提供と論文指導を行っています。カリキュラムは、国際関係学プログラム(日本語基準プログラム)とGlobal International Relations Program(英語基準プログラム)を展開しています。

カリキュラムと主な開講科目一覧

国際関係学プログラム(日本語基準プログラム)



※入学者の所属はプログラムのみで、いずれのクラスターで分類される科目も履修可能

※上記科目は一例であり、全ての科目が毎年開講されるものではない

※Global International Relations Program(英語基準プログラム)はGlobal Governance Cluster, Sustainable Development Cluster, Culture, Society and Media Cluster, Global Japanese Studies Clusterの4つのクラスターで構成される

特徴

・西日本初の国際関係学を学ぶ大学院

1992年に西日本初の国際関係学を学ぶ大学院として開設。豊富な研究実績や多様な進路実績があります。

・日本語、英語で学位取得可能

日本語・英語のいずれかの言語で学位取得が可能です。

・多様な学問分野で形成されたカリキュラムと豊富な地域研究

政治、経済/開発、文化・社会・メディアといった幅広い学問分野で形成された国際関係学のカリキュラムを学べます。また、北米、中南米、中東、アフリカ、日本、東アジア、東南アジア、南アジア、ヨーロッパまでを網羅した科目の提供と論文指導を行っています。

・クロス履修システム

所属プログラムとは異なる言語(英語または日本語)で開講される科目の履修にチャレンジできる制度があります。

・共同修士学位プログラム:最短2年間で2つの修士学位を取得

海外の大学院との間で共同修士学位プログラム(DMDP: Dual Master's Degree Program)を実施。博士課程前期課程在学中に正規留学することで、最短2年で2つの修士学位を取得できる制度です。

・実務家教員からの学び

国連・国際機関経験者や現役の実務家教員からの講義や特別セミナーを実施。研究を深めるだけでなく将来のキャリア形成に資する機会を提供しています。

・世界各国・地域からの外国人留学生との学び

外国人留学生比率は50%を超えています。また、文部科学省や国際協力機構(JICA)の奨学金制度を活用して、各国から現役の行政官も在籍。彼らの出身国の政治・経済・文化等の現状や課題を学びに生かすことができます。

・国際関係学をリードする大学院ネットワーク「APSIA」に日本で唯一加盟

ハーバード大学、イェール大学を始めとした世界の国際関係学をリードする大学院が集まる国際的な大学院ネットワーク「APSIA」に日本の大学・大学院の中で唯一正会員として加盟。定期的な会合への参加等を通じ、情報交換を行っています。



多様な教育・研究を生み出す2つの専攻、13の専修

文学研究科は人文学専攻と行動文化情報学専攻による、2専攻13専修の体制となっています。伝統的な人文学に加え、情報技術と人文学を融合させたこれまでにない新しい学問分野を展開しています。

文学研究科	人文学専攻	哲学専修	現象学の系譜に連なる近現代の哲学やフランス現代思想、近現代の倫理学や応用倫理といった諸分野にスタッフを配置し、哲学の歴史と伝統を踏まえつつ、人間存在を取り巻く根源的・現代的課題に迫ります。
		教育人間学専修	「人間であること、人間になること、人間を超えること」を全体コンセプトとして、教育と人間のかかわりを多角的に考究します。その出発点は、生まれ、育ち、出会いや別れをへて、やがて老い、死にゆく人間の営みに対する驚きと悲しみです。
		日本文学・日本語学専修	日本文学研究と日本文化研究とを融合させた学際的、国際的な「日本研究」、情報技術を活用した「コーパス日本語学」の実践を通して、最先端の研究手法を身につけ、日本文学、日本文化、日本語の核心に迫ります。
		中国文学・思想専修	悠久の歴史の中ではぐくまれ、東アジアの文化に大きな影響力をもつ中国の文学や思想に関する高い識見を養い、そこに存在する興味深い問題について清新な研究を展開します。
		英米文学専修	英米を中心とする英語文学・文化を広く深くカバーする専門分野の教員が指導に当たり、高度な英語力や分析力を養います。研究職はもとより、英語力が要求される多様な職場への就職が考えられます。
		日本史学専修	古代から現代に至る各時代のスペシャリストが、伝統ある「立命史学」に立脚した新たな歴史学を構築します。全国各地で教員・学芸員として活躍する先輩たちとのネットワークも充実しています。
		東洋史学専修	中国を中心とする東アジア世界を、その起源に遡って研究します。そのための方法としての原典読解は、昨今の東アジア諸地域におけるダイナミックな動きの原点を探る上で有益でしょう。
		ヨーロッパ・イスラーム史専修	ヨーロッパやイスラーム世界の様々な地域・時代・分野を専門とする多様な教員が、ヨーロッパ・イスラーム史研究の世界的な研究拠点を立命館大学に築くべく、大学院生とともに研究を進めています。
		文化動態学専修 【博士課程前期課程のみの募集】	比較文化論、言語学、歴史学、美術史、現代芸術批評、音楽文化論、社会思想史、文化人類学等の専門領域を横断しながら文化のダイナミズムに取り組める専修です。
		現代東アジア言語・文化学専修	中国（台湾・香港などを含む）・朝鮮半島を領域とし、そこにおける言語・現代文化・現代史を教学分野として、中国語・朝鮮語の実践的なコミュニケーション能力を身につけた、グローバルな東アジア人を育成します。
		英語圏文化専修	応用言語学および英語圏文化の歴史、文化・文学を分野横断的に研究します。高度な専門性を磨きつつ学際的な思考力を身につけます。また、これらの研究を通して国際的に活躍できる英語運用能力を養います。
	行動文化情報学専攻	地理学・地域観光学専修	空間的視座から地球上の多様な現象を解明する「地理学」と、地理学を軸としつつ社会学・文化人類学等の知見を取り入れた学際的視座から観光現象を解明する「地域観光学」に関し、質の高い教育・研究を展開します。
		考古学・文化遺産専修	人類の残した遺跡や遺物から歴史を復原する考古学を学ぶと同時に、遺跡や遺物を中心とする文化遺産の保存と活用について学びます。日本列島の考古学と文化遺産が対象ですが、日本列島以外についても広く学ぶことが可能です。

大学院生の目的に応じた2つのコースを設置【博士課程前期課程】

前期課程では、様々な目的を持つ人を受け入れるため、2つのコース（高度探究コース、研究一貫コース）を導入しています。コースは入学試験出願時に決定し、入学後はそれぞれの目標に沿って研究を進めていきます。

高度探究コース

人文学をより深く学ぶコース。社会的要請に対応する知識、技能および経験を持ち、現代の多様な問題に対処できる人材を育成します。博士課程前期課程修了後、大学院で学んだ知識や経験を活かし、中学・高等学校教員、民間企業、公務員、学芸員などの多様な分野での就職を目指す人。また現役の有識者で、より専門的な能力を身につけることを目指す人などを対象とします。

研究一貫コース

研究者を目指すコース。博士課程後期課程に進学して博士学位を取得することを目指す人を対象とします。研究者となるための基本的素養を修得するとともに、博士課程後期課程へ進学できる人材を育成します。



※2026年4月設置構想中。設置計画は予定であり、内容は変更となる場合があります。

デザイン・アート学研究科の特色

歴史・文化都市「京都」に位置する衣笠キャンパスにおいて、未来志向の新たなデザイン学の追求とアートの技術・感性を基盤に自然科学と人文・社会科学領域を横断した教育・研究の展開を行います。リアルだけでなく、オンライン・オンデマンド・バーチャル空間などを利用し、多様な社会に適したより柔軟で高次元の学びの環境を整備予定です。美的感性に裏打ちされた、「問題解決力」「問い直し力」「共創力」「問題発見力」「創造的思考力」を総合的に身につけた、クリエイティブで柔軟な思考を涵養します。

デザイン・アート学研究科で育成される能力

新たな「意味」のデザイン

私たちの生活のあるべき姿を美的感性によって問い直し、そこに新たな意味を見出すことで、新たな文化を創造する。

新たな「情報」のデザイン

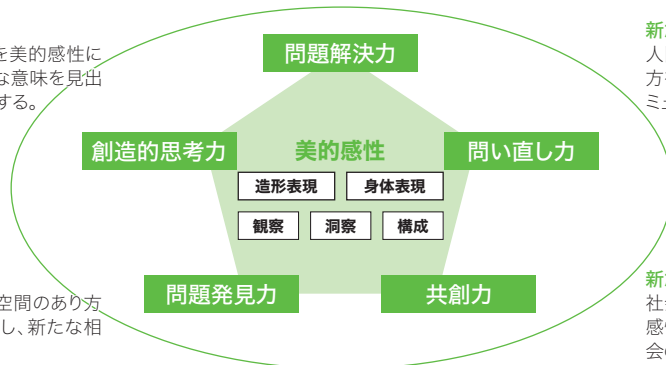
人間とモノとのコミュニケーションのあり方を美的感性によって問い直し、新たなコミュニケーションのかたちを創造する。

新たな「環境」のデザイン

人間とモノ、それを取り巻く空間のあり方を美的感性によって問い直し、新たな相互関係を創造する。

新たな「社会」のデザイン

社会を構成する人間と組織の関係を美的感性によって問い直し、未来のあるべき社会のビジョンを創造する。



問題解決力: 人間、組織、社会のあるべき姿を実現するための問題解決の営みにおけるデザイン実践によって育成される。
問い直し力: 複雑に変化する状況に対応し、問題解決の行為の中の省察と修正を繰り返すデザイン実践によって育成される。
共創力: ひとつの解がなく問題解決に終わりが無い「厄介な問題」に対し、分野を横断し、多様な他者との協同によるデザイン実践によって育成される。
問題発見力: モノと人間との関係性にある意味に基づく理解や行動により、意味を創造するデザイン実践によって育成される。
創造的思考力: 探究的・無秩序であり、問題の本質と解決策の往還を繰り返す思考におけるデザイン実践によって育成される。

カリキュラムの概要

デザインやアートにとどまらず、様々な領域の学部からの進学者を対象とした2年制コースに加えて、主に社会人を対象とした1年制コースを設置します。1年制コースでは、新たな構想立案のためのスキルやマインドセットの修得に特化した「新領域デザインストラテジー (NDS) 専修」と、デジタル領域に関わる知識・スキルやイベント・ワークショップなどのマネジメントスキルの修得に特化した「新領域アートディレクション (NAD) 専修」の2専修を置きます。

	修士課程 (2年制)	修士課程 (1年制)
修業年限	2年	1年
入学定員	5名	15名
専攻	デザイン・アート学専攻	
専修	—	新領域デザインストラテジー (NDS) 専修、 新領域アートディレクション (NAD) 専修
取得学位	修士 (デザイン・アート学)	

修士課程2年制の科目構成

科目区分	1回生		2回生	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター
研究指導科目	—	●新領域デザイン・アート学研究Ⅰ②	●新領域デザイン・アート学研究Ⅱ②	●新領域デザイン・アート学研究Ⅲ②
新領域デザイン・アート学基盤科目群	●新領域デザイン・アート学の探究② ●新領域デザイン・アート学特論Ⅰ② ●新領域デザイン・アートリサーチ方法論研究Ⅰ②	●新領域デザイン・アート学特論Ⅱ② ●新領域デザイン・アートリサーチ方法論研究Ⅱ②	—	—
新領域デザイン・アートランゲージ科目群	理論	戦略的デザインマネジメント論②/デジタルメディアデザイン論②/戦略的アートマネジメント論②/ デジタルデザインヒューマニティーズ論②/グローバルデザイン論②/デザインリーダーシップ論②/ローカルデザイン論②/ コンピューティングデザイン論②/デジタルデータデザイン論②/新領域デザイン・アート学特殊講義②		
	技能	ファシリテーションデザイン演習②/デジタルアーカイブ演習②/質的デザイン評価法演習②/ デザイン科学評価法演習②/デジタルデザイン表現演習②		
		デザインフィールドワーク演習②(夏集中)/ デジタルアート表現演習②(夏集中)/ フィジカルアート表現演習②(夏集中)/新領域デザイン・アート学特殊演習②		

●… 必修科目 ○内の数字は単位数

修士課程1年制の科目構成

科目区分	1回生	
	1セメスター	2セメスター
研究指導科目	●新領域デザイン・アート学研究A②	●新領域デザイン・アート学研究B②
新領域デザイン・アート学基盤科目群	●新領域デザイン・アート学特論Ⅰ② ●新領域デザイン・アートリサーチ方法論研究Ⅰ②	●新領域デザイン・アート学特論Ⅱ② ●新領域デザイン・アートリサーチ方法論研究Ⅱ②
新領域デザイン・アートランゲージ科目群	理論	●グローバルデザイン論② ●デザインリーダーシップ論② ●ローカルデザイン論② 新領域デザイン・アート学特殊講義②
	技能	質的デザイン評価法演習② デザイン科学評価法演習② デジタルデザイン表現演習②
		新領域デザイン・アート学特殊演習②

★… 新領域デザインストラテジー (NDS) 必修科目 ☆… 新領域アートディレクション (NAD) 必修科目
 ●… 新領域デザインストラテジー (NDS)、新領域アートディレクション (NAD) 必修科目 ○内の数字は単位数



現代社会の課題解決の鍵となる言葉の専門家を育成

言語教育情報研究科は、「英語教育学」「日本語教育学」「言語学・コミュニケーション表現学」の3コース編成です。これまで培ってきた言語そのものの仕組みについての学問と、言語教育や文化・社会の多様性を解明する学問を、新たにコミュニケーション表現学と結びつけることにより、混迷する現代社会の今日の課題を解決することにつなげていきたいと考えています。

英語教育学コース

日本の英語教育は、従来の言語知識偏重の教育から、実践的コミュニケーション能力を養成する方向に大きく舵が切られました。これからの英語教員には、英語教育学に関する深い造詣、教師自身の高い英語運用能力、そして高い学習目標と動機づけによる意欲的な学習と、達成感から生まれる大きな喜びを、学生・生徒に与えることが求められています。本コースではこのような教育理念に基づき、国際通用性を獲得した英語教員を養成するために、外国語としての英語教育に関する深い専門知識を得る科目履修に加えて、海外でのTESOL資格の取得や日本の高等学校でのインターンシップを両輪としたカリキュラムを組んでいます。

日本語教育学コース

国内では日本に定住する外国人が増え、海外ではアニメなどをきっかけに日本語を学ぶことも一般化しています。国内外で日本語学習者が増加し、学習者および学習環境の多様化が進んでいます。本コースでは各現場で主体的に日本語教育を展開することができる専門家を育成するために、言語学習のプロセス、言語教育、言語、言語と文化/社会の関係などの専門知識と研究方法を学び、国内外の日本語教育機関における教育実習で実践力を身につけます。本コースは、現職の日本語教師、学部で日本語教育や日本語学を専攻した人はもちろんのこと、社会人、日本語や日本文化を学んでいる留学生、文化、社会、外国語などを学んできた人など、多様な背景を持った人に開かれています。

言語学・コミュニケーション表現学コース

本コースは、言語の普遍性に留意しつつ、英語・日本語などを研究対象にして、言語科学的分析あるいは社会言語学的分析を行います。研究科が保有する巨大な電子テキストをコンピュータによって解析し、それを言語の体系の中でどのように説明すべきかを考えます。言語理論については、生成文法理論や認知言語学を扱います。社会言語学的視点からは、ポライテネスストラテジー、バイリンガリズム、地域・社会方言の研究などを行います。さらに、音声表現がどのように円滑なコミュニケーションを成立させているかといった問題や、コミュニケーションおよび相互行為、言語表現を担うメディアの多様性とテキスト間の相互関連性などを扱います。

研究指導の流れ

4月入学の場合(9月入学の場合概ね時期が6ヶ月ずれます)

M1 1学期目		M1 2学期目			M2 1学期目		M2 2学期目		
5月			12月	1月	5月		10月		1月
年間研究指導計画書	R01-研究基礎論Ⅰ	R02-研究基礎論Ⅱ			R03-課題研究演習Ⅰ		R04-課題研究演習Ⅱ		学位審査対象成果物提出
	・研究の基本を学修 ・オフィスアワーを活用した個別指導との連携	準備 個人別の構想発表会	基礎固めとともに、 構想発表会	研究計画を練り直す	ゼミ希望申請	年間研究指導計画書 ゼミ配属 ゼミでの研究指導 中間報告会準備	中間報告会	ゼミでの研究指導	

← オフィスアワーで研究指導 →

科目紹介

*どのコースに所属していても他コースの科目も履修できます(「J13-日本語教育学演習」は日本語教育学コース所属者のみ履修可)

研究指導科目			
R01-研究基礎論Ⅰ	R02-研究基礎論Ⅱ	R03-課題研究演習Ⅰ	R04-課題研究演習Ⅱ
コースコア科目またはコース選択科目			
E01-英語教育学総論	E02-第二言語習得論	E03-英語学(文法論)	E04-早期英語教育論
E05-言語教育における測定と評価	E06-英語教育における語彙習得論	E07-英語教育学の諸問題	E08-英語教育インターンシップ
E09-英語授業分析・教材開発演習	E10-TESOL教授法と実習	E11-TESOLリサーチスキルズ	J01-日本語を対象とした第二言語習得論
J02-日本語教育学総論	J03-日本語教授法・教材論	J04-言語文化教育論	J05-年少者日本語教育論
J06-日本語学(語彙・意味)	J07-日本語学(文法)	J08-語用論・談話分析	J09-日本語教育学の諸問題
J10-日本語教材開発演習	J11-日本語教育実践演習	J12-多文化共生実践演習	J13-日本語教育学演習
L01-音声学・音韻論	L02-意味論・語用論	L03-形態論・統語論	L04-英語語法文法研究
L05-対照表現研究	L06-認知言語学	L07-英語語法文法分析演習	L08-言語調査法演習
L09-言語記述方法論	L10-バイリンガリズム	L11-言語情報学の諸問題	L12-バイリンガル言語習得と脳科学
L13-コーパスによる言語分析演習(日・英)	L14-Perlプログラミング	L15-社会言語学	L16-コミュニケーション論
L17-音声表現コミュニケーションの諸相	L18-言語表現メディアの諸相	L19-相互行為分析	C02-電子教材開発演習
研究科共通科目			
C01-応用言語学のための統計解析	C03-基礎言語情報処理	C04-外国語教育学新展開講義	C05-英語翻訳学演習
C06-英語アカデミックスキル演習	C07-日本語アカデミックライティング	C08-特殊講義	

「長期履修制度」に関するご案内(社会人対象)

本研究科は「長期履修制度」を導入しています。詳細はP.19をご参照ください。



先端的なテーマを総合的に研究し、研究者を養成するために、2003年4月に開設された一貫制博士課程の独立研究科。「核心としての倫理」を軸として、「公共」「生命」「共生」「表象」という4つのテーマ領域のもとで、本学の研究所・センターと連携し、学内外の研究者とネットワークを構築して、ディシプリンを横断するプロジェクト研究を行い、大学院院生を共同研究者として参画させることによって、研究者養成を進めています。2025年度カリキュラム改革により、教育と研究がシームレスにつながるカリキュラムを提供し、次世代研究大学の実現を目指します。

《生命》 争点としての生命

生命科学・医療・福祉をめぐる科学的知識・技術の歴史的検討、倫理的諸問題の整理を通じて、生命・生殖・病・死を総合的に探究し、新しい生命の理解と倫理の構築可能性を開く。

- 責任概念をめぐる探究 戸谷 洋志 (哲学・倫理学)
- 生命と技術の倫理 松原 洋子 (科学史・科学技術論)
- 医療・身体性・グローバルイゼーション・思想 美馬 達哉 (医療社会学)

《公共》 21世紀における公共性

身体をめぐる言説・運動・政策の変容過程を検討しつつ、断片的な生のあり方を拾いあげながら、デモクラシーと生存のための社会システムの公共性を探る。

- 精神医療史・医療社会学 後藤 基行 (歴史社会学・医療社会学)
- グローバル規範の変容 阿部 利洋 (社会学・地域研究[南アフリカ・カンボジア])

《表象》 文化と芸術の表象論的分析

文化と芸術の諸事象を表象論的観点から読解・分析します。技術、歴史、思想、実践への理解を主軸とし、創造と受容の場、諸々の文脈、メディアといった問題系へとアプローチ。

- 社会におけるアートの作用機序 竹中 悠美 (芸術学)
- 現代哲学と批評のあいだで思考する 千葉 雅也 (哲学・表象文化論)
- ゲーム・デジタルメディア表現論 M・ロート (メディア・日本地域研究)

《共生》 共生の可能性と限界

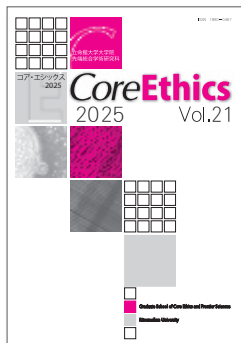
多大な犠牲を伴う不完全な共生実験であった人間の歴史を批判的に遡りつつ、未来に向けて、そうした犠牲を伴わない生命と生活の可能性を構築する方途を探る。

- フィールドスタディの拡張 阿部朋恒 (文化人類学)
- 狡知と生き方・働き方の人類学的研究 小川 さやか (文化人類学・アフリカ地域研究)
- 責任概念をめぐる探究 戸谷 洋志 (哲学・倫理学)
- 社会思想 酒井 隆史 (社会学) (2025年秋着任予定)



カリキュラム表

分野	科目名
基礎講読科目	超領域講読演習
応用講読科目	公共講読演習 生命講読演習 共生講読演習 表象講読演習
主題別科目	公共論 生命論 共生論 表象論 特殊講義
サポート科目	デジタルデザイン アカデミックライティング リサーチマネジメント
プロジェクト科目	プロジェクト予備演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 超領域実践プロジェクト 情報生産プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
他大学院科目	単位互換履修科目
大学院科目	大学院コア演習



★学位授与数【博士(学術)】

2003年4月の研究科設置以来、174名の博士学位取得者を輩出。(2025年3月31日現在)

★★刊行物

- 先端総合学術研究科紀要「コアエシックス」(外部査読員による査読付き雑誌)
- 修士生、教員多数の著作物あり。くわしくは先端研ウェブサイトをご覧ください。

★アカデミックキャリアに多数決定

(詳細は先端研パンフレット参照)

一貫制博士課程

前期課程相当

1回生 2回生
博士予備論文合格
30単位修得
(修士学位取得可能)^{※1}

3回生 4回生 5回生 ~

- 情報生産プロジェクト演習8単位
- 博士論文構想発表会合格
- 査読付き論文3本

後期課程相当

博士論文提出 → 審査 → 博士号

※1 2年以上在学し、所定の単位を修得し退学する場合に修士学位を授与することがあります。

3年次転入学^{※2}

※2 受験資格は入学試験要項を参照してください。

最近の博士論文テーマ

- 沖縄の共同体論とジェンダー——シングルマザーの子産み子育てをめぐる選択をもとに
- スラムツーリズムの人類学：ケニア・キベラにおける記憶、遺産、ガイド
- 日本から韓国への移住に関する研究——ライフスタイル移住の観点から
- 中国における日本ビデオゲームの受容——非正規市場に対する考察を通して
- パレーシアステスとしての障害者——服従するだけではない主体(化)の追求のために



これまでの博士号取得者の
博士論文テーマはこちら。



博士課程前期課程

前期課程では、「経済理論・政策コース」「地域経済・地域マネジメントコース」「税理・財務コース」「Master's Program in Economic Development (MPED)」の4コース制とし、それぞれの人材育成目的の下、少人数による研究指導やカリキュラムの充実を図っています。外国人留学生を積極的に受け入れ、特にMPEDは留学生を中心としてすべて英語による授業を行っています。世界的に高まっている高度なスキルを持つ人材へのニーズにこたえるため、国際通用力の高い論理的思考力と構想力および創造性を持った人材を養成しています。

経済理論・政策コース

さまざまな経済問題を深く研究し、高度な論理的思考力、調査分析能力、問題解決能力、政策提言能力を育成します。経済学のスペシャリストとして、民間企業や官庁で中心となって活躍できる人材を養成します。

地域経済・地域マネジメントコース

経済理論を基礎に、地域経済の分析と政策立案、そして地域をマネジメントできる能力を涵養する教育を行います。困難に直面する地域経済の持続可能な発展のための政策提案ができる、現場に通じた官民の高度専門職業人を養成します。

知のプロフェッショナルになる

税理・財務コース

経済学を基礎としながら、法学や経営学との境界領域を含む教育を行い、公認会計士、税理士、企業における税務・企業財務・会計のスペシャリストを養成します。税理士の資格取得を支援し、時代のニーズに合った高度専門職業人を育成します。

Master's Program in Economic Development (MPED)

すべて英語による国際標準の経済学教育を行い、経済学を基礎とする問題解決能力、政策提言能力を身に付け、世界を舞台に活躍する国際的専門職業人を養成します。途上国を中心に多くの国から多数の留学生を受け入れ、国際色豊かな教育を行っています。

博士課程後期課程

後期課程では、広い視野と深い専門性および優れた独創性を持ち、新たな領域の研究分野を自ら切り開いてゆくことができる高い研究力量を備えた研究者を養成しています。この結果さまざまな大学や研究機関に多くの人材を輩出しています。

コース・カリキュラム紹介

	経済理論・政策コース	地域経済・地域マネジメントコース	税理・財務コース	MPED
1. 博士課程前期課程 (主な科目)	社会科学概論 ミクロ経済理論 マクロ経済理論 計量経済学 経済史 経済政策 経済理論 社会政策論	地域政策 地域マネジメント論 経済統計 社会科学概論 ミクロ経済理論 マクロ経済理論 地域ブランド論 観光経済論 アグリビジネス論	税法 租税制度論 国際課税 租税各論 商法・会社法 税務会計 インターンシップ	Microeconomics Macroeconomics Econometrics Japanese Economy Frontiers of International Project Development Infrastructure Development Policy Development Economics International Economics Financial Economics Applied Economics Elementary Seminar Research Seminar Special Seminar
2. 博士課程後期課程 (主な科目)	財政学 国際金融 経済発展論 経済学特別演習	金融論 国際経済論 応用経済研究 経済学研究演習		特別講義

修了要件

前期課程

修了するためには、2年以上在学し、コア系4単位以上および経済学特別演習Ⅰ、経済学特別演習Ⅱ、経済学研究演習Ⅰ、経済学研究演習Ⅱを含めて30単位以上を修得し、修士論文を提出し、それに基づく最終試験に合格しなければいけません。(MPEDの場合、コア系4単位以上およびElementary SeminarⅠ、Elementary SeminarⅡ、Special SeminarⅠ、Special SeminarⅡ)

後期課程

修了するためには、3年以上在学し、研究演習Ⅰ(2単位)、研究演習Ⅱ(2単位)、研究演習Ⅲ(2単位)、研究演習Ⅳ(2単位)、研究演習Ⅴ(2単位)、研究演習Ⅵ(2単位)を含めて12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士学位請求論文を提出し、それに基づく博士学位授与審査に合格しなければいけません。

過去の修士論文タイトル例

- 人民元国際化とデジタル人民元の役割 非伝統的な観点からの考察
- ハードウェア・ソフトウェア・プラットフォーム市場における製品差別化の研究
- 医療提供体制の現状と課題—コロナショックを基点に—
- 国外転出時課税の対象資産に関する考察
- Impact of trade liberalization on tax revenue
- Financial Development and Energy Mix in Sub-Saharan African Countries



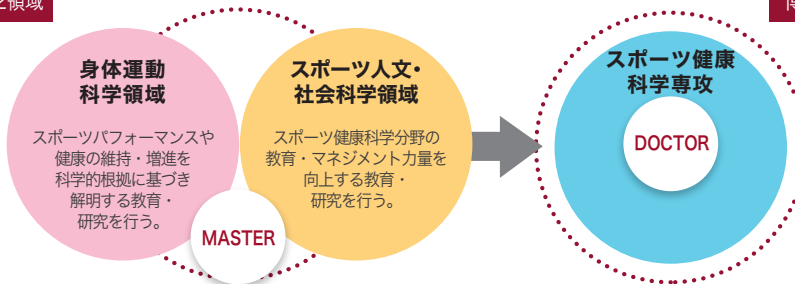
「ヒト・ひと・人を科学する」ための学び

博士課程前期課程：1専攻・2領域

スポーツ健康科学専攻

【人材育成目的】

スポーツ健康科学の教育・研究における智の融合を通して、人々の健康、幸福な社会、ならびに平和な世界を創造するとともに、スポーツ健康科学に関する専門性を有し、志高く未来を拓く人材を育成することを目的とします。



博士課程後期課程：1専攻

【人材育成目的】

スポーツ健康科学の教育・研究における智の融合を通して、人々の健康、幸福な社会、ならびに平和な世界を創造するとともに、スポーツ健康科学に関する高度な専門性を有し、志高く未来を拓く人材を育成することを目的とします。

文理融合を奏でるカリキュラム

前期課程	基礎科目 (6単位以上)	身体運動科学領域 (4単位以上)	スポーツ科学特論		健康運動科学特論			
		スポーツ人文・社会科学領域 (4単位以上)	スポーツ教育学特論		スポーツマネジメント特論			
		共通科目	学術論文作成方法特論		専門英語			
	展開科目 (10単位以上)	文理融合科目(4単位以上)	スポーツ健康科学領域融合演習Ⅰ		スポーツ健康科学領域融合演習Ⅱ			
		キャリア形成科目 (6単位以上)	スポーツ健康科学キャリアプロジェクト インターンシップ		スポーツ健康科学エグゼクティブレクチャーⅠ	スポーツ健康科学エグゼクティブレクチャーⅡ	スポーツ健康科学グローバルレクチャーⅠ	スポーツ健康科学グローバルレクチャーⅡ
	演習科目 (8単位以上)	演習(6単位以上)	身体運動科学演習Ⅰ		身体運動科学演習Ⅱ		身体運動科学演習Ⅲ	
			スポーツ人文・社会科学演習Ⅰ		スポーツ人文・社会科学演習Ⅱ		スポーツ人文・社会科学演習Ⅲ	
		研究指導(2単位以上)	研究指導Ⅰ 研究指導Ⅲ		研究指導Ⅱ 研究指導Ⅳ			
自由科目		単位互換履修科目		大学院コアオブ演習				
前期課程：合計30単位以上								
：必修 ：身体運動科学領域は必修 ：スポーツ人文・社会科学領域は必修								
後期課程	講義科目(2単位以上)		フロンティアサイエンスプロジェクト		フロンティアサイエンスレクチャー			
	演習科目(4単位以上)		先端スポーツ健康科学特別研究Ⅰ～Ⅵ					
後期課程：合計6単位以上								

本研究科修了生 修士論文・博士論文テーマ(一部) ●：修士論文 ■：博士論文

- 自発的低換気を用いた高強度トレーニングの効果—低酸素環境でのトレーニングと比較して—
- 一過性運動における運動強度および運動時間が唾液中IgA分泌量に及ぼす影響
- 休息中に血流制限を付加したスプリントインターバルトレーニングの効果
- 低酸素環境で行う持久性運動がその後の消化管機能に及ぼす影響
- 校庭におけるアフォーダンスが児童の身体活動に与える影響—自由遊びに着目して—
- チーム内・外の他者との交流が妬み感情の緩和に及ぼす影響
- 高校生サッカーゴールキーパーの状況判断能力向上のための実践的研究—AR(拡張現実)を用いた状況判断能力の向上に着目して—
- 夏季環境における高校野球選手の朝食摂取と身体組成および疲労感の関係
- サッカーの守備で用いられるスプリントスタート技術が加速や方位変換に及ぼす影響
- Associations of the Morphological Profiles of Individual Plantar Intrinsic Foot Muscles with Foot Structure and Toe Flexor Strength
- 運動誘発性の鉄欠乏の新たな要因の検討：ヘプシジン分泌応答に着目して
- 暑熱・低酸素環境での間欠的スプリントトレーニングの効果
- ファストウォーキングの生理学的・力学的特性—同一速度でのランニングと比較して—
- 一過性の静的ストレッチングによる血流依存的なshear stressの増大が動脈硬化度に及ぼす影響
- 男性陸上長距離選手の疲労骨折に関する研究

本研究科修了生 就職先一覧(一部)

- トップアスリートを支える
国立スポーツ科学センター(JISS)
- 医薬品で人々の健康を守る
大塚製薬(株) クラシエ製薬(株) ミナト医科学(株)
- 健康的なライフスタイルをプロデュースする
(株)東急スポーツオアシス (株)ルネサンス
- 人々の暮らしに役立つ製品を生み出す
オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株)
(株)バンダイ (株)ニューバランスジャパン
- 人々の質の高い生活をサポートする
アサヒビール(株) キュービー(株)
KDDI(株) ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
(株)ソフトウェア・サービス
- ビジネス・パフォーマンスの向上を提案する
アクセンチュア(株)
- 企業と人々を結びつける
(株)リクルートホールディングス
(株)インテリジェンス (株)ウィルグループ
- 地元経済の発展に寄与する
(株)西日本シティ銀行
- 人々の暮らしの仕組みと豊かなまちを創る
地方公務員(上級職)
- 未来を生み出す人を育てる
教員 (学)立命館
- 世の中に起こる様々な事象を伝える
関西テレビ放送(株)

日本学術振興会特別研究員採用率

「日本学術振興会特別研究員」とは、国の優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度。本研究科院生は【2017年度～2023年度の平均採用率：26.7%】と、他大学大学院同分野と比較しても高い採用率を堅持しています！



自らの研究で日本や世界の「食」を変革する壮大な夢の実現へ

	博士課程前期課程	博士課程後期課程
修業年限	2年	3年
入学定員	20名(収容定員40名)	3名(収容定員9名)
取得学位	修士(食マネジメント)	博士(食マネジメント)

人材育成目的

研究科共通

食マネジメント研究科は、経済学・経営学の専門的知見を用いて、食に関わる経済活動を研究し、実践的なマネジメント能力を備えた高度専門職業人および研究者の育成を目的とする。

博士課程前期課程

食に関わる多様な視点を、経済学・経営学を軸として社会実装に導入し、食に関わる経済活動をめぐる諸課題の解決へ向けて応用することができる高度専門職業人を育成する。

博士課程後期課程

食マネジメント研究の発展に寄与する研究活動を行い、ここで培ったマネジメント能力を用いて研究成果を社会に還元するとともに、研究倫理を有しつつ学術的手法を用いることができる研究者を育成する。

修了要件とカリキュラム

博士課程前期課程

科目区分		修了要件		科目名称			
		必要単位数	合計				
基礎科目		8単位以上	30単位以上	食マネジメント特論	ミクロ経済学特論	マクロ経済学特論	統計学特論
				経営組織特論	会計学特論	マーケティング特論	食総合特論
展開科目	A群	8単位以上		産業組織特論	行動経済学特論	国際経済学特論	食料経済学特論
				ファイナンス特論	経営戦略特論	食サービスマネジメント特論	食のリスクマネジメント特論
	B群	—		商品開発特論Ⅰ	商品開発特論Ⅱ		
研究演習		6単位以上		食の地理学特論	食の歴史学特論	比較食文化特論	食の社会学特論
				フードクリティック特論	食の公共政策特論	健康マネジメント特論	食と認知科学特論
研究演習Ⅰ				研究演習Ⅱ	研究演習Ⅲ	研究演習Ⅳ	
研究演習Ⅱ				研究演習Ⅲ	研究演習Ⅳ		
研究演習Ⅲ				研究演習Ⅳ			
研究演習Ⅳ							
その他		—		アカデミックイングリッシュ	食マネジメント実践特論		

基礎科目

産業・企業・消費・政策の基礎理論 ミクロ経済学特論・マクロ経済学特論・経営組織特論・マーケティング特論など

展開科目 A群

食の産業・企業・消費・政策の理論と実践
産業組織特論・行動経済学特論・ファイナンス特論・経営戦略特論など

展開科目 B群

食の文化・歴史・健康などの理論と実践
食の地理学特論・比較食文化特論・食の社会学特論・健康マネジメント特論など

主な社会的重点課題

①食産業の経営・イノベーション

②食を通じた多文化共生の地域社会づくり

③食を通じた福祉・健康コーディネーション

演習・修士論文

高度なマネジメント人材

博士課程後期課程

科目区分		修了要件		科目名称			
		必要単位数	合計				
共通科目		4単位以上	12単位以上	特別講義Ⅰ	特別講義Ⅱ	特別講義Ⅲ	
実践科目		—		研究実践Ⅰ	研究実践Ⅱ		
研究演習科目		8単位以上		特別研究Ⅰ	特別研究Ⅱ	特別研究Ⅲ	特別研究Ⅳ
				特別研究Ⅴ	特別研究Ⅵ		



研究科の特徴

今、めまぐるしいスピードで科学技術が変化・進展し、社会や産業も変わり続けています。理工学研究科は、理学と工学の伝統的な高度な理論・技術だけでなく、IoTやAIまで、あるいはハードウェアからソフトウェア、高齢化社会対応問題、地球規模の環境問題などまで、幅広く取り組みます。そして、新しい価値を創造できる研究者や高度専門技術者の育成を目指します。海外科学技術実習を支援するプログラムによってグローバルに活躍できる研究者や高度専門技術者の育成も目指しています。

4つの専攻

基礎理工学専攻

数理科学コース

物理科学コース

ファイナンスや情報セキュリティ分野における数理科学、エネルギー問題やナノテクノロジーにおける物理科学と工学の融合など、多分野とも関連を持って発展する学問分野を研究します。

電子システム専攻

電子システムコース

毎日の生活を支えるエレクトロニクスや光工学、高性能かつ大規模な電子・情報システムなど、多岐にわたる電気電子工学領域を研究します。

機械システム専攻

機械工学コース

ロボティクスコース

マイクロ機械コース

機械工学・ロボティクス・マイクロ機械工学に基礎を置き、これらの融合分野をも包括した教育・研究を行います。

環境都市専攻*

都市システム工学コース*

環境システム工学コース*

建築都市デザインコース

都市の社会基盤の整備、地球環境問題やバリアフリーへの配慮など、安全な社会生活を送るために解決すべき課題について教育・研究を行います。

※2026年4月、「環境都市専攻」は、「都市システム専攻」へ名称変更予定・構想中。また、「都市システム工学コース」「環境システム工学コース」は、「環境都市工学コース」へ統合名称変更予定・構想中。

博士課程前期課程

博士課程後期課程



教育・研究の世界展開

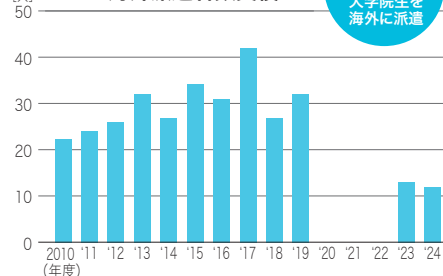
実践的英語力を身につけ、海外での武者修行に挑む

理工学研究科では、世界各国から留学生を受入れるとともに、多くの日本人学生を海外に派遣しています。「国際的なフィールドで活躍するための意欲や素養・経験を身につけたリーダー」となり得る理工系技術者・研究者の養成を目標に、Global-ready Graduate Program (GRGP) はその前身となるプログラムを2007年度にスタートさせました。正課で理工系学生の研究推進に必要な実践的英語コミュニケーション能力を集中的に身につけさせるとともに、学生を世界各国の大学・研究機関・企業での留学に送り出しています。

インドのトップクラス理工系大学との教育・研究交流

立命館大学理工系3学部・3研究科は、以前からインド工科大学ハイデラバード校（以下、IITH）やニッテ大学NMAMIT、シンピオシス国際大学など、インドの理工系大学と様々な学生・研究交流等を進めています。「インド工科大学ハイデラバード校PBLプログラム」では、インドが直面している様々な課題について、事前講義で調査・解決方法を提案し、IITHでの現地研修（7日間程度）において、企業訪問や施設見学、IITH学生とのPBL (Problem/Project Based Learning) を行います。PBLを進める中で課題を発見し、その解決策を見つけて出すプロセスの重要性を学び、思考力・推進力・チームワーク・英語でのコミュニケーション力等を身につけます。

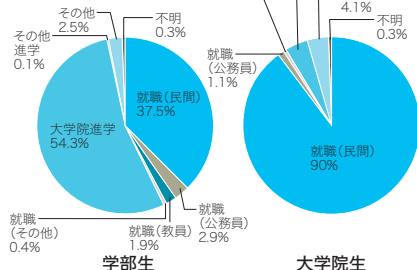
GRGP海外派遣者数実績

15年間で
322名の
大学院生を
海外に派遣

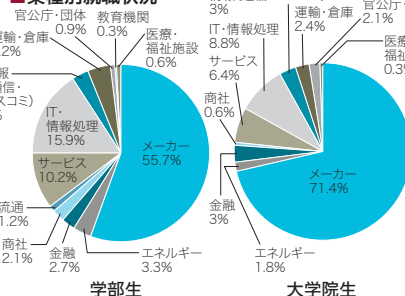
大学院修了者の就職実績（2024年3月卒）

理工学の専門性を活かすためには、大学院修了が大変優位です。特にメーカーではその差は顕著です。また、「研究職・開発職・技術職」へ従事する割合についても、学部卒を上回っています。

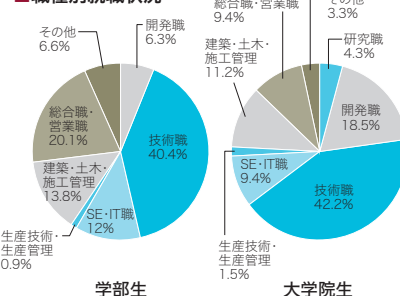
※円グラフの数値(%)は、小数点以下を四捨五入したものであり、端数処理の関係で100%にならない場合があります。

進路・就職状況
(進路区分別)

業種別就職状況



職種別就職状況





MASTER 博士課程前期課程

生命科学専攻

応用化学コース

応用化学コースでは、物理化学・無機化学・分析化学・有機化学・生化学などを基盤として、物質の機能を解明するための、また、新物質の創製を実践するための化学的理論と技術を幅広く学びます。材料化学からエネルギー、生体関連物質まで、幅広い分野で研究を展開します。

【キーワード】

●新物質 ●ナノテクノロジー ●環境分析 ●エネルギー変換 ●機能材料

生物工学コース

生物工学コースでは、生化学、分子生物学、微生物学などを基盤とし、環境、食料、資源、エネルギーに関連する生物工学理論や技術を幅広く学びます。また、生物機能、生態系の構造・機能の解析や生物由来生理活性物質の解明などの基礎研究、ならびに、これらを基盤とした環境、食料、資源、エネルギーに関する応用研究を展開します。

【キーワード】

●微生物 ●バイオエネルギー ●分子生物学 ●環境浄化 ●生物資源 ●植物

生命情報学コース

生命情報学コースでは、コンピューター（情報科学）を利用して、生命活動の仕組みを解明することを目的として、その基礎となる生命科学、情報科学、生物機能の解析技術に関する専門知識を幅広く学びます。その上で、遺伝情報、タンパク分子構造—機能相関、生体機能などの数理解析に関する研究を行い、生命科学、医学薬学、食品、情報技術に関連した研究を展開します。

【キーワード】

●システムバイオロジー ●ゲノム解析 ●情報科学 ●バイオインフォマティクス

生命医科学コース

生命医科学コースでは、多岐にわたる基礎医学の先端領域とその融合領域を学び、未知の生命現象や様々な疾病の発症機構を解明します。更に、先端技術で開発された医薬品などの新規医療技術の適切な評価と社会への応用方法も学び、広く生命医科学研究を展開します。

【キーワード】

●再生医学 ●癌 ●脳科学 ●生活習慣病 ●生薬 ●稀少疾患
●医用材料 ●医療政策

博士課程
後期課程

DOCTOR 博士課程後期課程

生命科学専攻

生命科学専攻では、博士課程後期課程に相応しい高度な専門の実験・実習設備、および機器環境を活用した教育・研究を展開します。また、国際連携、地域連携、国内外の産業界、学内関連研究科との連携等、様々な連携型研究を行います。

教員の研究内容については、生命科学研究科ウェブサイトでご確認ください。

修了要件とカリキュラム

前期課程

科目区分	必要単位数	合計
共通科目	4単位以上	30単位以上
コア科目	10単位以上※	
専門科目		
選択科目		
研究科目	16単位	

※コア科目は3科目6単位以上修得する必要があります。

後期課程

科目区分	必要単位数	合計
専門科目	—	8単位以上
研究科目	8単位以上	

専門科目(コア科目)(前期課程)

【応用化学コース】

物性・反応化学特論
構造物理化学特論
無機構造物性化学特論
無機機能材料化学特論
応用生物化学特論
X線分析化学特論
有機分子化学特論
有機機能材料化学特論
反応物理化学特論
有機反応・構造化学特論

【生物工学コース】

環境バイオテクノロジー特論
エネルギー・資源バイオテクノロジー特論
食料バイオテクノロジー特論
生物工学研究特論

【生命情報学コース】

ゲノム情報学特論
分子構造・機能学特論
数理生体機能学特論
分子設計学特論
生体分子ネットワーク特論
植物生理学特論

【生命医科学コース】

基礎生命医科学特論
応用生命医科学特論
先端生命医科学特論
生命医科学研究法概論

研究科目(前期課程)

生命科学特殊研究1～4

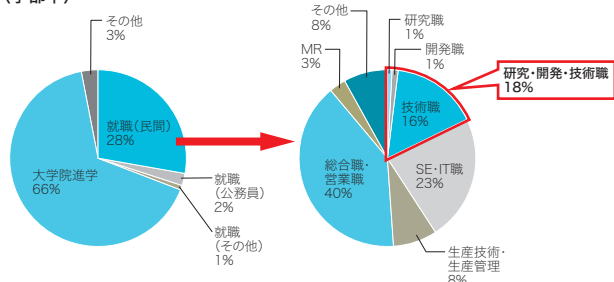
研究科目(後期課程)

生命科学特別研究1～6

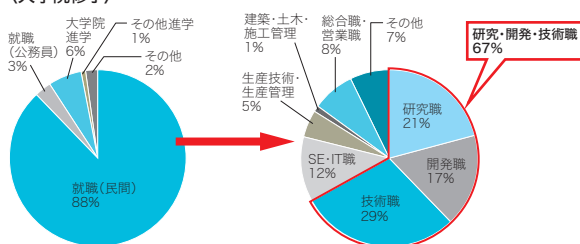
就職実績(2024年3月卒)

■学部卒と大学院(博士課程前期課程)修了の職種別就職状況

〈学部卒〉



〈大学院修了〉





薬学専攻

高度化する医療において、先導的な役割を果たす薬剤師・医療人・研究者を養成

4
年
制

薬学専攻博士課程

医療薬学分野と病態生理解析分野の2つの分野を設けて教育・研究を行います。それぞれの専門分野にとどまらず、基礎薬学から臨床薬学に至る幅広い領域の最先端の知識取得が可能となるような、科目配置と研究体制を整備しています。

薬学専攻博士課程の人材育成目的

薬学専攻博士課程は、薬学の専門的知識および研究力を備え、使命感および倫理観を有する高度な薬剤師、医療人または研究者として、地域や社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。

薬科学専攻

創薬分野の研究を深め、新薬の発見・創製につなげる研究者を養成

2
年
制

薬科学専攻博士課程前期課程

多岐にわたる医薬品創製のプロセスを5つの分野(薬品分子創製化学、生体分子解析学、薬物動態解析学、生体機能薬学、薬物作用解析学)に分類し、専門分野に応じた基盤的な知識および先端的な研究技術が取得できる教育・研究体制を整備しています。

薬科学専攻博士課程前期課程の人材育成目的

薬科学専攻博士課程前期課程は、薬科学の専門知識および研究力を備え、研究機関、教育機関、産業界、衛生行政等に貢献できる人材を育成することを目的とする。



3
年
制

薬科学専攻博士課程後期課程

高度な専門知識と研究に必要な一連の能力を取得できる教育・研究体制を整備しています。

薬科学専攻博士課程後期課程の人材育成目的

薬科学専攻博士課程後期課程は、高度な薬科学の専門知識および優れた研究力を備え、研究機関、教育機関、産業界、衛生行政等に貢献できる人材を育成することを目的とする。



修了要件

薬学専攻博士課程

4年間(標準修業年限)以上在学するとともに、専門科目で14単位以上、特別研究科目から16単位修得し、学位審査を経て博士学位の授与をもって修了したものとします。

薬科学専攻博士課程前期課程

2年間(標準修業年限)以上在学するとともに、専門科目より、14単位以上、「演習(8単位)」および「特別実験(8単位)」を修得し、学位審査を経て修士学位の授与をもって修了したものとします。

薬科学専攻博士課程後期課程

3年間(標準修業年限)以上在学するとともに、「特別研究I~VI」を含む12単位以上を修得し、学位審査を経て博士学位の授与をもって修了したものとします。

※詳細は薬学研究科ウェブサイトでご確認ください。



過去の博士論文

「立命館学術成果リポジトリ」で閲覧できます。





立命館大学大学院 経営学研究科では、これまでの経営学の体系的な学びを深めることに加え、「これからの経営学の可能性」を追究しています。そのために、世界・日本の学術・研究をリードする教授陣と実践的なプログラムを用意しています。あなたの将来の可能性をさらにここで伸ばしてみませんか？



博士課程前期課程

前期課程では、「技術経営・戦略」「組織・人事」「マーケティング」「国際ビジネス」「会計・ファイナンス」「デザイン・マネジメント」などの分野で、研究にもとづく大学院教育を行っており、経営学に関する高度な専門知識および、会計やリサーチ・メソッド、語学などに関する高度な技能をもち、それを適切に活用することで組織や社会の中で独創的なビジネスを生み出すことのできる人材を育成します。併せて、社会の要請に応え、グローバル化する社会の中でリーダーシップを発揮しうる人間を育成します。

経営学研究科は、経営学に求められる高度な専門知識や技能修得を中心に、幅広い学際的素養を身につける多様な学びと能動的な研究姿勢を支援する大学院教学を展開しています。

前期課程での学修の進め方

前期課程での学修は修士論文の作成が集大成となりますが、経営学研究科では2回生から修士論文指導が始まるカリキュラムとなっています。1回生時は「基幹科目」「展開科目」の履修により経営学に関する理論の修得や、「研究方法科目」の履修による情報収集・分析手法の獲得など総合的な学力を身につけることが重要です。併せて、前期課程では「英語開講の展開科目」または「外国文献研究」を2単位以上履修し、単位を修得することを修了要件に課すことで、英語での学修を進めます。研究指導教員は各自の研究テーマにもとづく調整によって、1回生春学期中に決定します。「研究展開科目」を研究指導教員の指導のもと各自の研究テーマに沿って、1回生秋学期に履修します。2回生では、1回生時に修得した専門知識をもとに、修士論文の執筆が本格化します。春学期には中間報告会にて研究経過を報告し、2回生秋学期に研究成果を修士論文として仕上げます。

博士課程後期課程

後期課程では、指導教員のもと、経営学分野の研究活動を行うに必要な多角的な視点と、リサーチ・メソッドや語学に関する高度な運用力により専門知識を生み出し、将来にわたって研究活動を継続できる自立した研究者を育成します。

主な開講科目一覧 前期課程

科目群	科目名	単位数	科目群	科目名	単位数
基 幹 科 目	経営史Ⅰ(アジア・日本)	2	研究 方 法 科 目	統計学	2
	競争戦略	2		研究方法論	2
	マーケティング	2		量的調査法	2
	生産マネジメント	2		質的調査法	2
	組織科学	2		外国文献研究Ⅰ～Ⅳ	各1
	経営財務	2		アカデミックライティング	2
	会計学	2	英 語 開 講 科 目	Finance	2
	ビジネス・エコノミクス	2		Marketing	2
展 開 科 目	経営史Ⅱ(欧米)	2		Environmental Management	2
	アントレプレナーシップ	2		Business Economics	2
	ビジネス倫理	2		Human Capital Management	2
	人的資源管理	2		Global Business Management	2
	企業会計	2	キャリア開発科目	大学院コーオプ演習	2
	経営情報システム論	2		国内インターンシップ	2
研究展開科目	技術経営・戦略研究	2		海外インターンシップ	2
	マーケティング研究	2		大学教員準備セミナー	2
	組織・人事研究	2	特 殊 講 義	特殊講義Ⅰ～Ⅹ ※1	2
	国際ビジネス研究	2		Special Lecture ※2	2
	会計・ファイナンス研究	2	研究指導科目	特別演習1	2
	デザイン・マネジメント研究	2		特別演習2	2

※1「計量経済学入門」「人事系プロフェッショナル養成講座」など種々な内容で開講

※2「Introduction to International Management」「Merger and Acquisitions in the Frame of International Business」など種々な内容で開講

過去の論文タイトル一例

- 博士課程前期課程** 「コンテンツ産業における競争優位の再構築とイノベーション：ネットフリックスを事例として」
「従業員満足度に影響を与えるインターナル・マーケティング・ミックスの特定～既存尺度の再検討を通じて～」
「コーポレート・ガバナンスが日本企業のコストの下方硬直性に与える影響」
- 博士課程後期課程** 「デスティネーション・マネジメントの理論的再検討ー地域再生の核となるツーリズムの展開を巡ってー」
「プロフェッショナルとしてのデザイナーの持つデザイン態度 (Design Attitude) の探索的研究」



現代社会が直面する政策課題の理解と適切な解決策の創造に関する研究能力を育成する

政策科学研究科目

公共政策関連科目

政策形成過程への視野を修得する科目が配置されています。政策過程は合意の形成過程であり、政策・施策の「社会的合理性」がこの科目群の主題となります。政治過程論、行政学、公共哲学、法政学を中心とする科目が配置されています。

環境開発関連科目

政策・施策の「科学的合理性」がとりわけ重要な意味をもつのは、環境・開発・都市の領域です。この科目群には、環境科学・都市工学・計画理論を中心とする科目が配置されています。

社会マネジメント関連科目

「市場的合理性」（効率性と組織マネジメント）は、営利企業はもちろんのこと、公共機関・非営利組織の課題を解決するための重要な視点です。この科目群には、経済学・経営学・社会学の知見を広く社会の諸部門の問題解決に連接させるための科目が配置されています。

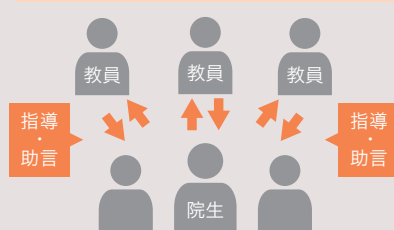
共通科目

学知の総合としての政策科学の基礎を修得する科目、研究領域や研究課題を問わず必要とされるスキルを修得するための科目が配置されています。新しい学問分野である政策科学の基礎理論、基本的な分析手法を修得することができます。

政策課題に応じたプロジェクト型の研究指導体制

政策科学研究科は、領域横断的な教員の共同研究チームを組織し、それぞれのチームによる共同研究プロセスに院生が参加するプロジェクト型研究指導（PBL）の方法を採用しています。リサーチ・プロジェクトでは、一人の指導教員が一つの専門領域に特化した研究指導を行うのではなく、領域・テーマに共通の関心を持ちながらも、それぞれ異なった学問的背景を持つ複数の教員が院生の研究指導を行う集団的指導の方法を採用しています。

プロジェクト型研究指導（複数指導）



政策科学研究科の指導体制

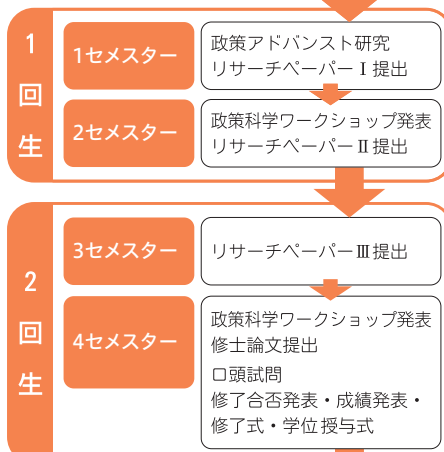
1対1



一般的な指導体制

研究指導フローチャート

政策科学研究科博士課程前期課程入学



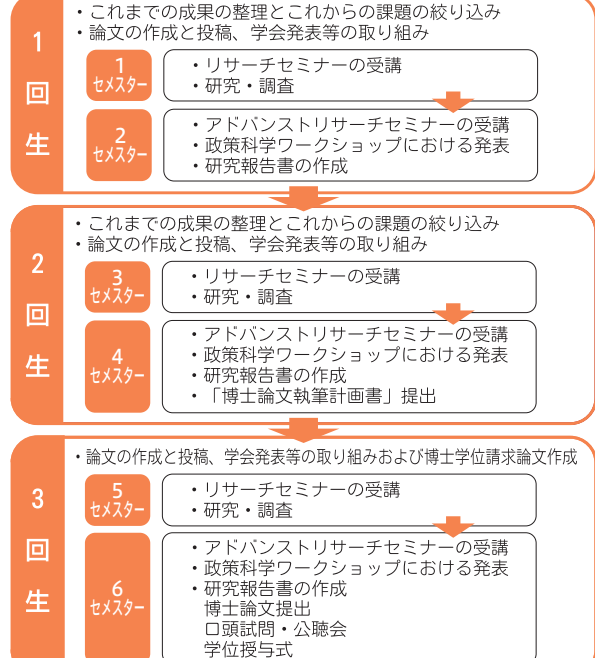
修了要件

- 合計で30単位以上修得
- 「リサーチ・プロジェクトⅠA」「リサーチ・プロジェクトⅡA」「リサーチ・プロジェクトⅢA」「リサーチ・プロジェクトⅣA」の中から、「リサーチ・プロジェクトⅣA」を含む3科目6単位以上修得
- 政策科学ワークショップにおける発表
- リサーチ・プロジェクトⅣAの修了審査および口頭試問に合格

政策科学研究科博士課程前期課程修了



政策科学研究科博士課程後期課程入学



政策科学研究科博士課程後期課程修了

過去の修士論文／博士論文タイトルの例

<博士課程前期課程>

◇Silver democracy in Osaka Metropolis Plan Referendum - An Examination of the Theory ◇冷戦後のトランスナショナル・ネットワークと民族紛争 ―コソボ紛争を事例として― ◇公的資金の地域経済への影響に関する研究 ―長野県飯田下伊那地区を事例に― ◇二酸化炭素吸収促進に寄与する森林施策の評価 ◇アニメ作品の「聖地巡礼」を通じた中国人観光客の誘致策に関する研究 ◇Conflict Resolution over Coastal Resources : A Case Study of Mining, Fisheries, and Tourism in Bangka Belitung Province, Indonesia

<博士課程後期課程>

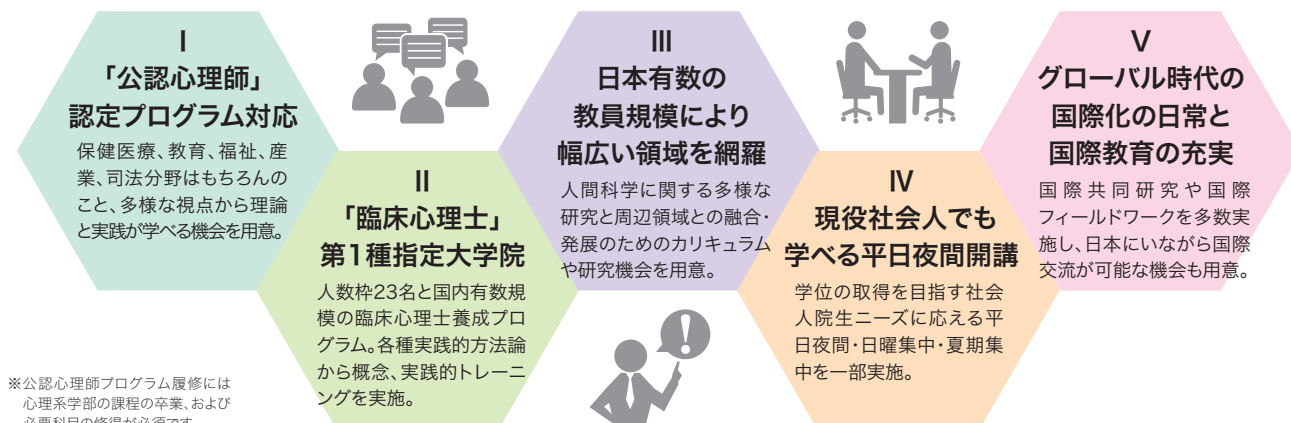
◇A Study on Conventional Motorcycle Taxi's Demand in the Urban Fringes of Outer Metropolitan Area: Case Study in West Java, Indonesia (大都市圏外縁部における在来型バイクタクシー需要に関する研究; インドネシア・西ジャワ州を事例として) ◇The Analysis of Government Spending on Education: Theory and Empirical Evidence from the Districts in Indonesia (政府の教育支出に関する分析: 理論とインドネシアの県レベルデータから見る実証的証拠) ◇韓国政府による在日コリアンの包摂と排除―李承晩政権期を中心に― ◇大震災を想定した集中型観光客への公助対応フレームワーク(PSDRフレームワーク)による避難所政策に関する研究 - 世界遺産姫路城を事例として -



研究と実践の往還を通して、人間科学をさらなる高みへ

2026年からの新カリキュラム始動により、2022年度に設置された「実践人間科学領域」が進化を遂げ、「心理学領域」「実践人間科学領域」「臨床心理学領域」の3領域の交差が加速します。社会に開かれた人間科学を目指し、地域社会に貢献する心理教育、社会共生価値の創生に寄与する社会人教育、グローバル時代における国際教育を展開していきます。それにより、人間科学の架橋・往還・連携・統合を目指した研究と実践の両面から、領域固有の専門性と領域共通の人間科学の総合性を身につけられる研究科として、公認心理師資格の取得を目指す人、研究者としてのキャリアを目指す人、対人援助職における更なるスキルアップを目指す人等、多様な学生のニーズに応える教育・研究の場を提供します。

研究科の5つの特徴



研究指導

学部からのストレート進学院生や留学生、社会人院生などの幅広い院生受入れを行うため、研究指導の現場においても相互の関わり合いを持ちながら、研究を推進します。他領域の院生や教員との研究交流や意見をもらう場として、春期と秋期に数回「アライアンス」という制度を設けています。13のトピックでグループ化された教員と院生のグループで発表することで、日頃の指導教員からのアドバイス以外の意見を聞き、研究の幅を広げる機会とします。

施設紹介



プログラム

博士課程前期課程

共通科目			社会のなかの人間科学 心理学研究法 質的研究法 心理学統計法(基礎) 心理学統計法(展開) 心理プラスCom(PBL) 人間科学特論 国際プロジェクト研究 フィールド実践研究
演習			演習Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ
公認心理師共通実習			公認心理師実践Ⅰ Ⅱ 公認心理師カンファレンスⅠ Ⅱ 公認心理師学外実習Ⅰ Ⅱ
専門科目	心理学領域	基礎心理学	基礎心理学特論 知覚・認知心理学特論 認知神経科学特論
		教育・発達心理学	教育心理学特論 発達心理学特論 老年心理学特論 教授・学習学特論 学校カウンセリング研究 家族心理学特論 心理アセスメント特論
	臨床心理学領域		臨床心理学基礎実習 心理特別実習 臨床心理実習 臨床心理学特論Ⅰ Ⅱ グループ・アプローチ特論 精神医学特論 臨床心理面接特論Ⅰ Ⅱ 心理療法特論 臨床心理査定演習Ⅰ Ⅱ
	実践人間科学領域	多様性社会実践	司法・犯罪心理学特論 社会病理学特論 文化人類学特論 多様性社会実践特論 コミュニティ心理研究
		対人援助実践	表現と支援 認知行動療法研究 応用行動分析 対人援助実践特論 ストレスとトラウマ研究 健康心理学特論 ナラティブとケア
		社会心理学実践	社会心理学特論 産業・組織心理学特論 社会心理学実践特論 実践人間科学特論 行動科学研究 質的探求と社会実装

※名称の一部を省略している科目があります。

博士課程後期課程

人間科学シンポジオンⅠ Ⅱ Ⅲ 人間科学プロジェクト演習Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ



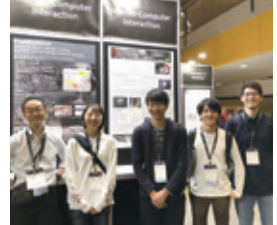
プロデューサー・マインドを備えたビジュアル・ディレクターの育成

映像文化への横断的思考の涵養

近年の多様化する映像文化・映像産業をめぐる状況の中では、映像に関するジェネラリスト的な素養と領域・分野に応じた高い能力が求められます。そのため、映像研究科ではプロデューサー・マインドを備えたビジュアル・ディレクターの育成を目標とし、他には見られない特徴的な学びを展開しています。

映像研究科の特徴

- ・立命館大学という総合大学において、多岐化・多様化を続ける映像世界を包括的・構造的に測定する能力、複眼的あるいは柔軟に考察する能力の涵養
- ・一分野に特化し狭い範囲で専門的技術習得者を養成するのではなく、多面的な視点を携え、専門性が高くかつ汎用性もある知識、技能、技術、方法論を持ち、変化の激しい映像文化に弾力的な対応ができる能力の育成
- ・社会の求める課題に対する発見や調査を踏まえた研究・制作・開発の実践
- ・5つのサブジェクト・ゾーンからなる分野横断的な学び
- ・1名の研究科生に対して、2名以上の教員による丁寧な指導体制



サブジェクト・ゾーン

映像研究科では、5つのサブジェクト・ゾーンの学びの中で、学修経路を自覚しながら、複合的な映像の領域において幅広い視野と専門性の高い理解と技術を身につけることができます。

映画芸術 Film Arts

実写映画とCGアニメーションを表現手段とし、作品の制作とそれに関連する理論や歴史について学修するゾーン

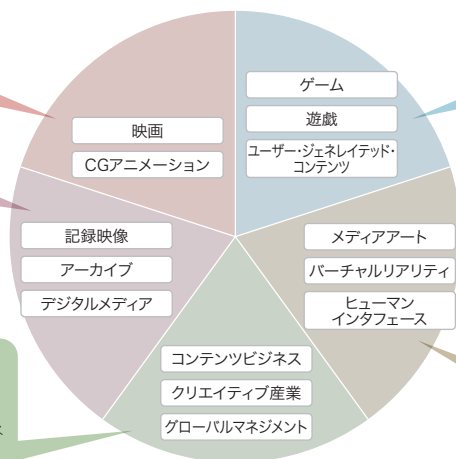
社会映像 Society and Images

映像が浸透し、メディア環境が転換期を迎えている現代社会はもちろん過去や未来の社会とのかかわりの中で映像の価値や意味を問い、社会の中で、社会を対象として、社会のために、映像を制作・研究するゾーン

映像マネジメント

Content Business Management

京都映像文化の起源から現在の映像産業までを射程に、ビジネスから社会、国際貢献までを視野に入れた専門知識を学ぶゾーン



ゲーム・エンターテインメント Game Entertainment

京都のインディーゲームシーンやゲーム産業と連携しつつ、ハード・ソフト・サービスを対象とした、先端的なエンターテインメント創造に関する知見・技法を習得するゾーン

クリエイティブ・テクノロジー Creative Technology

メディアテクノロジーを基盤とした視聴覚情報の伝達と受容に関する先端的知識や技能を学修するとともに、そうした知見に基づくメディア表現の創造や開発について研究を行うゾーン

テーマ・プロジェクト型制作・研究とディシプリン・リサーチ型学修の融合

- ・映像学部にも素地のある学生が早期から研究活動の実質化に注力でき、基礎的な知識・教養の補強が必要な学生はその獲得を集中的な機会を得られる導入・基幹科目を配置
- ・授業科目群の複合的な結合が特徴

「テーマ・プロジェクト型」授業科目群 → 自ら課題を見出して制作あるいは研究に結実させていく
→ 「映像研究演習」「映像研究キャリア演習」など映像関連分野の制作・研究にとって背景となる知識を獲得する授業科目を配置し、「プロジェクト演習」で修士論文・制作に向けた準備を進める

「ディシプリン・リサーチ型」授業科目群 → 講義・実習形式により、映像に関わる諸分野の研究に必要な知識・分析法・技能・技術を習得

研究指導システム

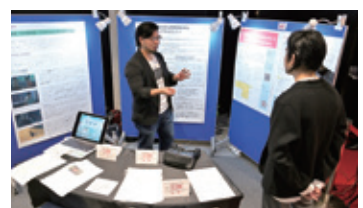
修士論文もしくは修士制作・解説論文の完成に向けて**院生1名に対し、教員2名以上による複数指導体制を確立しています。**

過去の修士論文・制作 タイトル一例

◇2.5次元ミュージカル産業史序説一周辺産業と企業経営システムに注目して一◇視覚障害を考慮した3Dゲーム空間における移動支援に関する探索的研究◇映画『フェンス』における象徴的描写について◇映像とフィジカルな媒体の融合による読書体験の拡張クリエイティブ・テクノロジー◇キネクトを用いて視点を操作する3Dゲームの制作

主な進路・就職先

東映(株)、コナミグループ(株)、キャノンITソリューションズ(株)、(株)スクウェア・エニックス、(株)福井テレビ開発、松竹(株)、ソニーピーシーエル(株)、(株)コナミデジタルエンタテインメント、(株)セガ・インタラクティブ、(株)DeNA、(株)カプコン、(株)日経映像、立命館大学大学院、他大学大学院 ほか





MASTER 博士課程前期課程

情報理工学専攻

計算機科学コース

計算機科学コースでは、計算機アーキテクチャやソフトウェア技術、情報ネットワーク技術を中心にヒューマンインタフェースや認知工学といった分野の教育研究を行います。

人間情報科学コース

人間情報科学コースでは、言語・音声・画像などのメディア処理技術やバーチャルリアリティ、知能システムや人間工学、知能ロボティクスといった分野の教育研究を行います。

博士課程前期課程

情報理工学専攻

計算機科学コース

人間情報科学コース

博士課程後期課程

情報理工学専攻



DOCTOR 博士課程後期課程

情報理工学専攻

情報理工学専攻では、研究科に相応しい高度な専門的実験・実習設備・機器環境を活用した教育・研究を展開します。また、国際連携、地域連携や国内外の産業界、学内関連研究科との連携等、様々な連携型研究を行います。

修了要件とカリキュラム

前期課程

科目分野	必要単位数
共通科目	4単位以上
固有専門科目	10単位以上
特殊研究科目	16単位
合計	30単位以上

「グローバル科目」を2単位以上修得すること

後期課程

科目分野	必要単位数
特別研究科目	8単位以上
実習・演習科目	—
合計	8単位以上



固有専門科目・特殊研究科目(前期課程)

科目区分	科目名	該当コース	
		計算機科学	人間情報科学
固有専門科目	言語メディア特論	○	○
	データサイエンス特論	○	○
	データサイエンス特論演習	○	○
	ヘルスケアシステム開発	○	○
	機械学習特論	○	○
	知能機械特論	○	○
	Webインテリジェンス特論	○	○
	特殊講義	○	○
	計算機アーキテクチャ特論	○	—
	システムプログラム特論	○	—
	情報セキュリティ特論	○	—
	Advanced Topics in Software Engineering(*) (★)	○	—
	IoT特論	○	—
	マルチエージェントシステム特論	○	—
	ワイヤレスネットワーク特論	○	—
	音声音響メディア特論	—	○
	生体情報処理特論	—	○
	実データ解析特論	—	○
	脳機能情報処理特論	—	○
	ビジュアルコンピューティング特論	—	○
	ヒューマンインタフェース特論	—	○
	Special Topics(*) (★)	○	○
	Advanced Topics in Human Factors for System Engineering(*) (★)	○	○
	Advanced Topics in Communication Science(*) (★)	○	—
	Advanced Topics in Global Software Engineering(*) (★)	○	—
	Advanced Topics in Computational Intelligence in Games(*) (★)	—	○
	Advanced Topics in Image Processing(*) (★)	—	○
	Advanced Topics in Knowledge-based Systems(*) (★)	—	○
特殊研究科目	情報理工学特殊研究1~4	○	○

※(*)は、英語開講科目です。

※(★)は、グローバル科目です。

特別研究科目(後期課程)

科目区分	科目名
特別研究科目	情報理工学特別研究1~6

※その他、「研究科横断科目」もあります。

※上記は2025年度のカリキュラムです。今後、変更する場合もあります。

数字で見る就職実績

研究科修了者の就職実績を学部卒業者と比較してみると、就職決定率だけでなく、就職先の規模においても有利であることがわかります。また職種別で比較すると、研究職や高度専門職に就く可能性が圧倒的に高まります。

	学部	研究科
就職決定率(就職決定者/就職希望者)	93.2%	99.3%
巨大企業・大企業への決定率 (資本金規模別) ※巨大企業：資本金10億円以上 大企業：資本金1億円以上10億円未満	52.4%	64.1%
技術専門職	21%	25%
研究・設計・開発職	3%	8%

※外国人留学生を除く

グローバル人材の育成

海外IT研修プログラム

国際社会を舞台に活躍できる人材育成を目標に掲げている当研究科では、一定の英語運用能力を有する学生を対象に、夏期・春期休暇期間を利用した海外IT研修プログラムを展開。日常生活から学びに至るまですべてを英語で行い、より高いレベルの英語運用能力・異文化適応能力を養います。

海外インターンシップ・プログラム

海外でのインターンシップ(ベトナム・インド・中国・アメリカ)を通じて自己理解を深め、将来の進路選択として確かな職業観を身につけることを目指しています。日系IT企業や現地IT企業でIT知識を活用することによって専門性を更に深めることが期待できます。



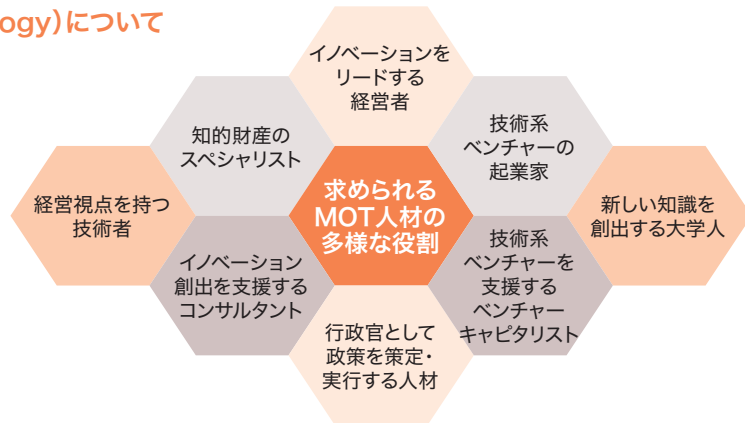


技術経営 (MOT: Management of Technology) について

MOTは「技術経営」と訳され、Management of TechnologyおよびTechnology Managementを表しています。技術と経営を結びつけてイノベーションを生み出す学問であり、単に新しい技術を開発するだけでなく、それらを社会や市場に届け、価値を最大化するプロセスを総合的に扱っています。

MOTで身につけられる能力

- 技術経営戦略 ● 技術マーケティング
- テクノロジーファイナンス ● 知的財産戦略
- オペレーションズマネジメント ● 仮説検証と戦略立案
- イノベーション創出
- アントレプレナーシップ(起業家精神)



テクノロジー・マネジメント研究科の特長

1. 専門職大学院ではなく研究型大学院である

技術基盤企業の組織やマーケティング、戦略経営、知的財産などに加えて技術戦略、製品開発戦略など技術経営にかかわる主要な分野を網羅したカリキュラム。専門職大学院ではなく一般の大学院として、研究を重視しながらも高度の専門知識を持つ人材の輩出を目指しています。さらに、グローバルな活躍を目指す専門の研究者を育成するために博士課程後期課程を設置しています。

2. 理論と実践を学べる

専任教員のほとんどが博士学位取得者かつ実務経験者なので、理論と実践の両方を高いレベルで学ぶことができます。また、多くの企業と提携し、それぞれの企業が抱える課題を学生が解決する課題解決型長期企業実習「プラクティカム」や、企業からの受託研究・共同研究などを通して、現実のビジネス現場で発生している課題を検討し、実践的に解決できる人材の育成に努めています。

3. 多彩なバックグラウンドを持つ学生

学部からの進学者、留学生、現役の社会人、企業等をご退職された方など、学生のバックグラウンドは多様。理学や工学系の学生は科学技術の知識をさらに生かすべく、文理の枠を超えて、イノベーションからの価値創出とあわせて、技術にかかわる事業経営についての理論や手法などを学ぶことができます。多彩なバックグラウンドを持つ学生同士の交流が多くの気づきをもたらします。

カリキュラム紹介 [2025年度]

〈博士課程前期課程〉

基礎科目	技術経営論Ⅰ 技術経営論Ⅱ
コア科目	技術基盤企業の経営戦略 技術基盤企業のマーケティング 技術基盤企業の財務会計 技術基盤企業のファイナンス 技術基盤企業の経営組織論 技術基盤企業の人的資源管理 技術基盤企業のITマネジメント 技術基盤企業のプロジェクトマネジメント 技術基盤企業のリスクマネジメント 意思決定論 データアナリティクス概論 研究デザイン論 MOTデザインプロジェクト
プログラム科目	Technology Management Basics Advanced MOT Academic English プラクティカムⅠ プラクティカムⅡ

展開科目	価値創出マネジメント イノベーション戦略論 サービスイノベーション 知的財産戦略論 知的財産権法概論 ブランドデザイン戦略 研究開発戦略 製品開発論 ヘルスケア・マネジメント バリューチェーンマネジメント 価値・経済性工学 生産イノベーションマネジメント アントレプレナーシップ モデルベースビジネス設計 新規事業創造論 企業価値創造論 デザイン思考とアート思考 未来デザイン方法論 未来予測とシミュレーション 研究開発人材のキャリアデザイン論 特殊講義
------	---

研究指導科目	技術経営演習Ⅰ 技術経営演習Ⅱ 技術経営研究Ⅰ 技術経営研究Ⅱ
--------	--

〈博士課程後期課程〉

研究指導科目	特別研究Ⅰ 特別研究Ⅱ 特別研究Ⅲ 特別研究Ⅳ 特別研究Ⅴ 特別研究Ⅵ
--------	--

理論と実践の橋渡し

■実務経験を持たない学生

「プラクティカム(課題解決型長期企業実習)」
企業の現場の課題(事業計画、マーケティング、知的財産など)について、学生が指導教員と共に課題解決を行います。概ね3〜6ヶ月間で研究成果を出し、実習先に報告と提案を行います。
〈これまでの協力先〉パナソニック コネクト株式会社など約30社

■社会人学生

勤務先の業務課題を論文のテーマにできます。博士課程前期課程については、業務情報を開示することに問題がある場合は、学位論文の内容を非公表にすることも可能です。

多様な研究分野と学位論文テーマ —過去の修士論文・博士論文テーマ例—

◇イノベーション発生過程の理論からみたクラウドコンピューティング産業の発展の研究 ◇フォロワーシップと創造性の発揮との関係について—心理的安全性に着目して— ◇チームビルディングとチームパフォーマンスの関係について—IPTW法による因果推論的分析手法の提案— ◇新製品開発の初期段階における生成AIを用いたベルソナ作成方法の有効性検証 ◇AHPを用いた空調機製造企業におけるオープンイノベーションの評価手法の提案 ◇オンラインコミュニティにおけるアクティブ潜伏者の行動と知識共有に影響を与える要因の探索 ◇ユーザの心理的特性を考慮したゲーミフィケーションに関する研究 ◇フロー体験がモバイル・ソーシャルゲームユーザーの粘性性へ与える影響要因に関する研究 ◇消費者の衝動購買にインフルエンサーのコンテンツが与える影響 ◇森林の生態系サービスの経済的評価



経営管理研究科(通称「立命館大学ビジネススクール=RBS」)は、専門職大学院としてMBA教育を提供しています。MBAの目的は、経営学の研究者を養成することではなく、未来を切り拓く次世代のビジネスリーダーを育成することにあります。RBSは、「ビジネスの創造」を掲げ、新たなビジネスアイデアや価値を生み出すための能力を身につけることを重視しています。授業方法には、レクチャーに加え、ケース教材を使用したディスカッションやグループワークが積極的に取り入れられています。また、ビジネス界との連携を通じ、最先端のビジネスに触れる機会が数多くあります。実務の一線で活躍する教員からは、実践的な知識やスキルを学びます。こうして、学生は、理論と実践の間を行き来しながら、思考力や創造力を磨いていきます。

経営管理専攻

ビジネスを創造するリーダーとして求められる能力を身につけるために、「新しい何か」を創る創造性を磨きます。

- マネジメントプログラム
対象:ビジネスパーソン
開講:大阪梅田キャンパス
- キャリア形成プログラム
対象:学部卒業生(留学生含む)
開講:大阪いばらきキャンパス

RBS

立命館大学
ビジネススクール

観光マネジメント専攻

観光産業の企業・団体等でビジネスを創造するリーダーとして求められる能力を身につけます。

- 観光事業マネジメントプログラム
対象:ビジネスパーソン
開講:大阪梅田キャンパス(オンライン受講可)
- 観光事業キャリア形成プログラム
対象:学部卒業生(留学生含む)
開講:大阪いばらきキャンパス



特色ある学び(演習科目)

課題研究(経営管理専攻)

それぞれの課題やテーマにフォーカスし、解決に向けた知的探求を行う演習科目が課題研究(ゼミ)です。RBSでの学びを通じて得た知識やスキル・能力、さらには自身のもつ創造性をフルに動員して、新事業・新製品開発に向けてのプラン策定、自社の第二の創業、業界への提言などに取り組みます。

リサーチプロジェクト(観光マネジメント専攻)

各自の研究課題やテーマについて調査・研究を行う演習科目がリサーチプロジェクト(ゼミ)です。観光産業における企業・団体等の経営、あるいは観光事業に関する課題を明らかにし、それをどう解決すべきかをレポートにまとめ、ビジネスの世界で直面する諸課題を創造的に解決する力を身につけていきます。

主な就職先 (経営管理専攻)

アクセンチュア株式会社/アビームコンサルティング株式会社/国税専門官/株式会社セガ/
株式会社大和総研/日本アイ・ピー・エム株式会社/株式会社博報堂/株式会社IHI/
株式会社みずほ銀行/パナソニック インダストリー株式会社/TDK株式会社 など



コースの紹介

市民的な感覚を備えながら、地球的な規模で考え行動する「地球市民法曹」の養成を目指します。

法学未修者コース(3年制)

法学既修者コース(2年制)

※各コースは入学試験時の入試方式(受験科目)で判断されます。
出身学部・学科とは関係ありません。

カリキュラムの特徴

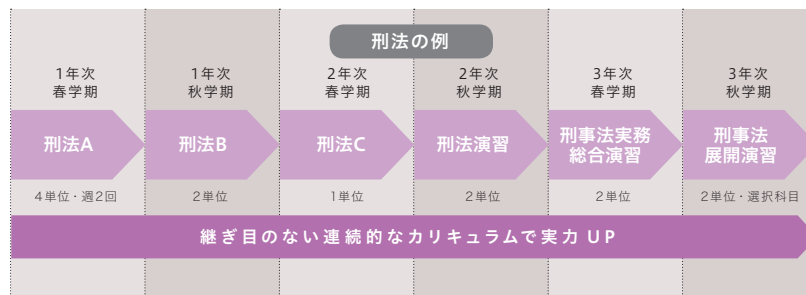
基本的な力を確実に身につけ、国際舞台でも地域社会でも活躍できる法曹を育成する充実のカリキュラム。

司法試験突破へ専念できるカリキュラム構成

法科大学院修了直前の3年次秋学期(既修者コースは2年次秋学期)は、最後の総仕上げで一番大切な時期。必修科目は配置されていないため、「民法展開演習」「刑事法展開演習」などの選択科目を受講し、自らの学習の進み具合に応じた学習ができます。

密度の高いカリキュラム

法曹となるための基本的な力を身につける「法律基本科目」では、主要3科目(憲法・民法・刑法)が1年次春学期から3年次春学期まで全セメスターに配置されています(未修者コースの場合)。更に選択科目を新たに設け、民法・刑法は3年次秋学期まで継続して受講できます。本研究科のカリキュラムは、既修者コース・未修者コースとも着実に実力をつけることができる構成になっています。



多様なニーズに応える潤沢な選択科目

司法試験選択科目に備えるだけでなく、法曹として将来の専門性を高めていくため、特に重要な8分野で各8単位分の授業を用意しています。断片的で自学自習に頼りがちなこれらの分野で、手厚いサポートを受けて学習することが可能です。

司法試験選択科目に対応する科目

- 環境法
- 経済法
- 租税法
- 労働法
- 倒産法
- 知的財産法
- 国際関係法(私法系)
- 国際関係法(公法系)

原則、講義4単位と演習4単位で構成、
いずれの科目も8単位分の授業を確保

法実務の現場を必ず体験(実習科目)

法曹として実際に活躍する現場を早い段階で体験することは、学習を進める上で大きな刺激になるばかりか、将来の進路希望を考える際にも非常に参考になります。また、実習を通じて実務家との人脈づくりにもつながります。

教員(弁護士)と共同で実際の法律相談を受け付ける「リーガルクリニックI」、女性や人権問題を専門に扱う「リーガルクリニックII(女性と人権)」、弁護士事務所・企業法務部・地方公共団体での研修「エクスターンシップ」を用意しています。このうち一つを必ず履修します。

実習科目(選択必修)

リーガルクリニックI

リーガルクリニックII
(女性と人権)

エクスターンシップ

法曹の
現場を体験

学習への刺激

将来の進路

苦手意識をもつ方が多い「訴訟法」分野を大幅強化

法務研究科のカリキュラムでは、苦手な方も多い「民事訴訟法」「刑事訴訟法」の学習を一層強化しています。「民事訴訟実務の基礎」「刑事訴訟実務の基礎」を開設し、それぞれ裁判官教員と検察官教員・弁護士教員が担当します。現職の実務家が担当することで、リアルな実務の流れに触れながら理解を深めることができます。また、学習が進んでいる方を対象に入学前に「履修免除試験(民事訴訟法・刑事訴訟法)」を実施します。

そのほか、「行政法」についても、「行政法演習I」「行政法演習II」を設置し、法科大学院入学後に確実に力がつくようにします。これに併せて入学試験では「行政法」試験を廃止しています。

充実した給付奨学金

法学未修者
コース合格者にも
S奨学金あり!

金額

S奨学金

年間授業料×2年連続給付*

A奨学金

年間授業料×1年間

B奨学金

60万円×1年間

*原級留置(留年)等にならない限り、2年目の
給付が約束されています。

期間

未修:最長3年間 既修:最長2年間

S奨学金・A奨学金・B奨学金給付後は、全学生を対象に前年度の成績により毎年成績優秀者に奨学金を給付します。



教職大学院とは

学校現場は、いじめや不登校などの複雑化・深刻化する教育課題への対応、「主体的・対話的で深い学び」を実現する新しい発想での授業の実施、グローバル化課題への対応など急速な変化の中にあります。このような状況で教員にはより一層の高い指導力、実践力が求められており、その力を高めていくのが今後の教員養成・現職研修の中核を担うとされている教職大学院です。

教職研究科(教職大学院)は、急速に変化する社会の中で、新しく求められる高度な教育実践を行い、学校現場の課題に柔軟に対応できるよう、教員としての総合的な力を身につけるための専門職大学院です。

立命館大学で教員免許を取得できるすべての学部や全国各地の国立・私立大学からの進学者、公立学校や本学附属校の現職教員など、多様なバックグラウンドをもつ院生同士の学び合いによって、教師としての力を高めていくことができます。



立命館大学大学院教職研究科の特長

教職研究科では、「理論と実践の往還」をキーワードにしています。長期実習や授業内でのフィールドワークを通して、理論の実践化と実践の理論化をはかる学修が展開されます。本学教職研究科は京都府、京都市、滋賀県、大阪府、大阪市の5教育委員会と連携しており、多彩な学校での実習やフィールドワークを経験することができます。

また、小学校、中学校、高等学校のどの学校種にも対応するカリキュラムを用意しています。さらに、「臨床教育」、「教育方法・学習科学」、「国際教育」の3コースを設定しており、入学後にいずれかのコースを選択し分野ごとの専門性を深めることができます。

教職研究科で取得可能な専修免許状

小学校教諭専修免許状

中学校教諭専修免許状

(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語、宗教)

高等学校教諭専修免許状

(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、書道、保健体育、家庭、情報、工業、商業、福祉、英語、宗教)

*専修免許状の取得には、一種免許状を取得していることが条件となります。

現職教員への支援～働きながらの学びをサポート～

長期履修制度－時間割の工夫とオンライン受講－

職業を有することにより、標準修業年限(2年)を超えて計画的に教育課程を履修することができる制度で、2年間の学費で3年または4年間で学ぶことができます。

長期履修制度を活用する現職教員院生のために、3年間で科目がローテーションし、3年に一度は必ず夜間時間帯に必修科目が開講される工夫をしています。長期履修制度活用者は、夜間時間帯の授業をオンラインで受講可能です(一部科目でのスクーリング含む)。またオンライン受講生には、図書館の図書を郵送貸出(無料)するサポートも実施しています。

「教職専門研修」の特例

一定期間の実務経験がある現職教員については、本人の申請と研究科での審査を経て、「教職専門研修」の一部の履修が免除されます。

利用しやすい学修環境

朱雀キャンパスは交通の便もよく、また「リサーチライブラリー」(図書館)は、日曜も9時から22時まで開館(大学の休暇期間を除く)、「院生自習室」や「教職研究科共同研究室」などの学修スペースも夜間時間帯まで利用できます。

学部新卒者への支援

学びながら働ける仕組み

教職大学院に在学する大学院生(学部新卒院生)が、大学院で学びながら公立学校(京都府、京都市、滋賀県、大阪市)の非常勤講師や立命館附属校の教職大学院生講師として、収入を得ながら教師としての実践力を高めることができる仕組みがあります。

他校種・他教科の免許取得

所定の手続きにて許可された方は、学部の授業を受講することで(履修料は不要)、立命館大学で取得可能な他校種・他教科の一種免許状の取得をめざすことができます。

日本学生支援機構奨学金返済免除制度

2024年度より、教職大学院修了の翌年度から正規教員(国公立)に採用された方への日本学生支援機構の奨学金返済免除制度(教職大学院在籍中の貸与のみ)が始まりました。

採用猶予制度を活用した進学

学部時代に教員採用試験に合格した方でも、多くの自治体が設けている採用猶予制度(採用候補者名簿登載期間の延長)を活用することで、教員採用試験合格の状態のまま、教職大学院に進学し、学修することができます。

学費について(参考:2025年度入学者適用)

2026年度の入学者に適用する学費および諸会費は、2025年6月頃に決定する予定です。以下は2025年度の入学者に適用する学費を参考として掲載しています。
なお、本学の学費は、入学金と授業料で構成されています。

■ 入学金

(単位:円)			
区 分	金 額		
入学、転入学	200,000		

※1 以下に該当する本学園出身者からは、入学金を徴収しません。
(1) 本大学または立命館アジア太平洋大学の学部を卒業または大学院を修了した者が、本大学院に入学する場合
(2) 本大学または立命館アジア太平洋大学の学部から引き続き本大学院に入学する場合
(3) 本大学または立命館アジア太平洋大学の博士課程に標準修業年限以上在学し、博士論文以外の修了要件を満たし退学した者が、本大学院に入学する場合
※2 入学金は入学年度のみ納入していただきます。

■ 2025年度入学者に適用する大学院授業料

注意：・ 社会的な情勢の急激な変化等、やむを得ない状況への対処として授業料の変更を行うことがあります。
・ 学費とあわせて、入学年度に諸会費の納入をお願いしています。詳細については、入学試験要項を参照してください。

〈4月入学〉	〈9月入学〉
春学期授業料：4月1日から9月25日の授業料	秋学期授業料：9月26日から3月31日の授業料
秋学期授業料：9月26日から3月31日の授業料	春学期授業料：4月1日から9月25日の授業料

※9月入学者が入学手続時に納入する授業料は、1年次秋学期授業料のみとなります。

【博士課程前期課程・修士課程】

研究科		区分	1回生	2回生
法学研究科		春学期	405,800	405,800
		秋学期	405,800	405,800
		計	811,600	811,600
経済学研究科	Master's Program in Economic Developmentを除く	春学期	405,800	405,800
		秋学期	405,800	405,800
		計	811,600	811,600
	Master's Program in Economic Development	春学期	487,000	487,000
		秋学期	487,000	487,000
		計	974,000	974,000
経営学研究科		春学期	405,800	405,800
		秋学期	405,800	405,800
		計	811,600	811,600
社会学研究科		春学期	405,800	405,800
		秋学期	405,800	405,800
		計	811,600	811,600
文学研究科	人文学専攻	春学期	405,800	405,800
		秋学期	405,800	405,800
		計	811,600	811,600
	行動文化情報学専攻	春学期	417,300	417,300
		秋学期	417,300	417,300
		計	834,600	834,600
理工学研究科	数理科学コースを除く	春学期	622,200	622,200
		秋学期	622,200	622,200
		計	1,244,400	1,244,400
	数理科学コース	春学期	581,600	581,600
		秋学期	581,600	581,600
		計	1,163,200	1,163,200
国際関係研究科	国際関係学プログラム	春学期	405,800	405,800
		秋学期	405,800	405,800
		計	811,600	811,600
	Global International Relations Program	春学期	487,000	487,000
		秋学期	487,000	487,000
		計	974,000	974,000
政策科学研究科		春学期	405,800	405,800
		秋学期	405,800	405,800
		計	811,600	811,600
言語教育情報研究科		春学期	432,800	432,800
		秋学期	432,800	432,800
		計	865,600	865,600

(単位:円)

研究科	区分	1回生	2回生
テクノロジー・マネジメント研究科	春学期	630,800	630,800
	秋学期	630,800	630,800
	計	1,261,600	1,261,600
スポーツ健康科学研究科	春学期	474,900	474,900
	秋学期	474,900	474,900
	計	949,800	949,800
映像研究科	春学期	651,800	651,800
	秋学期	651,800	651,800
	計	1,303,600	1,303,600
情報理工学研究科	春学期	615,300	615,300
	秋学期	615,300	615,300
	計	1,230,600	1,230,600
生命科学研究科	春学期	615,300	615,300
	秋学期	615,300	615,300
	計	1,230,600	1,230,600
人間科学研究科	春学期	459,900	459,900
	秋学期	459,900	459,900
	計	919,800	919,800
薬学研究科	春学期	615,300	615,300
	秋学期	615,300	615,300
	計	1,230,600	1,230,600
食マネジメント研究科	春学期	427,500	427,500
	秋学期	427,500	427,500
	計	855,000	855,000

※1 3回生以降は2回生の授業料と同額。

※2 回生に関わらず、在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は該当する回生の半額。

【博士課程後期課程】

(単位:円)

研究科	区分	1回生	2回生	3回生
全研究科	春学期	250,000	250,000	250,000
	秋学期	250,000	250,000	250,000
	計	500,000	500,000	500,000

※1 在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は上記の半額。

※2 ※1に関わらず、在学期間が標準修業年限を超え、大学院学則に定める各研究科の修了要件のうち、博士論文以外の要件を満たした者の授業料は学期につき100,000円。

【4年制博士課程】

(単位:円)

研究科	区分	1回生	2回生	3回生	4回生
薬学研究科	春学期	250,000	250,000	250,000	250,000
	秋学期	250,000	250,000	250,000	250,000
	計	500,000	500,000	500,000	500,000

※1 在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は上記の半額。

※2 ※1に関わらず、在学期間が標準修業年限を超え、大学院学則に定める各研究科の修了要件のうち、博士論文以外の要件を満たした者の授業料は学期につき100,000円。

【一貫制博士課程】

(単位:円)

研究科	区分	1回生	2回生	3回生	4回生	5回生
先端総合学術研究科	春学期	432,800	432,800	250,000	250,000	250,000
	秋学期	432,800	432,800	250,000	250,000	250,000
	計	865,600	865,600	500,000	500,000	500,000

※1 6回生以降は5回生の授業料と同額。

※2 回生に関わらず、在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は該当する回生の半額。

※3 ※1に関わらず、在学期間が標準修業年限を超え、大学院学則に定める各研究科の修了要件のうち、博士論文以外の要件を満たした者の授業料は学期につき100,000円。

【専門職学位課程】

(単位:円)

研究科	区分	1回生	2回生	3回生
法務研究科	春学期	707,300	707,300	707,300
	秋学期	707,300	707,300	707,300
	計	1,414,600	1,414,600	1,414,600
経営管理研究科	春学期	674,900	674,900	
	秋学期	674,900	674,900	
	計	1,349,800	1,349,800	
教職研究科	春学期	487,000	487,000	
	秋学期	487,000	487,000	
	計	974,000	974,000	

※1 在学期間が標準修業年限(法務研究科においては2年修了課程は2年、3年修了課程は3年)を超えた者の授業料は上記の半額。

CHECK IT

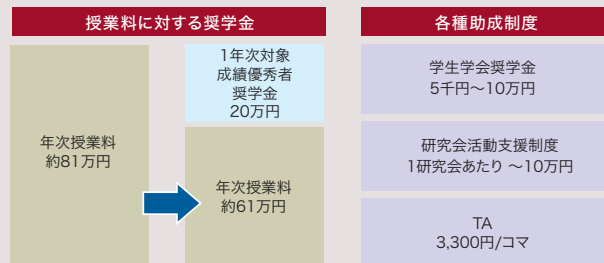
奨学金・助成制度の利用例(法学研究科の例)

本学では、授業料に関する奨学金に加えて研究活動に対する給付型の助成制度を多数取り揃えており(11ページ)、奨学金・助成制度は2人に1人が利用しています。以下は2025年度の法学研究科の例です。2026年度入学者に適用される制度は変更になる可能性があります。

博士課程前期課程1回生

■「1年次対象成績優秀者奨学金」を受給した場合

入学試験成績上位者に支給される「1年次対象成績優秀者奨学金」(20万円給付の場合)を受給した場合、授業料は約61万円となります。あわせて各種助成制度を利用することで、さらに経済的負担は軽減されます。



博士課程後期課程1回生

■「研究奨励奨学金A」を受給した場合

優秀な研究業績に応じて給付される「研究奨励奨学金」はA給付に該当すれば授業料相当額の奨学金が給付されるため、授業料は実質免除されます。また、各種助成制度も利用することができます。



■国や外部機関の奨学金および家計急変奨学金・教育ローン

以下奨学金等の詳細については、本学奨学金ウェブサイトを確認してください。(https://www.ritsumeai.ac.jp/scholarship/) また、内容が変更になる場合がありますので、必ず当該年度の募集要項を確認してください。

■日本学生支援機構貸与奨学金

対象	本学大学院に在学する者。ただし、留学生・標準修業年限を超えて在学する者を除く。
貸与額	- 博士課程前期課程、修士課程、専門職学位課程、一貫制博士課程1・2回生 - 博士課程後期課程、一貫制博士課程3～5回生、4年制博士課程 第一種(無利子): 月額5万円、8万8千円より選択 第二種(有利子): 月額5、8、10、13、15万円より選択 ※法務研究科の最高月額選択のみ増額可 授業料後払い制度(無利子): 授業料支援金 最大776,000円/年 生活費奨学金 月額0、2、4万円より選択 ※授業料後払い制度は予約採用のみでの受付となります(申請受付は大学院入学前年度の9月下旬～10月上旬)

※第一種奨学金・授業料後払い制度による貸与希望者は、修士課程(博士課程前期課程含む)および専門職学位課程進学予定者を対象に「特に優れた業績による返還免除」の内定制度あり(申請受付は11月頃)
※第一種奨学金・授業料後払い制度貸与者のみ「特に優れた業績による返還免除」の制度あり(申請受付は2月頃)

■民間財団、地方公共団体等の奨学金事業〈学校推薦群〉〈一般公募群〉

対象	本学大学院に入学予定の者、在学する者。
学校推薦群	給付型/募集時期: 1月下旬～2月中旬(一括募集)
一般公募群	給付型・貸与型/募集時期: 随時各財団の締切による(自由応募)

■家計に急変が生じた場合の奨学金

入学後に家計の急変が起きた場合の奨学金制度は、大学独自の制度や日本学生支援機構の制度があります。急変事由により出願要件が異なりますので、まずは学生オフィスへ相談してください。

■各種教育ローン

低金利で利用できる教育ローンを紹介しています。

- 日本政策金融公庫(国の教育ローン)
- 三井住友カード(C-Web学費ローン)
- オリコ(学費サポートプラン)
- 滋賀銀行(スピードローンジャストサポート提携型)

経済支援型奨学金
ウェブサイト



お問い合わせ先

■入学後のカリキュラム、研究内容、指導教員、出願書類に関するお問い合わせは…

研究科	事務室	連絡先
法学研究科	法学部・法学研究科事務室	075-465-8175 law@st.ritsumei.ac.jp
社会学研究科	産業社会学部・社会学研究科事務室	075-465-8184 shaken1@st.ritsumei.ac.jp
国際関係研究科	国際関係学部・国際関係研究科事務室	075-465-1211 ir-adm@st.ritsumei.ac.jp
文学研究科	文学部・文学研究科事務室	075-465-8187 letters@st.ritsumei.ac.jp
デザイン・アート学研究科	デザイン・アート学部・研究科設置準備事務室	075-466-3003 gsda@st.ritsumei.ac.jp
言語教育情報研究科	衣笠独立研究科事務室	075-465-8363
先端総合学術研究科		075-465-8348 doku-ken@st.ritsumei.ac.jp
経済学研究科	経済学部・経済学研究科事務室	077-561-3940 gs-ec@st.ritsumei.ac.jp
スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科事務室	077-561-3760 spoken3@st.ritsumei.ac.jp
食マネジメント研究科	食マネジメント学部・食マネジメント研究科事務室	077-561-4801 gs-rmbk@st.ritsumei.ac.jp
理工学研究科	理工学部・理工学研究科事務室	077-561-2624 rikou-in@st.ritsumei.ac.jp
生命科学研究科	生命科学部・生命科学研究科事務室	077-561-5021 in-gsls@st.ritsumei.ac.jp
薬学研究科	薬学部・薬学研究科事務室	077-561-2563 gsph@st.ritsumei.ac.jp
経営学研究科	経営学部・経営学研究科事務室	072-665-2090 gsba-1@st.ritsumei.ac.jp
政策科学研究科	政策科学部・政策科学研究科事務室	072-665-2080 gspas-adm@st.ritsumei.ac.jp
人間科学研究科	総合心理学部・人間科学研究科事務室	072-665-2190 sinri01@st.ritsumei.ac.jp
映像研究科	映像学部・映像研究科事務室	072-665-2071 rugseizo@st.ritsumei.ac.jp
情報理工学研究科	情報理工学部・情報理工学研究科事務室	072-665-2076 gsise@st.ritsumei.ac.jp
テクノロジー・マネジメント研究科	OIC独立研究科事務室	072-665-2100 motkoho@st.ritsumei.ac.jp
経営管理研究科		072-665-2101 rbs-ras@st.ritsumei.ac.jp
法務研究科	朱雀独立研究科事務室	075-813-8270 rits-ls@st.ritsumei.ac.jp
教職研究科		075-813-8269 kyoken-s@st.ritsumei.ac.jp

窓口時間(ご質問・ご相談は以下時間内にお願いいたします)
(月～金)10:00～11:30、12:30～17:00(下記一部研究科を除く)
(夏期・冬期・春期休暇中)13:00～17:00
※土日祝、大学の一意休業期間中は対応していません
※わいわく・くさつキャンパスの経済学研究科、スポーツ健康科学研究科、
食マネジメント研究科のみ窓口時間は9:00～17:00です(水曜日を除く)

■大学院全般、Rits-Mate操作に関するお問い合わせは…
 教学推進課 大学院入試担当
 075-465-8195 graduate-studies@st.ritsumei.ac.jp

MEMO

[illegible]

大学院入試 出願の流れ

STEP 1

入学したい研究科を決める

立命館大学大学院には、幅広い研究分野に対応する多数の研究科があります。
あなたが希望する研究分野を扱う研究科は、一つとは限りません。
まずは自身の研究分野の<キーワード>に関連する指導教員を【立命館大学研究者学術情報データベース】で検索し、
教員の所属する研究科の中から検討することをお勧めします。

POINT

- ・立命館大学研究者学術情報データベースで検索
<https://research-db.ritsumei.ac.jp/riithp/TOP>
出願前に希望する指導教員を決める研究科もあります。
入学試験要項で、各研究科の出願方法をご確認ください。



検索方法

- 1 興味を持っている研究
内容や分野について、
キーワードを入力して検索
- 2 検索したキーワードに関連する
研究を行っている教員の一覧が
表示されます。
キーワードがマッチしている
教員の名前をクリックしてください。
- 3 所属している研究科・研究テーマなど、
教員情報の詳細が表示されます。
各研究科のウェブサイトには、カリ
キュラムの特徴や教員などの情報が詳
しく紹介されています。候補の研究科
が決まったら、研究科ウェブサイトにも
アクセスしてください。

立命館大学 ○○研究科

検索

STEP 2

入学試験要項を確認する

研究科別の「入学試験要項」と、各研究科共通の注意事項を記載した「入学試験要項(研究科共通)」があります。
入学試験要項ダウンロードサイト <https://www.ritsumei.ac.jp/gr/exam/point.html/>

POINT

- ・入学時期をチェック
「4月入学」「9月入学」があり、研究科や入試方式などによって異なります。
- ・入学試験方式を検討
各研究科に、様々な入学試験方式があります。自身の条件にあった方式を検討してください。
- ・出願資格・出願書類の確認
出願資格を満たさない場合、事前の個別審査によって出願を認める場合があります。
出願資格をよく確認して、必要な場合は個別審査申出期限までに申出を行ってください。



よくある質問

Q. 事前に指導を希望する教員と連絡をとる必要がありますか？

A. 研究分野のミスマッチを避けるため、教員への事前相談を求めている研究科や入試方式がありますが、事前相談の可否は入学試験要項に記載しています。希望する研究科の入学試験要項をご確認ください。

Q. 指導を希望する教員と連絡をとりたいのですが。

A. 「立命館大学研究者学術情報データベース」や各種ウェブサイト上にメールアドレスを公開している教員については、相談事項を明確にしたうえで、連絡をとっていただくことができます。
公開されていない場合は、志望している研究科の事務室に問い合わせてください。なお、個別の問い合わせに応じていない教員や研究科もありますので、あらかじめご了承ください。

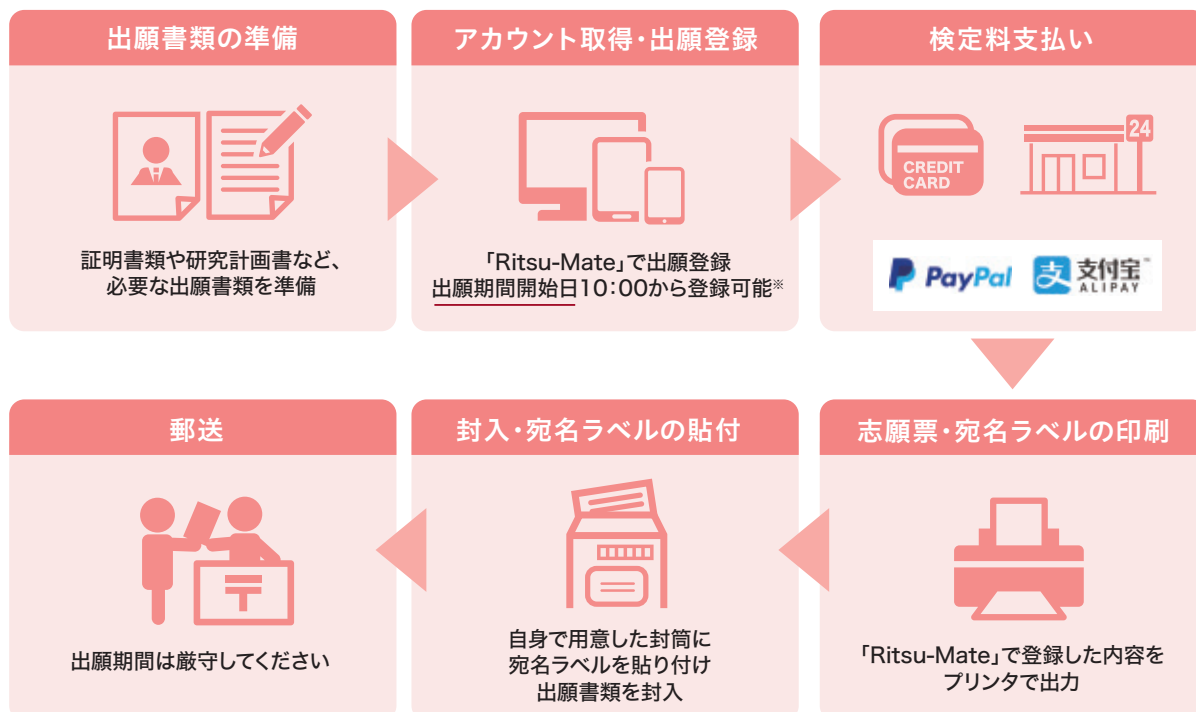
STEP 3

出願する

立命館大学大学院インターネット入学システム「Ritsu-Mate」(リツメイト)を使用します。 ※一部入学試験方式を除く



「Ritsu-Mate」



POINT

- ・アカウントは出願期間前でも取得できます。事前に取得しておくことをおすすめします。
- ・「Ritsu-Mate」の入力だけでは、出願手続は完了しません。
- ・研究科・入学試験方式によって一部上記と異なることがあります。各研究科の「入学試験要項(研究科別)」で確認してください。

STEP 4

受験準備～受験

「Ritsu-Mate」を使用して出願した場合、受験票は「Ritsu-Mate」からダウンロードできます。書類選考など、試験日設定の無い試験の場合も、受験票をダウンロードして受験番号を確認することができます。

POINT

- ・「Ritsu-Mate」を通じてお知らせが送信される場合があります。
- ・災害等により、「試験予備日」に入学試験を延期することがあります。

よくある質問

Q. 入学試験の過去問題は公開していますか？

A. 「立命館大学大学院 入試情報サイト」で、過去2年度分の入学試験問題を公開しています(一部、著作権等の理由により閲覧できない問題があります)。また、各研究科の事務室でも、当該研究科の過去問題を閲覧できます。

※持ち出し・複写はできません。

STEP 5

合格発表

合格発表日の10:00(日本時間)に「Ritsu-Mate」にログインし、可否結果を確認してください。

入学試験方式によって、上記と異なることがあります。

アクセス

(2025年3月現在)

各キャンパスへの
交通機関



衣笠CAMPUS



JR・近鉄 京都駅 (烏丸中央口)	市バス (京都駅前)	50	42分	立命館大学前(終点)
	快速立命館		36分	立命館大学前(キャンパス内)
	205		38分	衣笠校前 徒歩10分
阪 急 西院駅	JRバス (京都駅)	高雄・京北線	30分	立 命 館 大 学 前
	市バス (西大路四条)	205	13分	衣笠校前 徒歩10分
	快速立命館		15分	立命館大学前(キャンパス内)
市営地下鉄 西大路御池駅	市バス (西大路御池)	205	9分	衣笠校前 徒歩10分
	快速立命館		11分	立命館大学前(キャンパス内)
京 阪 三条駅	市バス (三条京阪前)	15	34分	立命館大学前(終点)
	59		40分	立 命 館 大 学 前
J R 円町駅	市バス (西ノ京円町)	15	10分	立命館大学前(終点)
	快速立命館		8分	立命館大学前(キャンパス内)
	204		5分	衣笠校前 徒歩10分
	205			
京福電鉄 等持院・立命館大学 衣笠キャンパス前駅			徒歩 6分	

立命館大学

びわこ・くさつ CAMPUS (BKC)



J R 大阪駅	J R 新快速 50分	J R 南草津駅	立命館大学行き または 立命館大学経由 松ヶ丘五丁目行き 県立長寿社会福祉センター行き	20分
J R 京都駅	J R 新快速 20分			
JR・近鉄 奈良駅	JR・近鉄(京都駅経由) 70分			
J R 三ノ宮駅	J R 新快速 70分			

立命館大学

大阪いばらき CAMPUS (OIC)



J R 大阪駅	J R 快速 14分	J R 茨木駅	徒歩 5分
J R 京都駅	J R 新快速 12分	J R 高槻駅	J R 快速 5分
J R 三ノ宮駅	J R 快速 41分		
阪 急 大阪梅田駅	阪急 準急 18分	阪 急 南茨木駅	徒歩10分
阪 急 京都河原町駅	阪急 特急 26分	阪急 茨木市駅	阪急 準急 2分
モノレール 門真市駅	14分	モノレール 南茨木駅	徒歩10分
モノレール 大阪空港駅	21分	モノレール 宇野辺駅	徒歩 7分

立命館大学

大阪梅田 CAMPUS (大阪富国生命 ビル5F・14F)

J R 大阪駅	J R南口 徒歩 5分
阪急・阪神 大阪梅田駅	阪急中央改札口／阪神東改札口 徒歩 5分／徒歩 3分
地下鉄御堂筋線 梅田駅	南改札口 徒歩 3分
地下鉄谷町線 東梅田駅	北東改札口 徒歩 1分

立命館大学

朱雀CAMPUS



JR・近鉄・地下鉄 京都駅	JRまたは地下鉄(烏丸御池乗換) 約10分	JR・地下鉄 二条駅	徒歩 2分
阪 急 大阪梅田駅	阪急 40分	阪 急 大宮駅	徒歩10分

立命館大学

キャンパスを結ぶシャトルバスも運行中 正課、また課外活動に参加する本学学生のために、衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス(BKC)、大阪いばらきキャンパス(OIC)を結ぶシャトルバスを運行しています。

アクセス方法の詳細は、上記QRコードを読み込みウェブサイトでご確認ください。

まずはウェブサイト、各種イベントで
立命館大学大学院のことを知ってください。

イベント 情報

立命館大学大学院への進学をお考えの方に向けて、
各種イベントを実施しています。是非ご参加ください。

●大学院進学説明会

研究科合同のイベントとして、春と秋に開催します。

- ◆実施内容・研究科紹介、研究指導体制、カリキュラム、入試等の説明。
直接研究科の教職員に相談ができる機会です。
また、現役の大学院生と懇談できる場合もあります。

(上記は予定であり、日程によって参加研究科や実施内容が異なります。詳細はウェブサイトでご確認ください。)

●研究科別入試説明会

研究科主催で個別説明会を実施します。
開催日程については、ウェブサイトをご確認ください。

●大学院ウィーク

各キャンパスにて「大学院」に関わる企画を集中した期間に実施します(大学院授業・施設見学、教員・修生・大学院生との懇談や相談会、大学院に関わるセミナーなど)。低回生にも大学院のことを知ってもらえる機会ですので、お気軽にご参加ください。日程や企画内容はウェブサイトでご確認ください(一部の企画は学内生に限る場合があります)。



ウェブ サイト

立命館大学大学院に関する情報について、「立命館大学大学院 入試情報サイト」から確認することができます。入学試験要項のダウンロードやインターネット入学システム「Ritsu-Mate」へのリンクの他、イベント情報、過去問題、教員情報等についても掲載しています。

入学試験要項
(出願書類)
過去の入試結果
過去問題

インターネット入学システム
「Ritsu-Mate」へのアクセス

大学院進学説明会
大学院ウィーク

研究科ウェブサイトへの
リンク

- ◆立命館大学
研究者学術情報データベース
こんな研究はどの研究科でできるの？
この先生はどの研究科？
などが調べられます。
- ・キーワード検索
- ・名前検索
- ・所属別一覧
- ・研究分野別一覧 など...

教員情報の検索



ウェブサイトの情報・構成は
変更されることがあります。
○2026年4月入学の入学試験要項は
2025年4月中旬公開予定です。
○2026年9月入学の入学試験要項は
2025年10月下旬公開予定です。

立命館大学 大学院 入試情報サイト

検索

URL : <https://www.ritsume.ac.jp/gr/>



大学院案内

立命館大学 大学院 入試情報サイト

検索



詳しい情報はウェブサイトをご覧ください。<https://www.ritsumeai.ac.jp/gr/>
本内容に掲載されている内容については、変更または中止される場合があります。

本誌におけるインタビュー記事およびメッセージ記事について、所属・役職、回生、教育組織・プログラム、活用した奨学金・支援制度名称等は取材当時または在学当時のものであり、現時点において最新の情報ではない場合があります。

